

- |   |        |         |       |   |
|---|--------|---------|-------|---|
| 1 | 灰黄褐色   | 10YR5/2 | 砂質土   | (1cm程度の礫を少量含む。)                             |
| 2 | にぶい黄褐色 | 10YR5/3 | 砂礫層   |   |
| 3 | にぶい黄褐色 | 10YR5/3 | 砂質土   | (5mm未満の礫を少量含む。)                             |
| 4 | にぶい黄褐色 | 10YR5/4 | 砂礫層   |   |
| 5 | 灰黄褐色   | 10YR4/2 | 粘性砂質土 | (少量のマンガン、土器片を含む。5mm未満の礫を少量含む。1~2cmの礫を微量含む。) |
| 6 | にぶい黄褐色 | 10YR4/3 | 粘性砂質土 | (マンガンを含む。5mm未満の礫を少量含む。)                     |
| 7 | 灰黄褐色   | 10YR5/2 | 砂礫層   | (3cm程度の礫を多量に含む。)                            |
| 8 | にぶい黄褐色 | 10YR6/3 | 粘性砂質土 |   |
| 9 | にぶい黄色  | 2.5Y6/3 | 粘性砂質土 |   |

第527図 SA1013平・断面図 (S=1/80)

#### 掘立柱建物跡 (SA1013)

位置 Loc.D 2・δ II・mn 8~10 床面積 23.5m<sup>2</sup> 主軸方向 N-12°-W

柱穴 6基 (径50~70cm、深さ20~40cm)

土層 覆土は各柱穴ごとに2~7層に分かれ、黄褐色系の粘性砂質土を主体とする。一部の柱穴では土器片を含む。

柱穴間距離 最大 380cm 最小 180cm 梁間 (420)cm 桁行 (560)cm

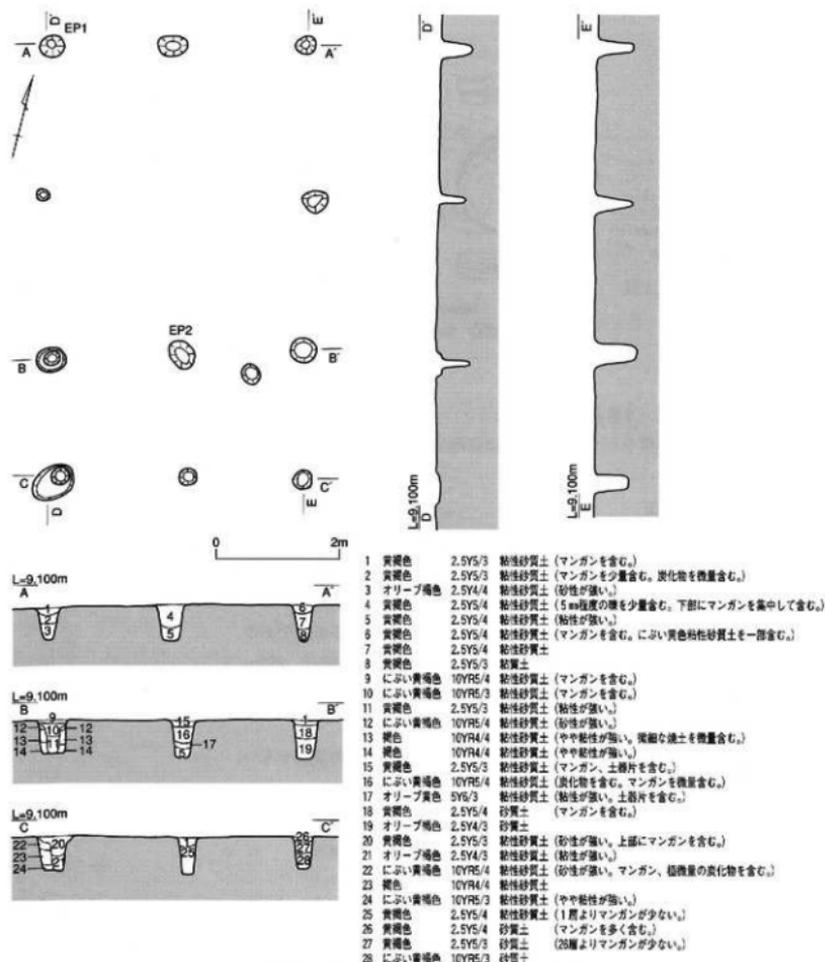
遺物出土状況 土器片数点が出土しているが、図示できる遺物は出土していない。

時期 古代 (平安時代) である。

備考 南西部分は柱穴の深さが浅いため、未検出の柱穴があると考えられる。検出できた柱穴は2間×2間の規模をもつ。

#### 掘立柱建物跡 (SA1014)

位置 Loc.D 2・δ II・nop12~13 床面積 29.1m<sup>2</sup> 主軸方向 N-13°-W



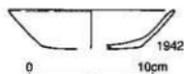
第528図 SA1014平・断面図 (S=1/80)

柱穴 12基 (径20~80cm、深さ60~70cm)

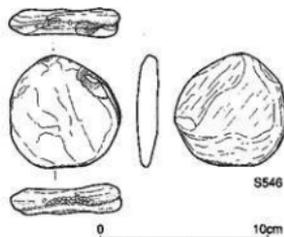
土層 覆土は各柱穴ごとに2~9層に分かれ、黄褐色系の粘性砂質土を主体とする。一部の柱穴では土器片、炭化物、焼土を含む。断面観察により、柱痕が確認できるものがある。

柱穴間距離 最大 270cm 最小 190cm 梁間 410cm 桁行 710cm

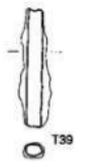
遺物出土状況 土器片数点と石器が出土している。そのうち図示できた遺物は、EP1出土の礫石とEP2出土の土師器杯である。



第529図 SA1014出土土器



第530図 SA1014出土土器



第531図 SA1015出土鉄器

時代 古代（平安時代（9世紀前半））である。

備考 2間×3間の規模をもつ。南側1間は此部分と考えられる。

#### 掘立柱建物跡（SA1015）

位置 Loc.D 2・8Ⅱ・opq 9～11 床面積 40.8m<sup>2</sup> 主軸方向 N-78°-E

柱穴 15基（径40～80cm、深さ50～70cm）

土層 覆土は各柱穴ごとに5～13層に分かれ、黄褐色系の粘性砂質土を主体とする。一部の柱穴では土器片、鉄器、炭化物を含む。断面観察により、柱痕が確認できるものがある。

柱穴間距離 最大 240cm 最小 160cm 梁間 480cm 桁行 850cm

遺物出土状況 土器片数点と鉄器が出土している。図示できる遺物は、EP1出土の鉄片1点である。

時期 古代（平安時代）である。

備考 一部未検出の柱穴が存在すると考えられる。2間×5間の規模をもつ。

#### 掘立柱建物跡（SA1016）

位置 Loc.D 2・8Ⅱ・pqrs13 床面積 不明 主軸方向 N-7°-W

柱穴 8基（径40～90cm、深さ25～70cm）

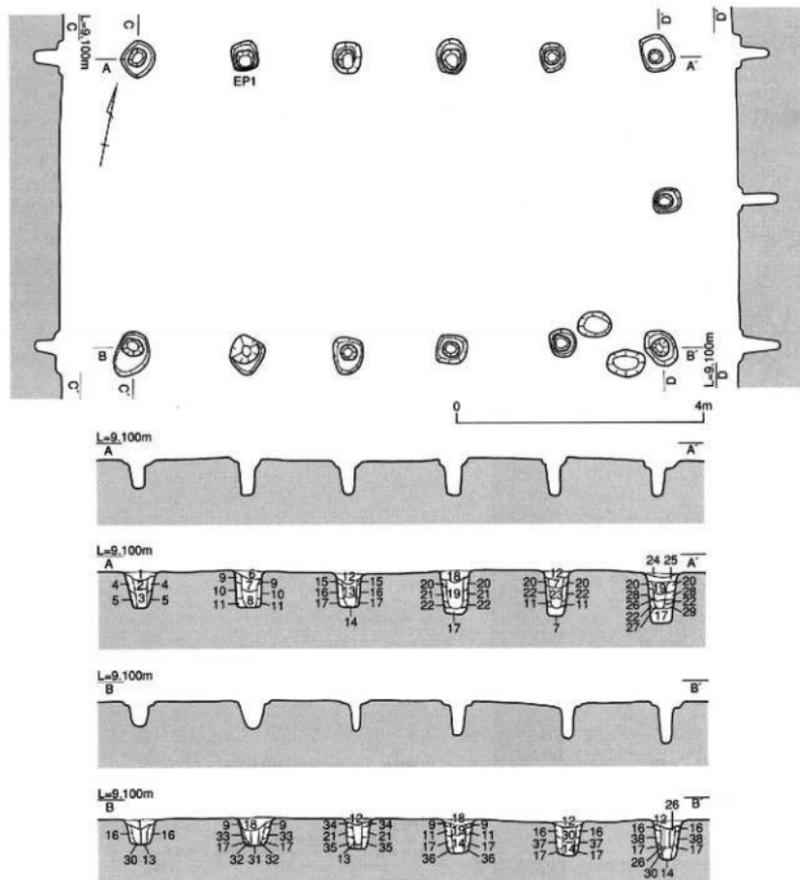
土層 覆土は各柱穴ごとに1～5層に分かれ、黄褐色系の粘性砂質土を主体とする。一部の柱穴では土器片、炭化物を含む。断面観察により、柱痕が確認できるものがある。

柱穴間距離 最大 330cm 最小 170cm 梁間 不明 桁行 (1500)cm

遺物出土状況 土器片数点が出土しているが、図示できる遺物は出土していない。

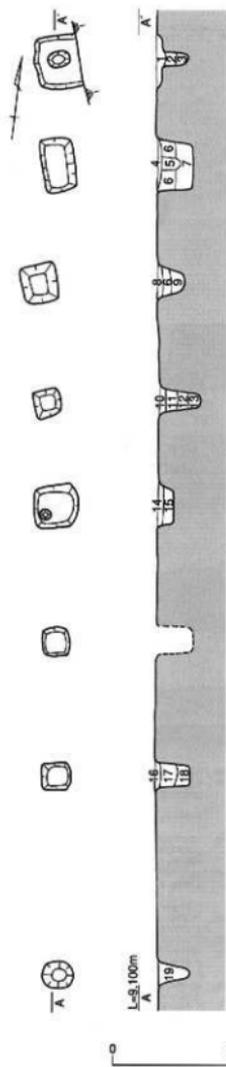
時期 古代（平安時代）である。

備考 遺構の東部の柱穴は調査区外のため未検出である。桁行は7間が確認できるが、単一の建物ではない可能性がある。



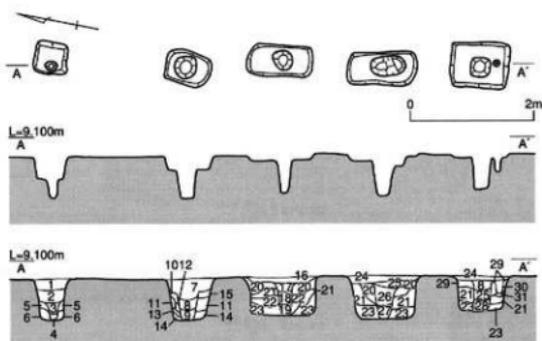
1	にがい黄褐色	10YR4/3	粘性砂質土 (マンガンを含む。5cm未満~2cm程度の礫を多く含む。)	16	オリブ褐色	2.5Y/6	粘性砂質土
2	オリブ褐色	2.5Y/4/3	粘性砂質土 (マンガンを含む。)	17	オリブ褐色	2.5Y/4	粘性砂質土
3	黄褐色	2.5Y/3	砂 (5mm~2cm程度の礫を全面に多く含む。)	18	黄褐色	2.5Y/5/3	粘性砂質土 (マンガンを含量含む。5cm未満の礫を少量含む。)
4	黄褐色	2.5Y/5/3	粘性砂質土 (砂質は非常に多いが砂粒はシラト状で、2mm~5cm程度の礫を全面に多く含む。粘着性の塊状土質片を含む。)	19	黄褐色	2.5Y/5/4	粘性砂質土 (マンガンを含量含む。15cm程度の礫を含む。)
5	暗オリブ褐色	2.5Y3/3	砂 (砂粒が粗く、2mm~5cm程度の礫を全面に多く含む。)	20	にがい黄褐色	10YR4/3	粘性砂質土 (砂質が強い。)
6	黄褐色	2.5Y/5/4	粘性砂質土 (マンガン、炭化物を微量含む。鏡片を含む。)	21	褐色	10YR4/4	粘性砂質土 (炭化物を含む。)
7	にがい黄褐色	10YR4/3	粘性砂質土 (マンガン、炭化物を微量含む。5cm未満の礫を少量含む。にがい黄色粘性砂質土を少量含む。)	22	褐色	10YR4/4	粘性砂質土 (やや粘性があり。炭化物を含む。)
8	黄褐色	2.5Y/5/4	粘性砂質土 (粘性が強い。5cm程度の礫を含む。にがい黄色粘性砂質土を少量含む。)	23	にがい黄褐色	10YR5/4	粘質土
9	黄褐色	2.5Y/5/4	粘性砂質土 (砂質が強い。)	24	黄褐色	2.5Y/5/3	粘性砂質土 (マンガンを上部に含む。2cm程度の礫を含む。)
10	褐色	10YR4/4	粘性砂質土 (やや粘性がある。上部に灰黄色粘性砂質土を少量含む。下部は粘性が強い。)	25	にがい黄色	2.5Y/6/4	粘性砂質土 (マンガンを含む。)
11	オリブ褐色	2.5Y/4/3	粘性砂質土 (粘性が強い。)	26	にがい黄褐色	10YR5/4	粘性砂質土 (粘性がやや強い。)
12	黄褐色	2.5Y/3	粘性砂質土 (マンガン上部に含む。土器片を含む。5cm未満の礫を少量含む。)	27	黄褐色	2.5Y/5/4	粘性砂質土 (粘性が強い。)
13	黄褐色	2.5Y/5/3	粘性砂質土 (粘性が強い。マンガンを含む。下部ににがい黄色粘性砂質土を含む。)	28	オリブ褐色	2.5Y/4/3	粘性砂質土 (粘性が強い。)
14	にがい黄色	2.5Y/6/3	粘質土	29	にがい黄褐色	10YR4/3	粘性砂質土 (マンガンを含む。)
15	黄褐色	2.5Y/5/3	粘性砂質土	30	黄褐色	2.5Y/5/4	粘性砂質土 (黄褐色粘性砂質土を一部含む。)
				31	黄褐色	2.5Y/5/3	粘性砂質土 (粘性がやや強い。)
				32	にがい黄褐色	10YR4/3	粘性砂質土 (粘性がやや強い。)
				33	黄褐色	2.5Y/5/4	粘性砂質土 (粘性が強い。)
				34	明黄褐色	2.5Y/6/3	粘性砂質土 (5mm~2cm程度の礫を少量含む。)
				35	黄褐色	10YR5/5	粘性砂質土 (粘性がやや強い。)
				36	オリブ褐色	2.5Y/4/3	粘性砂質土 (粘性が強い。)
				37	オリブ褐色	2.5Y/4/4	粘性砂質土 (粘性を含む。)
				38	オリブ褐色	2.5Y/4/6	粘性砂質土 (粘性の強いオリブ褐色粘性砂質土を一部含む。)

第532図 SA1015平・断面図 (S=1/80)



- 1 灰黄褐色 10YR4/2 粘性砂質土  
(マンガンを含む。炭化物、土団粒を少量含む。)
- 2 にぶい黄褐色 10YR5/3 粘性砂質土  
(マンガンを含む。炭化物を少量含む。にぶい黄褐色粘性砂質土を少量含む。)
- 3 にぶい黄褐色 10YR5/4 粘性砂質土  
(粘性が強い。マンガンを含む。炭化物を部分的に多く含む。)
- 4 暗灰黄色 2.5Y5/2 粘性砂質土  
(マンガンを含む。炭化物、土団粒を少量含む。)
- 5 にぶい黄色 2.5Y6/3 砂質土 (マンガンを含む。)
- 6 にぶい黄褐色 10YR5/3 砂質土 (マンガンを含む。)
- 7 にぶい黄褐色 10YR5/4 粘性砂質土  
(マンガンを多量に含む。暗灰黄色粘性砂質土を含む。)
- 8 黄褐色 2.5Y5/3 砂質土  
(マンガンを含む。にぶい黄色砂質土を多量に含む。)
- 9 黄褐色 2.5Y5/4 砂質土 (マンガンを少量含む。)
- 10 黄褐色 2.5Y5/4 砂質土  
(マンガンを含む。炭化物を少量含む。)
- 11 黄褐色 2.5Y5/3 砂質土 (粘性がやや強い。)
- 12 黄褐色 2.5Y5/4 砂質土 (粘性がやや強い。)
- 13 オリーブ褐色 2.5Y4/4 砂質土
- 14 黄褐色 2.5Y5/3 砂質土 (マンガンを含む。)
- 15 オリーブ褐色 2.5Y4/3 砂質土 (マンガンを含む。)
- 16 にぶい黄褐色 2.5Y6/4 粘性砂質土 (マンガンを含む。)
- 17 黄褐色 2.5Y5/3 粘性砂質土 (マンガンを含む。)
- 18 黄褐色 2.5Y5/3 粘性砂質土  
(粘性が強い。マンガンを含む。)
- 19 黄褐色 2.5Y5/4 粘性砂質土  
(マンガンを全面に含む。にぶい黄色粘性砂質土を少量含む。)

第533図 SA1016平・断面図 (S=1/80)



- |    |        |         |  |
|----|--------|---------|--|
| 1  | にぶい黄褐色 | 10YR5/3 | 粘性砂質土 (粘性が弱く、土粒較、マンガンを含む。)                     |
| 2  | 黄褐色    | 2.5Y5/4 | 粘性砂質土 (マンガンを含む。炭化物を微量含む。)                      |
| 3  | にぶい黄褐色 | 10YR5/3 | 粘性砂質土 (粘性が強い。土器較を含む。炭化物を微量含む。)                 |
| 4  | 黄褐色    | 2.5Y5/4 | 粘性砂質土 (粘性が強い。)                                 |
| 5  | 黄褐色    | 2.5Y5/4 | 粘性砂質土 (マンガンを含む。にぶい黄褐色粘性砂質土をブロック状に含む。)          |
| 6  | 黄褐色    | 2.5Y5/4 | 粘性砂質土 (粘性がやや強く、炭化物を含む。)                        |
| 7  | にぶい黄褐色 | 10YR5/3 | 粘性砂質土 (マンガンを含む。灰黄褐色粘性砂質土を少量含む。)                |
| 8  | にぶい黄褐色 | 10YR5/3 | 粘性砂質土 (マンガンを含む。)                               |
| 9  | にぶい黄褐色 | 10YR5/3 | 粘性砂質土 (マンガンを多量に含む。)                            |
| 10 | にぶい黄褐色 | 10YR4/3 | 粘性砂質土 (炭化物、焼土を多量に含む。)                          |
| 11 | にぶい黄褐色 | 10YR5/4 | 粘性砂質土  |
| 12 | にぶい黄褐色 | 10YR5/4 | 粘性砂質土 (炭化物、焼土を多量に含む。)                          |
| 13 | にぶい黄褐色 | 10YR4/3 | 粘性砂質土 (炭化物、焼土を多量に含む。)                          |
| 14 | にぶい黄褐色 | 10YR4/4 | 粘性砂質土 (15層より粒子が細かい。やや粘性が強い。)                   |
| 15 | にぶい黄褐色 | 10YR4/4 | 粘性砂質土 (やや粘性が強い。)                               |
| 16 | 灰黄褐色   | 10YR4/2 | 粘性砂質土 (マンガン、土器片、土器較を含む。)                       |
| 17 | 灰黄褐色   | 10YR5/2 | 粘性砂質土 (にぶい黄褐色粘性砂質土をモザイク状に含む。マンガンを含む。炭化物を少量含む。) |
| 18 | にぶい黄褐色 | 10YR4/3 | 粘性砂質土  |
| 19 | にぶい黄褐色 | 10YR5/3 | 粘性砂質土 (粘性が強い。)                                 |
| 20 | 灰黄褐色   | 10YR4/2 | 粘性砂質土 (黄褐色粘性砂質土を含む。)                           |
| 21 | 黄褐色    | 2.5Y5/4 | 粘性砂質土 (マンガンを含む。灰黄褐色粘性砂質土を一部含む。)                |
| 22 | 黄褐色    | 2.5Y5/4 | 粘性砂質土 (マンガンを含む。)                               |
| 23 | オリーブ褐色 | 2.5Y4/4 | 粘性砂質土 (下部は粘性がやや強い。)                            |
| 24 | 灰黄褐色   | 10YR5/2 | 粘性砂質土 (マンガンを含む。灰黄褐色粘性砂質土を含む。)                  |
| 25 | 黄褐色    | 2.5Y5/3 | 粘性砂質土 (マンガン、炭化物を少量含む。)                         |
| 26 | 暗灰黄色   | 2.5Y5/2 | 粘性砂質土 (マンガン、炭化物、2mm程度の礫を少量含む。土器片を含む。)          |
| 27 | 灰黄褐色   | 10YR5/2 | 粘性砂質土 (マンガンを多量に含む。)                            |
| 28 | 暗灰黄色   | 2.5Y5/2 | 粘性砂質土 (下部は粘性がやや強い。)                            |
| 29 | にぶい黄色  | 2.5Y6/4 | 粘性砂質土 (浅黄色砂質土を帯状に含む。)                          |
| 30 | 灰黄褐色   | 10YR4/2 | 粘性砂質土 (炭化物、焼土を含む。)                             |
| 31 | にぶい黄色  | 2.5Y6/4 | 粘性砂質土  |

第534図 SA1017平・断面図 (S=1/80)

### 独立柱建物跡 (SA1017)

位置 Loc.D 2・8 II・rst12~13 床面積 不明 主軸方向 N-10° -W

柱穴 5基 (径50~115cm、深さ60~70cm)

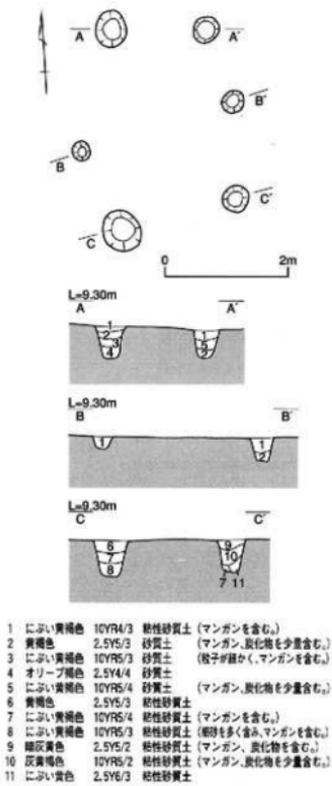
土層 覆土は各柱穴ごとに8~12層に分かれ、黄褐色系の粘性砂質土を主体とする。一部の柱穴では土器片、炭化物、焼土を含む。断面観察により、柱痕が確認できるものがある。

柱穴間距離 最大 220cm 最小 160cm 梁間 不明 桁行 (700)cm

遺物出土状況 土器片数点が出土しているが、図示できる遺物は出土していない。

時期 古代 (平安時代) である。

備考 遺構の東部の柱穴は調査区外のため未検出である。桁行4間が確認できる。



第535図 SA1018平・断面図 (S=1/80)

掘立柱建物跡 (SA1018)

位置 Loc.D 2・δ II・s 9-10 床面積 7.0㎡ 主軸方向 N-4° -W

柱穴 6基 (径30~70cm、深さ20~60cm)

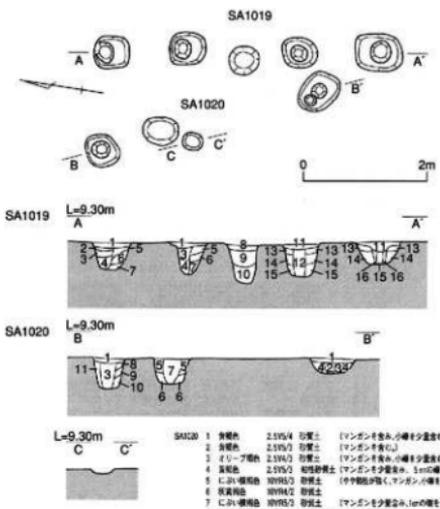
土層 覆土は各柱穴ごとに1~4層に分かれ、黄褐色系の粘性砂質土を主体とする。一部の柱穴では、炭化物を含む。

柱穴間距離 最大 160cm 最小 120cm 梁間 160cm 桁行 340cm

遺物出土状況 土器片数点が出土しているが、図示できる遺物は出土していない。

時期 古代 (平安時代) である。

備考 やや不整形であるが、1間×2間の規模をもつ。第2遺構面のSX2008を切り込んで柱穴が掘られていることから第1遺構面としているが、出土した土器片は弥生式土器であるため、SX2008に付属する遺構である可能性がある。



L=9.30m	SA1020 1	黄褐色	2.5Y5/4	砂質土	(マンガンを含む、小礫を少量含む)
	2	黄褐色	2.5Y5/3	砂質土	(マンガンを含む)
	3	オリーブ褐色	2.5Y4/2	砂質土	(マンガンを含む、小礫を少量含む)
	4	黄褐色	2.5Y5/2	粘性砂質土	(マンガン少量含む、1cm礫を含む)
	5	に近い黄褐色	10YR5/3	砂質土	(砂中礫が細く、マンガン少量含む)
	6	黄褐色	10YR5/4	砂質土	(マンガン少量含む、1cm礫を含む)
	7	に近い黄褐色	10YR5/3	砂質土	(マンガン少量含む、1cm礫を含む)
	8	に近い黄褐色	2.5Y5/4	粘性砂質土	(マンガンを含む)
	9	黄褐色	2.5Y5/4	粘性砂質土	
	10	黄褐色	2.5Y5/3	粘性砂質土	(14層より礫が混入)
	11	オリーブ褐色	2.5Y4/2	粘性砂質土	
	SA1019 1	に近い黄褐色	10YR5/3	砂質土	(マンガンを含む)
	2	に近い黄褐色	10YR5/3	砂質土	(マンガン、炭化物を含む)
	3	に近い黄褐色	10YR5/3	砂質土	
	4	に近い黄褐色	10YR4/3	砂質土	(砂中礫が混入)
	5	黄褐色	2.5Y5/4	粘性砂質土	
	6	黄褐色	2.5Y5/4	粘性砂質土	(マンガン、炭化物を含む)
	7	オリーブ褐色	2.5Y4/2	砂質土	(マンガン少量含む)
	8	黄褐色	2.5Y5/3	砂質土	(マンガン少量含む)
	9	に近い黄褐色	10YR5/3	砂質土	(マンガン少量含む)
	10	オリーブ褐色	2.5Y4/2	砂質土	
	11	黄褐色	2.5Y5/3	砂質土	(マンガンを含む)
	12	黄褐色	2.5Y5/3	砂質土	
	13	黄褐色	2.5Y5/4	砂質土	(マンガンを含む)
	14	に近い黄褐色	10YR5/4	粘性砂質土	(マンガン少量含む、1cm礫を含む)
	15	緑色	10YR4/4	粘性砂質土	(砂中礫が混入)
	16	に近い黄褐色	10YR5/4	砂質土	(砂中礫が混入)

第536図 SA1019・SA1020平・断面図 (S=1/80)

#### 掘立柱建物跡 (SA1019)

位置 Loc.D 2・8 II・qr 9 床面積 不明 主軸方向 N-8° -W

柱穴 5基 (径30~70cm、深さ20~60cm)

土層 覆土は各柱穴ごとに3~8層に分かれ、黄褐色系の粘性砂質土を主体とする。一部の柱穴では炭化物を含む。断面観察により柱痕が確認できるものがある。

柱穴間距離 最大 130cm 最小 90cm 梁間 不明 桁行 (450)cm

遺物出土状況 遺物は出土していない。

時期 古代 (平安時代) である。

備考 柱穴の深さが浅く未検出のものがある。1間×4間程度の規模をもつと推定される。

#### 掘立柱建物跡 (SA1020)

位置 Loc.D 2・8 II・r 8~9 床面積 不明 主軸方向 N-23° -W

柱穴 4基 (径30~70cm、深さ25~50cm)

土層 覆土は各柱穴ごとに5~6層に分かれ、黄褐色系の粘性砂質土を主体とする。一部の柱穴では、炭化物を含む。断面観察により柱痕が確認できるものがある。

柱穴間距離 最大 270cm 最小 100cm 梁間 不明 桁行 (360)cm

遺物出土状況 遺物は出土していない。

時期 古代 (平安時代) である。

備考 柱穴の深さが浅く未検出のものがある。1間×3間程度の規模をもつと考えられる。

#### 掘立柱建物跡 (SA1021)

位置 Loc.D 2・8 II・rs 7~8 床面積 8.0m<sup>2</sup> 主軸方向 N-10° -W

柱穴 9基 (径40~100cm、深さ50~65cm)

土層 覆土は各柱穴ごとに2~11層に分かれ、黄褐色系の粘性砂質土を主体とする。

柱穴間距離 最大 190cm 最小 120cm 梁間 190cm 桁行 420cm

遺物出土状況 遺物は出土していない。

時期 古代 (平安時代) である。

備考 1間×3間の規模をもつ。

#### 掘立柱建物跡 (SA1022)

位置 Loc.D 2・8e II・tab 8~9 床面積 40.9m<sup>2</sup> 主軸方向 N-6° -W

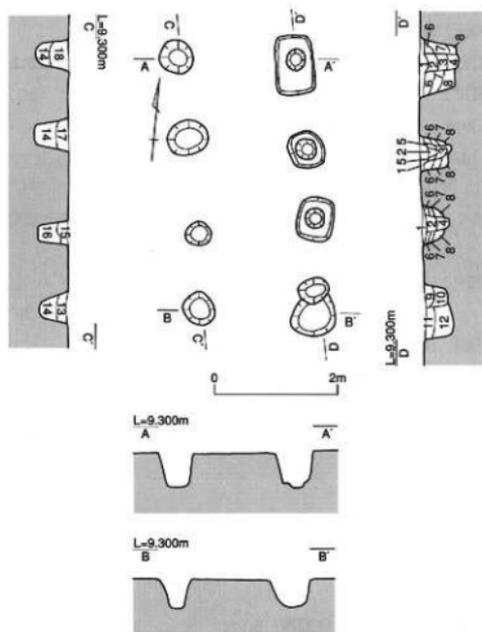
柱穴 15基 (径25~120cm、深さ45~60cm)

土層 覆土は各柱穴ごとに3~5層に分かれ、黄褐色系の粘性砂質土を主体とする。一部の柱穴では土器片、炭化物を含む。

柱穴間距離 最大 230cm 最小 160cm 梁間 470cm 桁行 870cm

遺物出土状況 土器片数点が出土している。図示できる遺物は、EP 1出土の甕・土師器杯、EP 2出土の土師器皿、EP 3出土の須恵器蓋の4点である。

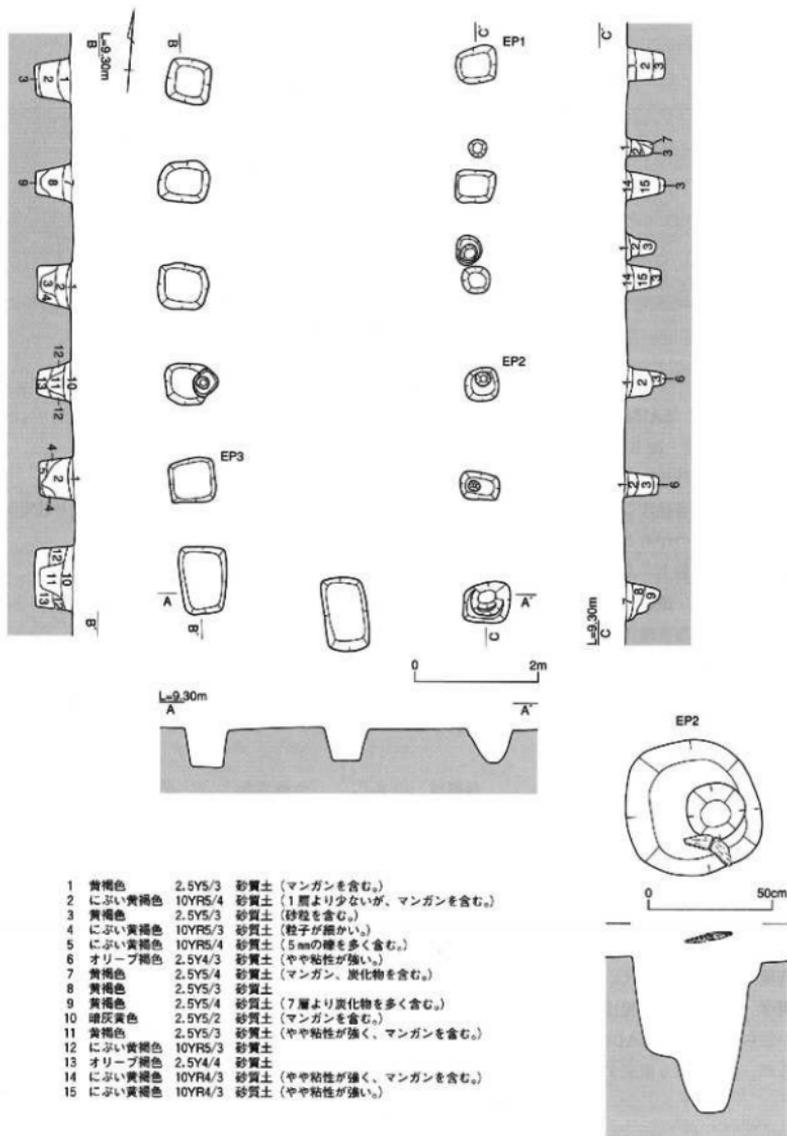
時期 古代 (奈良時代 (8世紀後半)) である。



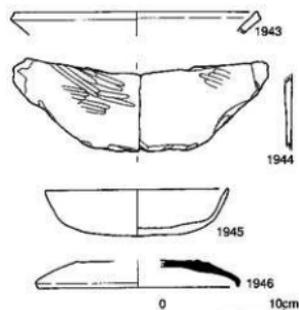
- |           |   |
|-----------|---|
| 1 灰黄褐色    | 10YR4/2 粘性砂質土                           |
| 2 灰黄褐色    | 10YR4/2 粘性砂質土 (1層より1cm未満の礫を多く含む。)       |
| 3 灰黄褐色    | 10YR4/2 粘性砂質土 (2層より粘性が強い。)              |
| 4 灰黄褐色    | 10YR5/2 砂礫層                             |
| 5 にぶい黄褐色  | 10YR5/3 粘性砂質土 (マンガンを少量含む。)              |
| 6 地オリーブ褐色 | 2.5Y3/3 粘性砂質土 (砂質がやや強く、0.5~4cmの礫を含む。)   |
| 7 にぶい黄褐色  | 10YR4/3 粘性砂質土 (6層よりも少ないが、0.5~4cmの礫を含む。) |
| 8 暗褐色     | 10YR3/3 砂礫層                             |
| 9 暗色      | 10YR4/4 粘性砂質土 (マンガンを含み、数mmの礫を多量に含む。)    |
| 10 暗褐色    | 10YR5/2 粘性砂質土 (マンガン、2~3cmの礫を多量に含む。)     |
| 11 にぶい黄褐色 | 10YR5/3 粘性砂質土                           |
| 12 にぶい黄褐色 | 10YR4/3 粘性砂質土 (マンガンを含み、数mmの礫を少量含む。)     |
| 13 にぶい黄褐色 | 10YR5/3 砂質土                             |
| 14 にぶい黄褐色 | 10YR5/3 砂礫層                             |
| 15 にぶい黄褐色 | 10YR5/4 砂質土 (1cmの礫を多量に含む。)              |
| 16 にぶい黄褐色 | 10YR5/4 砂礫層                             |
| 17 灰黄褐色   | 10YR4/2 砂質土 (マンガン、1~3cmの礫を多量に含む。)       |
| 18 にぶい黄褐色 | 10YR4/3 粘性砂質土 (マンガンを含み、1cmの礫を少量含む。)     |

第537図 SA1021平・断面図 (S=1/80)

備考 北側の柱穴は一部削平のため未検出である。2間×5間の規模をもつ。SA1023と重複する。柱穴の切り合いから先後関係はSA1023→SA1022となる。



第538図 SA1022平・断面図、EP2遺物出土状況図 (S=1/20)



第539図 SA1022出土土器

掘立柱建物跡 (SA1023)

位置 Loc.D 2・8e II・tab 8～9 床面積 34.7m<sup>2</sup> 主軸方向 N-10° -W

柱穴 10基 (径70～120cm、深さ70～80cm)

土層 覆土は各柱穴ごとに6～18層に分かれ、黄褐色系の砂質土を主体とする。断面観察により柱痕が確認できるものがある。

柱穴間距離 最大 260cm 最小 220cm 梁間 450cm 桁行 770cm

遺物出土状況 遺物は出土していない。

時期 古代 (奈良時代) である。

備考 2間×3間の規模をもつ。SA1022と重複する。柱穴の切り合いから先後関係はSA1023→SA1022となる。

掘立柱建物跡 (SA1024)

位置 Loc.D 2・e II・cd10～11 床面積 40.8m<sup>2</sup> 主軸方向 N-10° -W

柱穴 13基 (径45～120cm、深さ25～60cm)

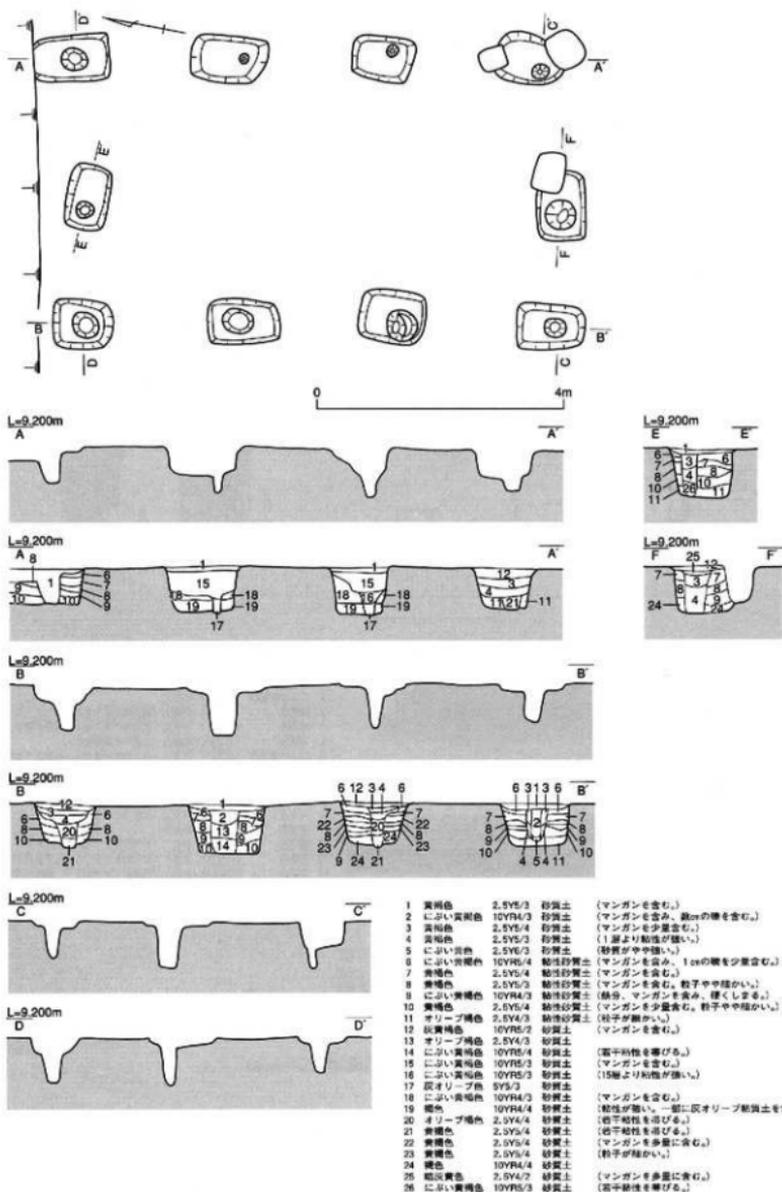
土層 覆土は各柱穴ごとに2～5層に分かれ、黄褐色系の砂質土を主体とする。一部柱穴では、炭化物を含む。

柱穴間距離 最大 240cm 最小 180cm 梁間 600cm 桁行 680cm

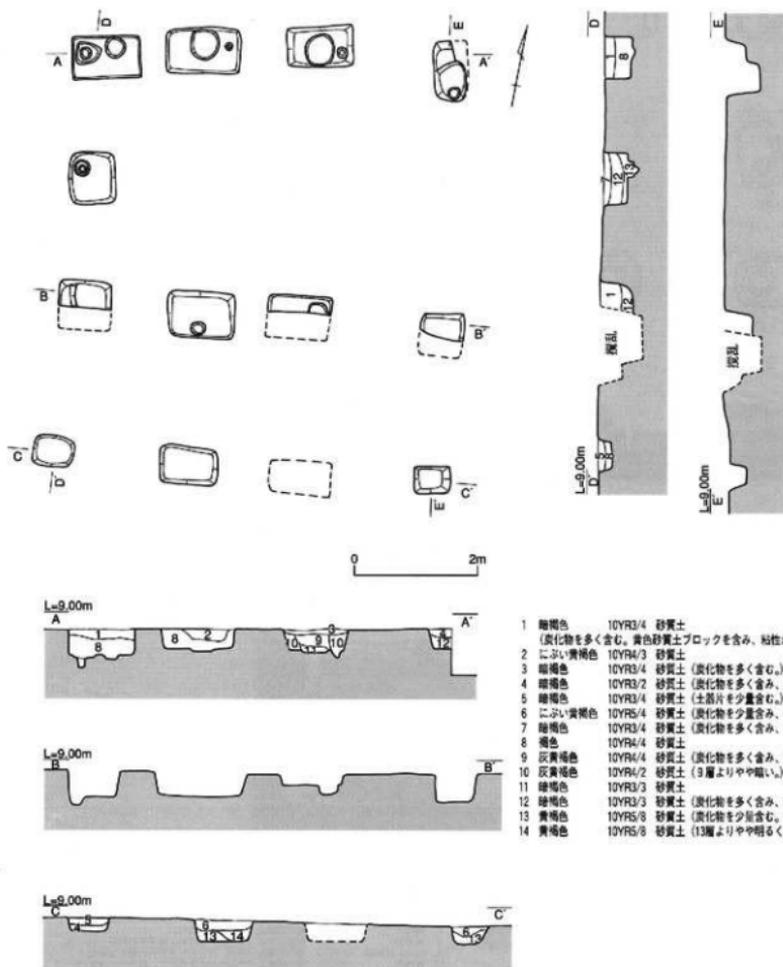
遺物出土状況 遺物は出土していない。

時期 古代 (平安時代) である。

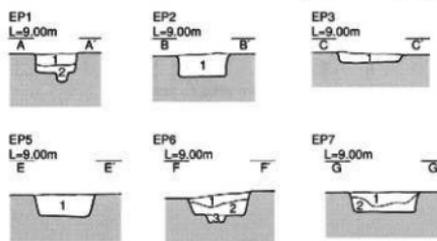
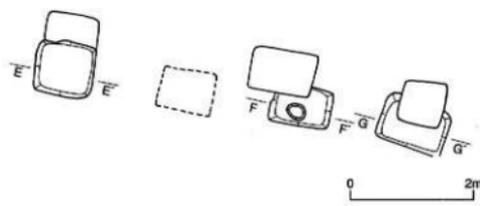
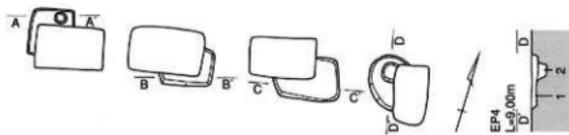
備考 3間×3間の規模をもち、南側1間は庇部分と考えられる。SA1025と重複する。柱穴の切り合いから先後関係はSA1025→SA1024となる。南端の一行をのぞいたほぼすべての柱穴で切り合いが見られ、主軸方位も直交することから、SA1025の建て替えによる遺構と考えられる。



第540図 SA1023平・断面図 (S=1/80)



第541図 SA1024平・断面図 (S=1/80)



- |     |   |                              |         |     |
|-----|---|------------------------------|---------|-----|
| EP1 | 1 | 褐色                           | 10YR4/5 | 砂質土 |
|     | 2 | 黄褐色                          | 10YR5/8 | 砂質土 |
| EP2 | 1 | 褐色                           | 10YR4/5 | 砂質土 |
| EP3 | 1 | 褐色                           | 10YR4/5 | 砂質土 |
| EP4 | 1 | 暗褐色                          | 10YR3/3 | 砂質土 |
|     |   | 〔黄色砂質土ブロックを含み、粘性が強い。炭化物を含む。〕 |         |     |
|     | 2 | 黒褐色                          | 10YR2/3 | 砂質土 |
|     |   | 〔炭化物を多く含み、粘性が強い。〕            |         |     |
| EP5 | 1 | 褐色                           | 10YR4/4 | 砂質土 |
| EP6 | 1 | 褐色                           | 10YR4/4 | 砂質土 |
|     |   | 〔炭化物を多く含み、粘性が強い。〕            |         |     |
|     | 2 | にぶい黄褐色                       | 10YR4/3 | 砂質土 |
|     |   | 〔炭化物を含み、粘性が強い。〕              |         |     |
|     | 3 | にぶい黄褐色                       | 10YR4/3 | 砂質土 |
|     |   | 〔層よりも炭化物が多く、粘性が強い。〕          |         |     |
| EP7 | 1 | 暗褐色                          | 10YR3/3 | 砂質土 |
|     |   | 〔黄色砂質土ブロックを含み、粘性が強い。炭化物を含む。〕 |         |     |
|     | 2 | にぶい黄褐色                       | 10YR4/3 | 砂質土 |

第542図 SA1025平・断面図 (S=1/80)

### 掘立柱建物跡 (SA1025)

位置 Loc.D 2・ε II・cd10~11 床面積 26.9㎡ 主軸方向 N-80°-E

柱穴 7基 (径65~120cm、深さ20~50cm)

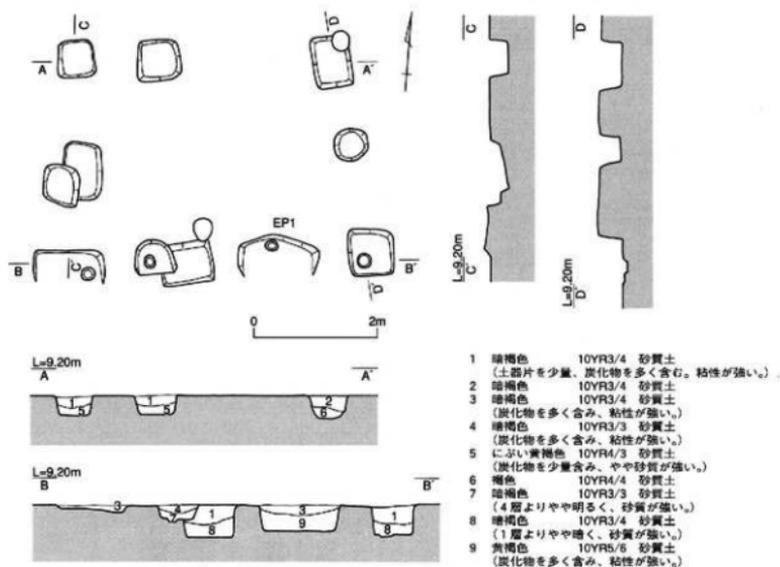
土層 覆土は各柱穴ごとに1~3層に分かれ、褐色系の砂質土を主体とする。一部柱穴では、炭化物を含む。

柱穴間距離 最大 480cm 最小 190cm 梁間 480cm 桁行 560cm

遺物出土状況 遺物は出土していない。

時期 古代 (平安時代) である。

備考 削平によって未検出の柱穴がある。1間×3間の規模をもつ。SA1024と重複する。柱穴の切り合いから先後関係はSA1025→SA1024となる。南端1列を除いたほぼすべての柱穴で切り合いが見られ、主軸方位も直交することから、SA1025の建て替えによる遺構がSA1024であると考えられる。



第543図 SA1026平・断面図 (S=1/80)



第544図 SA1026出土遺物

#### 掘立柱建物跡 (SA1026)

位置 Loc.D 2・e II・cd 9~10 床面積 15.0㎡ 主軸方向 N-85°-E

柱穴 9基 (径55~130cm、深さ10~50cm)

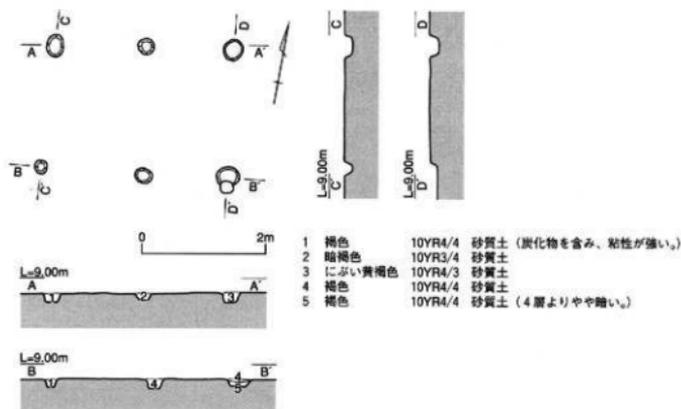
土層 覆土は各柱穴ごとに1~2層に分かれ、暗褐色の砂質土を主体とする。一部柱穴では、土器片、炭化物を含む。

柱穴間距離 最大 180cm 最小 140cm 梁間 350cm 桁行 430cm

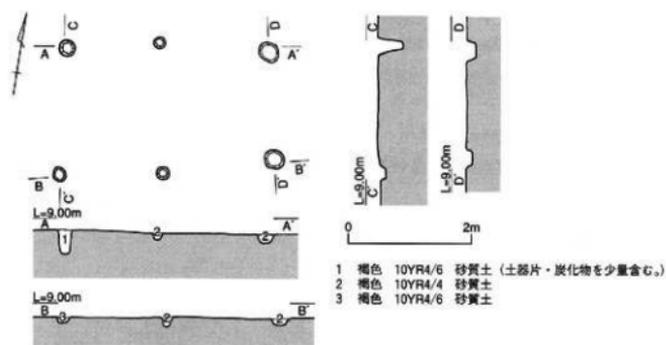
遺物出土状況 土器片が出土している。図示できる遺物は、EP1出土の土師器蓋1点である。

時期 古代 (奈良時代 (8世紀)) である。

備考 削平によって未検出の柱穴がある。2間×3間の規模をもつ。



第545図 SA1027平・断面図 (S=1/80)



第546図 SA1028平・断面図 (S=1/80)

掘立柱建物跡 (SA1027)

位置 Loc.D2・e II・de 9～10 床面積 6.1m<sup>2</sup> 主軸方向 N-81° -E

柱穴 6基 (径20～40cm、深さ10～15cm)

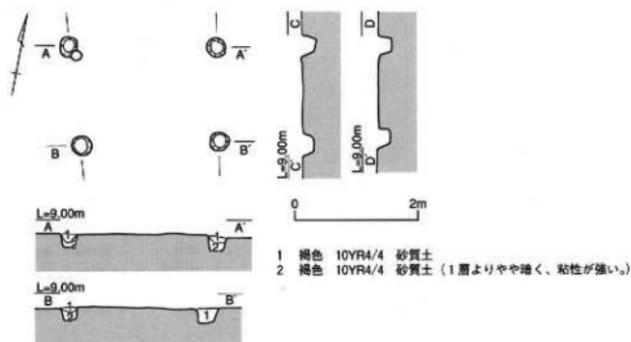
土層 覆土は各柱穴ごとに1～2層に分かれ、褐色の砂質土を主体とする。一部柱穴では、炭化物を含む。

柱穴間距離 最大 210cm 最小 140cm 梁間 210cm 桁行 290cm

遺物出土状況 遺物は出土していない。

時期 古代 (平安時代) である。

備考 1間×2間の規模をもつ。



第547図 SA1029平・断面図 (S=1/80)

掘立柱建物跡 (SA1028)

位置 Loc.D2・ε II・g 9~10 床面積 6.6m<sup>2</sup> 主軸方向 N-80°-E

柱穴 6基 (径20~40cm、深さ10~40cm)

土層 覆土は各柱穴ごとに1層に分かれ、褐色の砂質土を主体とする。一部柱穴では、土器片、炭化物を含む。

柱穴間距離 最大 200cm 最小 150cm 梁間 200cm 桁行 330cm

遺物出土状況 土器片は出土しているが、図示できる遺物は出土していない。

時期 古代 (平安時代) である。

備考 1間×2間の規模をもつ。

掘立柱建物跡 (SA1029)

位置 Loc.D2・ε II・gh10 床面積 3.9m<sup>2</sup> 主軸方向 N-80°-E

柱穴 4基 (径20~40cm、深さ10~40cm)

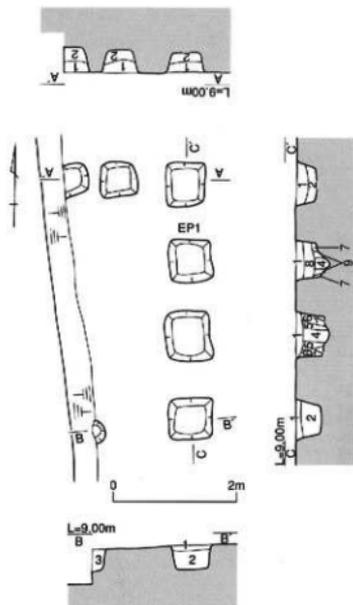
土層 覆土は各柱穴ごとに1~2層に分かれ、褐色の砂質土を主体とする。

柱穴間距離 最大 240cm 最小 160cm 梁間 160cm 桁行 240cm

遺物出土状況 遺物は出土していない。

時期 古代 (平安時代) である。

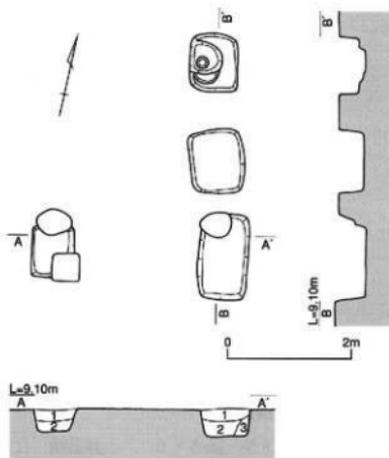
備考 1間×1間の規模をもつ。



- 1 暗褐色 10YR3/4 砂質土 (炭化物を多量に含む)
- 2 暗褐色 10YR3/3 砂質土 (炭化物を多量に含む)
- 3 暗褐色 10YR3/4 砂質土
- 4 暗褐色 10YR3/2 砂質土 (粘性が強い。炭化物を多量に含む)
- 5 暗褐色 10YR3/2 砂質土 (粘性が強い。硬くしめる。炭化物を多量に含む)
- 6 褐色 10YR4/4 砂質土 (固くしめる。炭化物を含む)
- 7 黄褐色 10YR5/8 砂質土 (固くしめる。炭化物を少量含む)
- 8 暗褐色 10YR3/4 砂質土 (粘性がやや強い。炭化物を多量に含む)
- 9 褐色 10YR4/4 砂質土 (粘性がやや弱い。炭化物を多量に含む)

第548図 SA1030平・断面図 (S=1/80)

第549図 SA1030出土土器



- 1 暗褐色 10YR3/4 砂質土  
(炭化物を含む。黄色砂質土ブロックを多く含む。硬くしめる。)
- 2 暗褐色 10YR3/4 砂質土 (1層より炭化物を多く含む。粘性が強い。)
- 3 褐色 10YR4/6 砂質土 (炭化物を少量含む。やや粘性が強い。)

第550図 SA1031平・断面図 (S=1/80)

### 掘立柱建物跡 (SA1030)

位置 Loc.D 2・e II・ef 6 床面積 7.2m<sup>2</sup> 主軸方向 N-3°-W

柱穴 7基 (径50~85cm、深さ30~50cm)

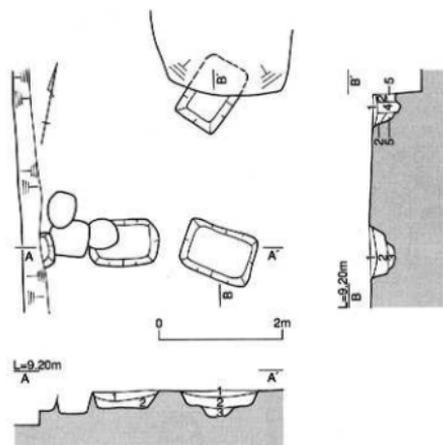
土層 覆土は各柱穴ごとに2層に分かれ、暗褐色の砂質土を主体とする。

柱穴間距離 最大 160cm 最小 80cm 梁間 (200)cm 桁行 400cm

遺物出土状況 土器片が出土している。図示できる遺物は、EP1出土の杯蓋つまみ1点である。

時期 古代 (奈良時代 (8世紀)) である。

備考 西側部分は調査区外に延びるため柱穴が未検出の可能性がある。2間×3間の規模をもつと考えられる。



- |   |        |         |                               |
|---|--------|---------|-------------------------------|
| 1 | にぶい黄褐色 | 10YR5/4 | 砂質土 (炭化物少量含む。黄色砂質土ブロックを多く含む。) |
| 2 | 暗褐色    | 10YR3/4 | 砂質土 (炭化物を多く含む。黄色砂質土ブロックを含む。)  |
| 3 | 暗褐色    | 10YR3/4 | 砂質土 (2層よりやや暗く、粘性が強い。)         |
| 4 | 暗褐色    | 10YR3/3 | 砂質土 (粘性が強い。炭化物を多量に含む。)        |
| 5 | 明黄褐色   | 10YR6/6 | 砂質土 (細くしめる。炭化物を少量含む。)         |

第551図 SA1032平・断面図 (S=1/80)

#### 掘立柱建物跡 (SA1031)

位置 Loc.D 2・e II・gh 5～6 床面積 11.6㎡ 主軸方向 N-79°-E

柱穴 4基 (径70～140cm、深さ35～50cm)

土層 覆土は各柱穴ごとに2～3層に分かれ、暗褐色の砂質土を主体とする。

柱穴間距離 最大 280cm 最小 160cm 梁間 340cm 桁行 (280)cm

遺物出土状況 遺物は出土していない。

時期 古代 (平安時代) である。

備考 西端は調査区外に延びる。2間×3間程度の規模をもつと考えられる。

#### 掘立柱建物跡 (SA1032)

位置 Loc.D 2・e II・hi 5～6 床面積 7.3㎡ 主軸方向 N-83°-E

柱穴 4基 (径75～120cm、深さ25～45cm)

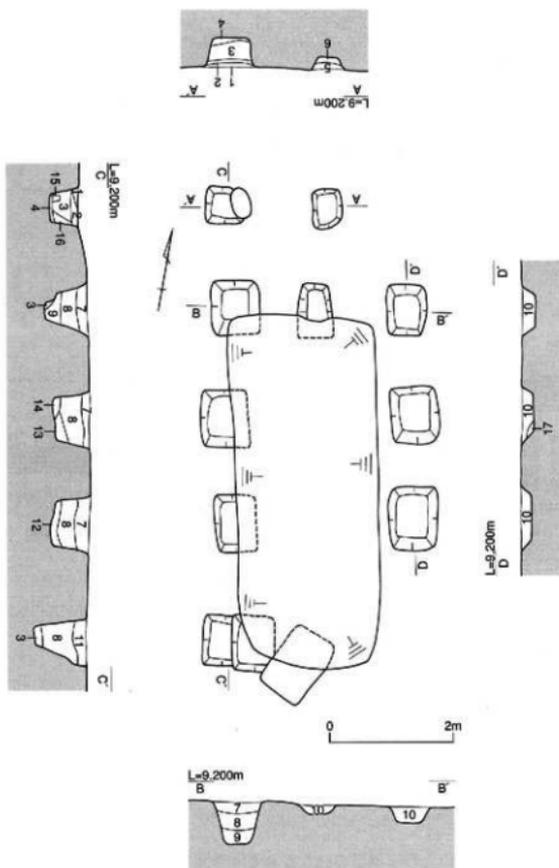
土層 覆土は各柱穴ごとに2～6層に分かれ、暗褐色の砂質土を主体とする。断面観察により柱痕が確認できるものがある。

柱穴間距離 最大 270cm 最小 170cm 梁間 270cm 桁行 (300)cm

遺物出土状況 遺物は出土していない。

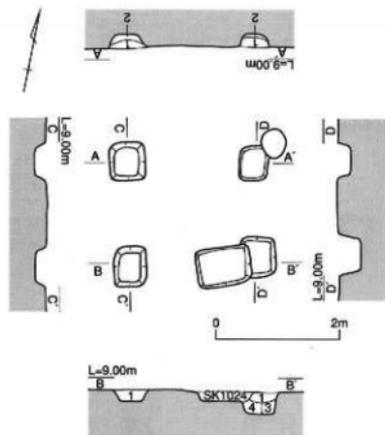
時期 古代 (平安時代) である。

備考 西側部分は調査区外のため柱穴が未検出である。1間×3間程度の規模をもつと考えられる。



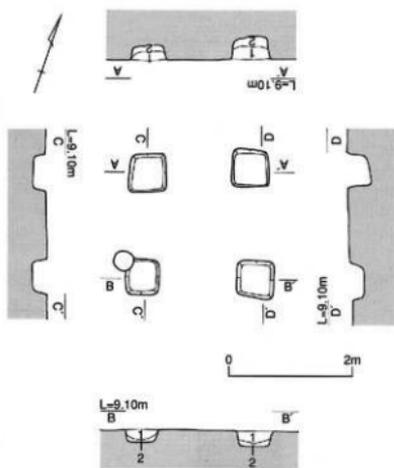
- |    |        |         |                               |
|----|--------|---------|-------------------------------|
| 1  | 黄褐色    | 10YR5/6 | 砂質土                           |
| 2  | 褐色     | 10YR4/4 | 砂質土                           |
| 3  | 暗褐色    | 10YR3/3 | 砂質土 (粘性が強い。)                  |
| 4  | にぶい黄褐色 | 10YR5/4 | 砂質土 (粘性がやや強い。)                |
| 5  | にぶい黄褐色 | 10YR5/4 | 砂質土                           |
| 6  | 褐色     | 10YR4/6 | 砂質土                           |
| 7  | にぶい黄褐色 | 10YR5/4 | 砂質土 (炭化物を含み、黄色砂質土ブロックを多く含む。)  |
| 8  | 暗褐色    | 10YR3/4 | 砂質土 (炭化物を多く含む、黄色砂質土ブロックを含む。)  |
| 9  | 暗褐色    | 10YR3/4 | 砂質土 (粘性強い。)                   |
| 10 | にぶい黄褐色 | 10YR5/3 | 砂質土 (炭化物を少量含む、硬くしまる。)         |
| 11 | にぶい黄褐色 | 10YR4/3 | 砂質土 (炭化物を多量に含む、黄色砂質土ブロックを含む。) |
| 12 | 明黄褐色   | 10YR6/8 | 砂質土 (粘性が強い、炭化物を含む。)           |
| 13 | 黄褐色    | 10YR7/8 | 砂質土 (粘性が強い、炭化物を含む。)           |
| 14 | 黄褐色    | 10YR7/8 | 砂質土 (粘性が強い、炭化物を多量に含む。)        |
| 15 | 暗褐色    | 10YR3/3 | 粘質土                           |
| 16 | 褐色     | 10YR4/4 | 砂質土 (やや強い。)                   |
| 17 | にぶい黄褐色 | 10YR5/3 | 砂質土 (固くしまる、炭化物を少量含む。)         |

第552図 SA1033平・断面図 (S=1/80)



- 1 に近い黄褐色 10YR5/4 砂質土 (炭化物を含み、硬くしめる。粘性やや強い。)  
 2 褐色 10YR4/4 砂質土 (炭化物を含み、粘性強い。)  
 3 に近い黄褐色 10YR4/3 砂質土 (炭化物を含み、硬くしめる。粘性強い。)  
 4 灰黄褐色 10YR4/2 砂質土 (炭化物を含み、やや粘性が強い。)

第553図 SA1034平・断面図 (S=1/80)



- 1 黄褐色 10YR5/6 砂質土 (砂質やや強い。炭化物を含み、若干しまっている。)  
 2 黄褐色 10YR5/6 砂質土 (1層より砂質強い。)

第554図 SA1035平・断面図 (S=1/80)

#### 掘立柱建物跡 (SA1033)

位置 Loc.D 2・ε II・hij 5～6 床面積 20.0m<sup>2</sup> 主軸方向 N-10°-W

柱穴 10基 (径45～90cm、深さ15～85cm)

土層 覆土は各柱穴ごとに1～6層に分かれ、黄褐色系の砂質土を主体とする。一部の柱穴では炭化物を含む。

柱穴間距離 最大 190cm 最小 130cm 梁間 290cm 桁行 700cm

遺物出土状況 遺物は出土していない。

時期 古代 (平安時代) である。

備考 東側の柱穴の深さが浅いため未検出の柱穴があると考えられる。2間×4間の規模をもつ。SA1032と重複関係にあり、柱穴の切り合いから先後関係はSA1032→SA1033となる。

#### 掘立柱建物跡 (SA1034)

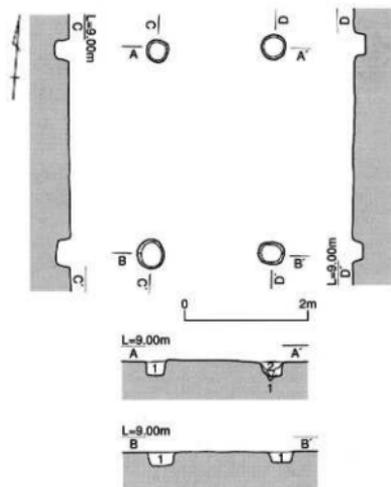
位置 Loc.D 2・ε II・i6～7 床面積 3.6m<sup>2</sup> 主軸方向 N-78°-E

柱穴 4基 (径50～70cm、深さ20～35cm)

土層 覆土は各柱穴ごとに1～3層に分かれ、黄褐色系の砂質土を主体とする。一部の柱穴では炭化物を含む。

柱穴間距離 最大 210cm 最小 170cm 梁間 170cm 桁行 210cm

遺物出土状況 遺物は出土していない。



- 1 浅黄色 5Y7/3 砂質土（炭化物を少量含み、硬くしまる。径8cm長20cmの礎石含む。根石か）  
 2 灰白色 5Y7/2 砂質土（炭化物を少量含み、硬くしまる。径8cm長20cmの礎石含む。根石か）

第555図 SA1036平・断面図(S=1/80)

時期 古代（平安時代）である。

備考 1間×1間の規模をもつ。

#### 掘立柱建物跡 (SA1035)

位置 Loc.D 2・ε II・i9~11 床面積 3.2m<sup>2</sup> 主軸方向 N-20°-W

柱穴 4基（径55~60cm、深さ20~25cm）

土層 覆土は各柱穴ごとに2層に分かれ、黄褐色の砂質土を主体とする。一部の柱穴では炭化物を含む。

柱穴間距離 最大 190cm 最小 170cm 梁間 170cm 桁行 190cm

遺物出土状況 遺物は出土していない。

時期 古代（平安時代）である。

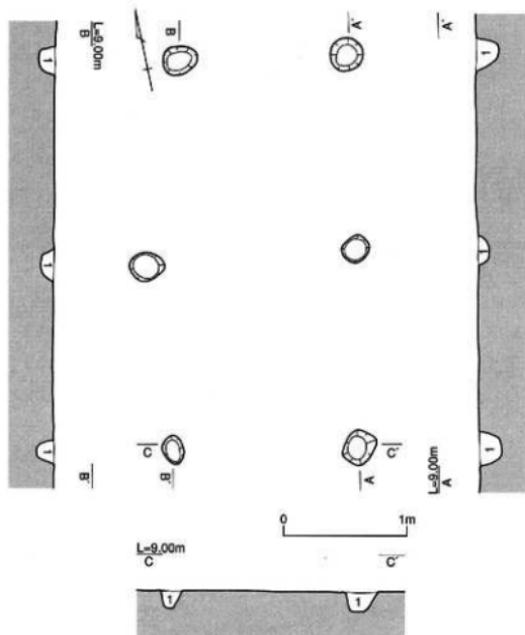
備考 1間×1間の規模をもつ。

#### 掘立柱建物跡 (SA1036)

位置 Loc.D 2・ε xii・ij 9 床面積 6.5m<sup>2</sup> 主軸方向 N-5°-W

柱穴 4基（径35~50cm、深さ15~25cm）

土層 覆土は各柱穴ごとに1~3層に分かれ、浅黄色の砂質土を主体とする。炭化物や根石と考えられる鏝を含み固くしまっている。



1 灰オリーブ 5Y5/3 砂質土 (炭化物を少量含み、粘性がやや強い。)  
 第556図 SA1037平・断面図 (S=1/40)

柱穴間距離 最大 340cm 最小 190cm 梁間 190cm 桁行 340cm

遺物出土状況 遺物は出土していない。

時期 古代 (平安時代) である。

備考 1間×1間の規模をもつ。

#### 掘立柱建物跡 (SA1037)

位置 Loc.D 2・e II・j7 床面積 5.3m<sup>2</sup> 主軸方向 N-12° -E

柱穴 6基 (径35~60cm、深さ15~35cm)

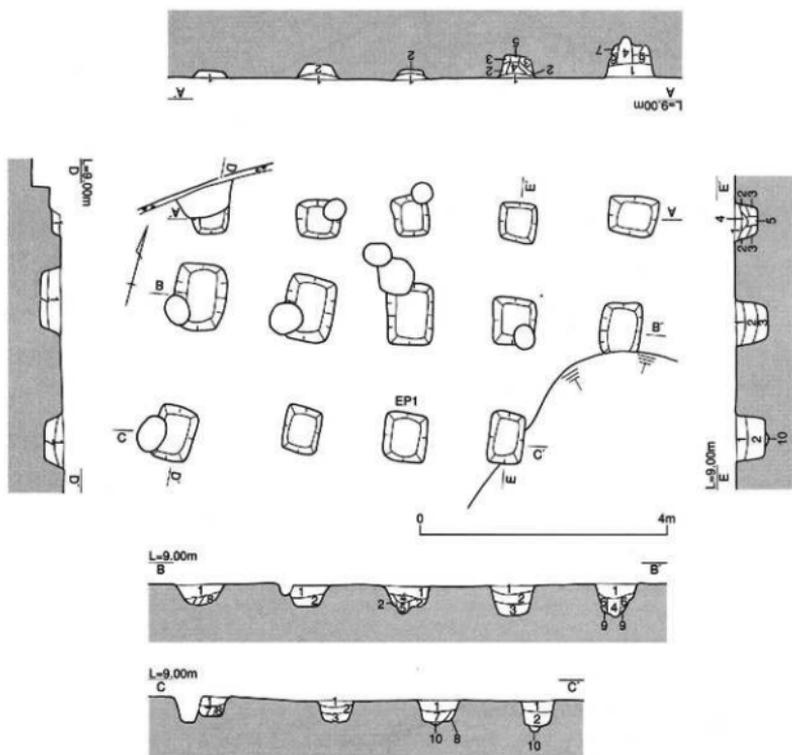
土層 覆土は1層からなり、灰オリーブ色の砂質土を主体とする。炭化物を含む。

柱穴間距離 最大 170cm 最小 140cm 梁間 140cm 桁行 320cm

遺物出土状況 遺物は出土していない。

時期 古代 (平安時代) である。

備考 1間×2間の規模をもつ。



- |          |         |                       |          |         |                       |
|----------|---------|-----------------------|----------|---------|-----------------------|
| 1 にぶい黄褐色 | 10YR5/4 | 砂質土 (炭化物を少量含む固くします。)  | 6 褐色     | 10YR4/4 | 砂質土 (炭化物を微量含む、固くします。) |
| 2 黄褐色    | 10YR5/6 | 砂質土 (炭化物を少量含む砂質が強い。)  | 7 褐色     | 10YR4/6 | 砂質土 (炭化物を少量含む。)       |
| 3 黄褐色    | 10YR5/6 | 砂質土 (2層よりやや暗く、固くします。) | 8 褐色     | 10YR4/6 | 砂質土 (6層より固くします。)      |
| 4 暗褐色    | 10YR3/4 | 砂質土 (炭化物を多く含む粘性が強い。)  | 9 にぶい黄褐色 | 10YR4/3 | 砂質土 (土器片、炭化物を少量含む。)   |
| 5 暗褐色    | 10YR3/4 | 砂質土 (2層よりやや暗い。)       | 10 褐色    | 10YR4/4 | 砂質土 (炭化物を少量含む。)       |

第557図 SA1038平・断面図 (S=1/80)

#### 掘立柱建物跡 (SA1038)

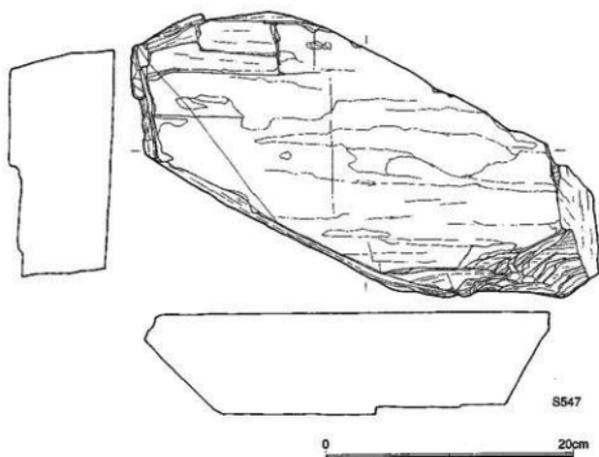
位置 Loc.D 2・e II・jk6~7 床面積 24.5㎡ 主軸方向 N-76°・E

柱穴 14基 (径50~110cm、深さ10~65cm)

土層 覆土は各柱穴ごとに1~7層に分かれ、黄褐色系の砂質土を主体とする。一部の柱穴では炭化物を含む。断面観察により柱痕が確認できるものがある。

柱穴間距離 最大 200cm 最小 150cm 梁間 360cm 桁行 680cm

遺物出土状況 石器が出土している。図示できる遺物はEP1出土の台石1点である。EP1の根石と考えられる。



第558図 SA1038出土石器

時期 古代（平安時代）である。

備考 削平のため柱穴が未検出の部分がある。2間×4間の規模をもつ。

掘立柱建物跡（SA1039）

位置 Loc.DE 2・ae I II・ta20~2 床面積 29.5m<sup>2</sup> 主軸方向 N-90° -E

柱穴 8基（径40~60cm、深さ15~30cm）

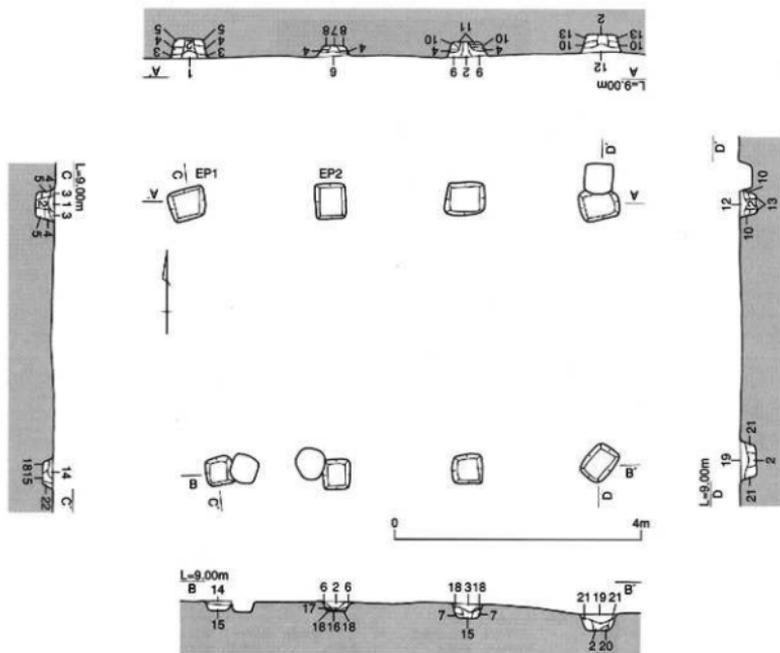
土層 覆土は各柱穴ごとに2~9層に分かれ、黄褐色系の砂質土を主体とする。一部の柱穴には炭化物を含む。断面観察により柱痕が確認できるものがある。

柱穴間距離 最大 440cm 最小 190cm 梁間 440cm 桁行 670cm

遺物出土状況 土器片が出土している。図示できる遺物は2点で、EP1出土の土師器杯1点とEP2出土の管状土錘1点である。

時期 古代（平安時代（9世紀））である。

備考 1間×3間の規模をもつ。



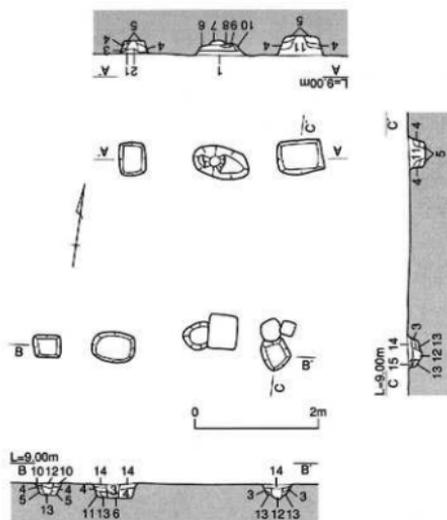
- |    |        |         |       |    |        |         |                |
|----|--------|---------|-------|----|--------|---------|----------------|
| 1  | にぶい黄褐色 | 10YR5/3 | 砂質土   | 12 | にぶい黄褐色 | 10YR5/3 | 粘質土            |
| 2  | 褐色     | 10YR4/4 | 粘質土   | 13 | 黄褐色    | 10YR5/6 | 砂質土            |
| 3  | 黄褐色    | 10YR5/6 | 粘性砂質土 | 14 | 黄褐色    | 10YR5/6 | 砂質土            |
| 4  | にぶい黄褐色 | 10YR5/4 | 砂質土   | 15 | にぶい黄褐色 | 10YR5/4 | 粘性砂質土          |
| 5  | にぶい黄褐色 | 10YR4/3 | 砂質土   | 16 | にぶい黄褐色 | 10YR5/4 | 粘質土            |
| 6  | にぶい黄褐色 | 10YR4/3 | 粘性砂質土 | 17 | 暗褐色    | 10YR3/3 | 粘質土            |
| 7  | 暗褐色    | 10YR3/4 | 粘質土   | 18 | にぶい黄褐色 | 10YR4/3 | 粘質土            |
| 8  | にぶい黄褐色 | 10YR3/6 | 砂質土   | 19 | にぶい黄褐色 | 10YR6/3 | 砂質土            |
| 9  | にぶい黄褐色 | 10YR5/3 | 粘性砂質土 | 20 | 暗褐色    | 10YR3/3 | 粘質土            |
| 10 | 黄褐色    | 10YR5/6 | 粘質土   | 21 | オリーブ褐色 | 2.5Y4/3 | 粘性砂質土 (炭化物を含む) |
| 11 | 明黄褐色   | 10YR6/6 | 粘性砂質土 | 22 | にぶい黄褐色 | 10YR6/4 | 砂質土            |

第559図 SA1039平・断面図 (S=1/80)



0 10cm

第560図 SA1039出土土器



1	にぶい黄褐色	10YR5/3	砂質土	9	褐色	7.5Y4/3	粘性砂質土
2	暗褐色	10YR3/4	粘性砂質土	10	オリーブ褐色	2.5Y4/3	粘質土
3	にぶい黄褐色	10YR4/3	粘質土	11	オリーブ褐色	2.5Y4/4	粘質土
4	にぶい黄褐色	10YR5/4	粘質土	12	にぶい黄褐色	10YR5/4	粘性砂質土
5	にぶい黄褐色	2.5Y6/4	粘質土	13	褐色	10YR4/4	粘質土
6	褐色	10YR4/4	粘性砂質土	14	にぶい黄褐色	10YR5/3	粘質土
7	褐色	10YR4/6	粘質土	15	黄褐色	2.5Y5/4	粘性砂質土
8	黄褐色	10YR5/8	粘性砂質土				

第561図 SA1040平・断面図 (S=1/80)

#### 掘立柱建物跡 (SA1040)

位置 Loc.DE 2・œ I・ta19 床面積 12.2m<sup>2</sup> 主軸方向 N-85° -E

柱穴 7基 (径35~70cm、深さ20~25cm)

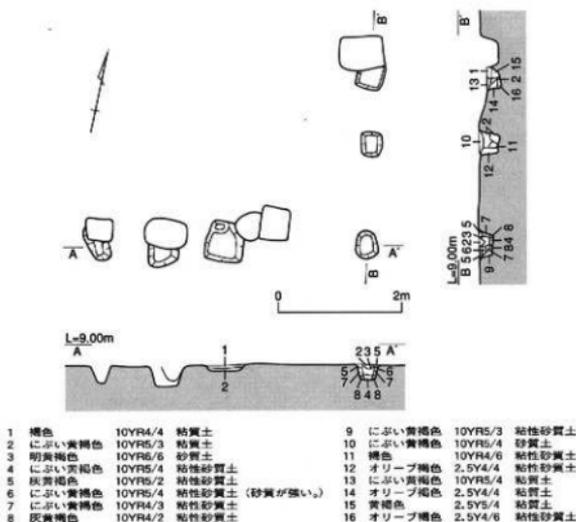
土層 覆土は各柱穴ごとに5~8層に分かれ、黄褐色系の砂質土を主体とする。断面観察により柱痕を確認できるものがある。

柱穴間距離 最大 170cm 最小 140cm 梁間 320cm 桁行 380cm

遺物出土状況 遺物は出土していない。

時期 古代 (平安時代) である。

備考 一部に未検出の柱穴があると考えられる。1間×3間程度の規模をもつと考えられる。SA1041と重複する。柱穴の切り合いから先後関係はSA1041→SA1040となる。ほぼ同規模で、重複する柱穴も多いことからSA1041の建て替えに伴う遺構であると考えられる。



第562図 SA1041平・断面図 (S=1/80)

#### 掘立柱建物跡 (SA1041)

位置 Loc.DE2・α I・ta19 床面積 12.9m<sup>2</sup> 主軸方向 N-80°-E

柱穴 6基 (径30~60cm、深さ10~30cm)

土層 覆土は各柱穴ごとに2~10層に分かれ、黄褐色系の粘性砂質土を主体とする。断面観察により柱痕を確認できるものがある。

柱穴間距離 最大 180cm 最小 100cm 梁間 (300)cm 桁行 (430)cm

遺物出土状況 遺物は出土していない。

時期 古代 (平安時代) である。

備考 削平のため一部未検出の柱穴がある。2間×4間程度の規模をもつと考えられる。SA1040と重複する。柱穴の切り合いから先後関係はSA1041→SA1040となる。

#### 掘立柱建物跡 (SA1042)

位置 Loc.E2・α I・ab18~20 床面積 20.1m<sup>2</sup> 主軸方向 N-82°-E

柱穴 8基 (径50~80cm、深さ20~30cm)

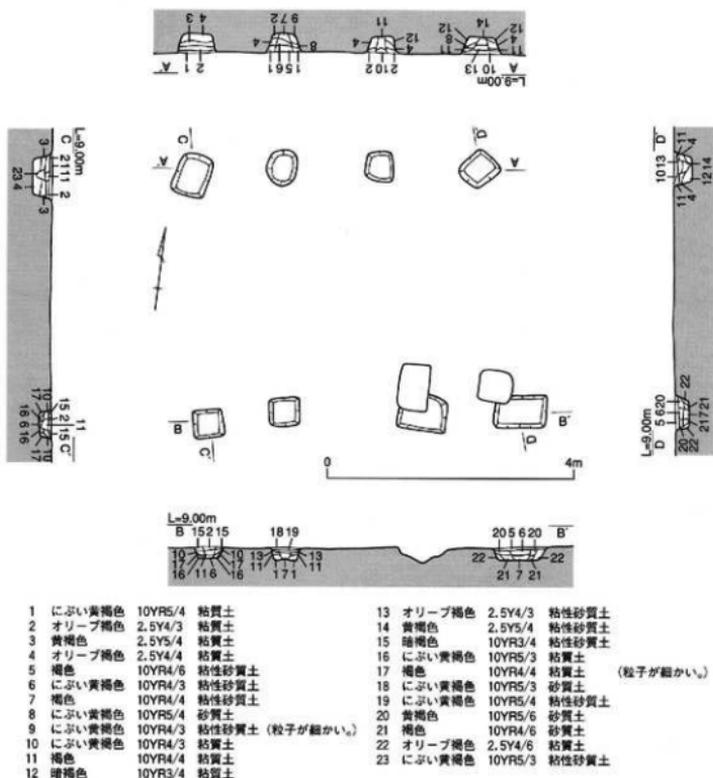
土層 覆土は各柱穴ごとに7~10層に分かれ、黄褐色系の粘質土を主体とする。断面観察により柱痕を確認できるものがある。

柱穴間距離 最大 410cm 最小 120cm 梁間 410cm 桁行 500cm

遺物出土状況 遺物は出土していない。

時期 古代 (平安時代) である。

備考 1間×3間の規模をもつ。SA1043、SA1044と重複する。柱穴の切り合いから、先後関係はSA



第563図 SA1042平・断面図 (S=1/80)

1042→SA1043となる。SA1044は柱穴の切り合い関係がなく不明である。

#### 掘立柱建物跡 (SA1043)

位置 Loc.E2・α I・ab18~20 床面積 11.4㎡ 主軸方向 N-85°-E

柱穴 8基 (径45~80cm、深さ20~35cm)

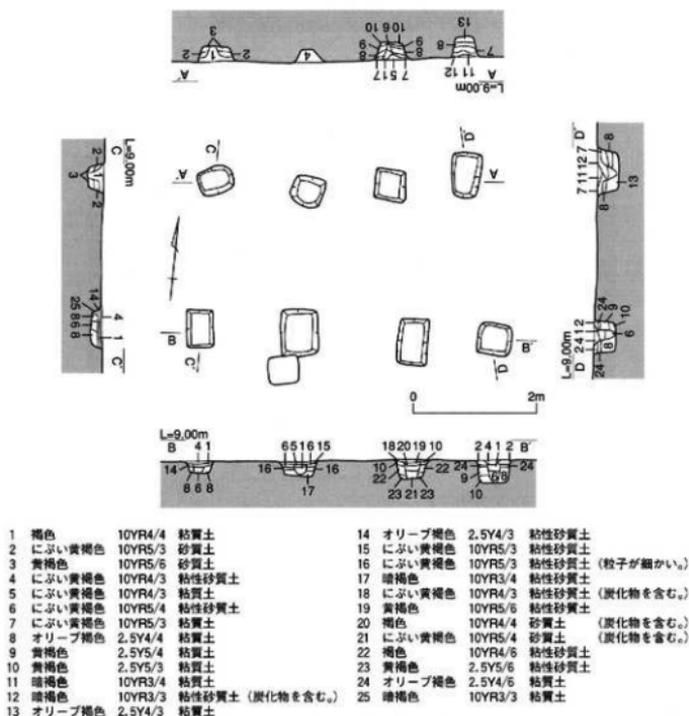
土層 覆土は各柱穴ごとに1~10層に分かれ、黄褐色系の粘性砂質土を主体とする。断面観察により柱痕を確認できるものがある。

柱穴間距離 最大 300cm 最小 130cm 梁間 250cm 桁行 450cm

遺物出土状況 遺物は出土していない。

時期 古代 (平安時代) である。

備考 1間×3間の規模をもつ。SA1042、SA1044と重複する。柱穴の切り合いから先後関係はSA1042→SA1043となる。SA1044は柱穴の切り合い関係がなく不明である。



第564図 SA1043平・断面図 (S=1/80)

#### 掘立柱建物跡 (SA1044)

位置 Loc.E2・α I・ab19 床面積 10.2m<sup>2</sup> 主軸方向 N-5° W

柱穴 6基 (径40~60cm、深さ25~30cm)

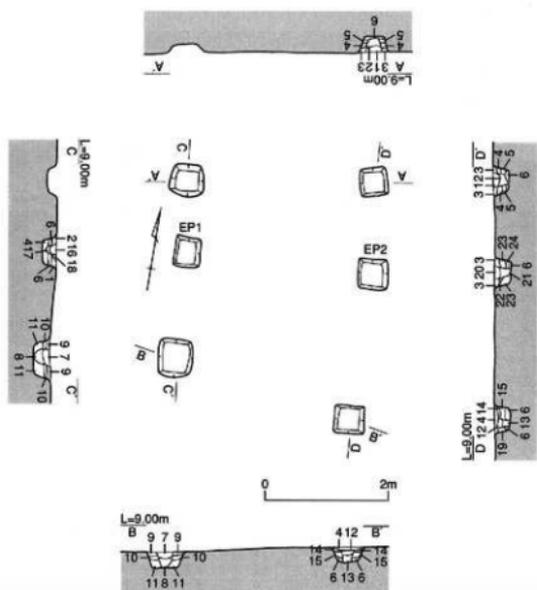
土層 覆土は各柱穴ごとに1~10層に分かれ、黄褐色系の粘性砂質土を主体とする。一部の柱穴では炭化物を含む。断面観察により柱痕を確認できるものがある。

柱穴間距離 最大 290cm 最小 120cm 梁間 290cm 桁行 350cm

遺物出土状況 土器片が出土している。図示できる遺物は2点で、EP1・EP2からそれぞれ須恵器杯が1点出土している。

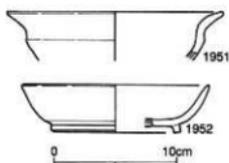
時期 古代 (平安時代 (9世紀)) である。

備考 柱穴の深さが浅く、未検出の柱穴が存在する可能性がある。1間×2間の規模をもつ。SA1042、SA1043と重複するが、柱穴の切り合い関係がなく、先後関係は不明である。



- |    |        |         |               |    |        |         |                 |
|----|--------|---------|---------------|----|--------|---------|-----------------|
| 1  | にぶい黄褐色 | 10YR5/3 | 粘性砂質土         | 13 | 灰黄褐色   | 10YR5/2 | 粘質土             |
| 2  | 褐色     | 10YR4/4 | 粘質土 (炭化物を含む。) | 14 | オリーブ褐色 | 2.5Y4/4 | 粘性砂質土           |
| 3  | 褐色     | 10YR4/6 | 粘性砂質土         | 15 | オリーブ褐色 | 2.5Y4/3 | 粘質土             |
| 4  | にぶい黄褐色 | 10YR5/4 | 砂質土           | 16 | にぶい黄褐色 | 10YR4/3 | 粘質土 (炭化物を含む。)   |
| 5  | にぶい黄褐色 | 10YR5/3 | 粘質土           | 17 | 褐色     | 10YR4/4 | 粘性砂質土           |
| 6  | 黄褐色    | 2.5Y5/4 | 粘質土           | 18 | にぶい黄褐色 | 10YR5/3 | 砂質土             |
| 7  | にぶい黄褐色 | 10YR4/3 | 粘質土           | 19 | 黄褐色    | 2.5Y5/3 | 砂質土             |
| 8  | オリーブ褐色 | 2.5Y4/3 | 粘性砂質土         | 20 | にぶい黄褐色 | 10YR4/3 | 粘性砂質土 (炭化物を含む。) |
| 9  | オリーブ褐色 | 2.5Y4/4 | 粘質土           | 21 | 褐色     | 10YR5/6 | 粘性砂質土 (炭化物を含む。) |
| 10 | 灰黄褐色   | 10YR4/2 | 粘質土           | 22 | オリーブ褐色 | 2.5Y4/4 | 粘性砂質土           |
| 11 | にぶい黄褐色 | 10YR4/3 | 粘性砂質土         | 23 | オリーブ褐色 | 2.5Y4/6 | 粘性砂質土           |
| 12 | にぶい黄褐色 | 10YR5/3 | 粘質土           | 24 | 黄褐色    | 2.5Y5/6 | 粘質土             |

第565図 SA1044平・断面図 (S=1/80)



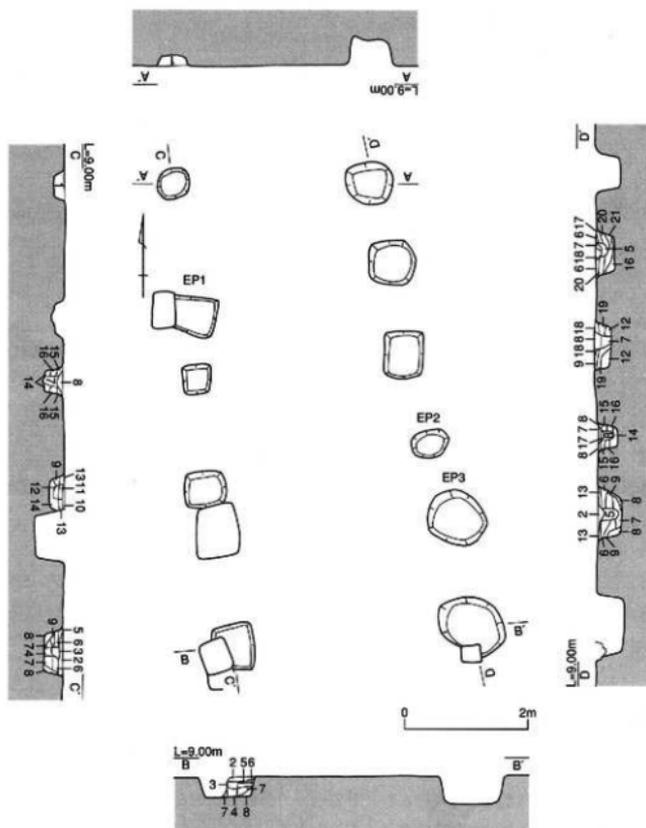
第566図 SA1044出土土器

#### 掘立柱建物跡 (SA1045)

位置 Loc.E2・α I・cd18-19 床面積 26.6m<sup>2</sup> 主軸方向 N-10° -W

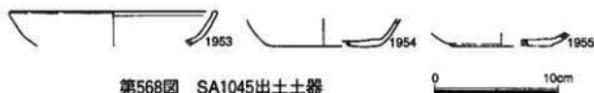
柱穴 11基 (径40-120cm、深さ15-50cm)

土層 覆土は各柱穴ごとに1-11層に分かれ、黄褐色系の粘質土を主体とする。断面観察により柱痕を

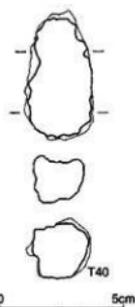


1 暗褐色	10YR3/3	粘質土 (しまりがある。)	12 黄褐色	2.5Y5/4	粘質土
2 オリーブ褐色	2.5Y4/4	粘性砂質土	13 黄褐色	2.5Y5/4	粘性砂質土
3 黄褐色	2.5Y4/3	粘性砂質土	14 黄褐色	10YR5/6	粘質土
4 にぶい黄褐色	10YR4/3	粘性砂質土	15 暗褐色	10YR3/4	粘質土
5 褐色	10YR4/4	粘性砂質土	16 褐色	10YR4/6	粘質土
6 灰黄褐色	10YR4/2	粘質土	17 オリーブ褐色	2.5Y4/4	粘質土
7 にぶい黄褐色	10YR4/3	粘質土	18 にぶい黄褐色	10YR5/3	粘質土
8 褐色	10YR4/4	粘質土	19 オリーブ褐色	2.5Y4/4	砂質土
9 にぶい黄褐色	10YR5/4	粘質土	20 オリーブ褐色	2.5Y4/3	粘質土
10 黄褐色	2.5Y5/3	粘性砂質土	21 褐色	7.5YR4/3	粘質土
11 黄褐色	10YR5/6	粘性砂質土			

第567図 SA1045平・断面図 (S=1/80)



第568図 SA1045出土土器



第569図 SA1045出土鉄器

確認できるものがある。

柱穴間距離 最大 390cm 最小 110cm 梁間 350cm 桁行 760cm

遺物出土状況 土器片、鉄器が出土している。図示できる遺物は土器3点と鉄器1点で、EP1～EP3からそれぞれ土師器杯1点が出土している。EP3から鉄片1点が出土している。

時期 古代（平安時代（9世紀））である。

備考 一部未検出の柱穴が存在する可能性がある。1間×5間の規模をもつ。SA1046、SA1047、SA1050と重複する。柱穴の切り合いから先後関係はSA1047、SA1050→SA1045→SA1046となる。SA1047とSA1050は柱穴の切り合いがなく先後関係は不明である。

#### 掘立柱建物跡（SA1046）

位置 Loc.E2・α I・cd18～19 床面積 12.9m<sup>2</sup> 主軸方向 N-6° -W

柱穴 9基（径35～80cm、深さ25～45cm）

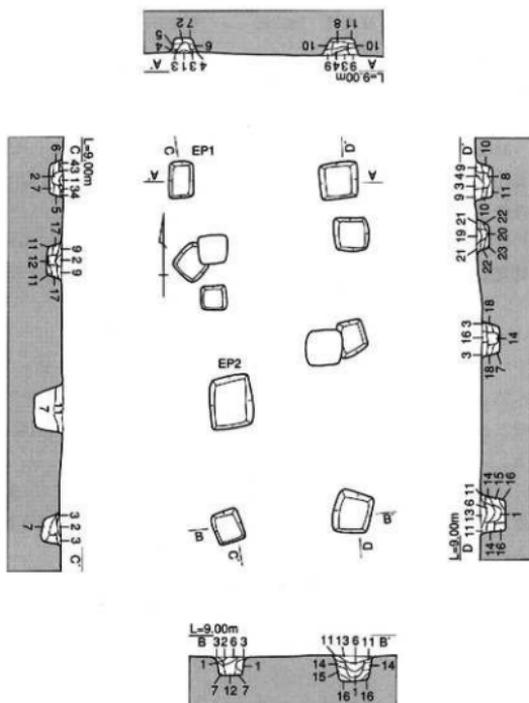
土層 覆土は各柱穴ごとに2～10層に分かれ、黄褐色系の粘性砂質土を主体とする。柱穴の一部には炭化物を含む。断面観察により柱痕が確認できるものがある。

柱穴間距離 最大 290cm 最小 80cm 梁間 230cm 桁行 560cm

遺物出土状況 土器片が出土している。図示できる遺物は3点で、EP1から管状土錘1点、EP2から須恵器甕1点と管状土錘1点が出土している。

時期 古代（平安時代（9世紀））である。

備考 一部未検出の柱穴が存在する可能性がある。1間×4間の規模をもつと考えられる。SA1045と重複する。柱穴の切り合いから先後関係はSA1045→SA1046となる。



- |    |        |         |                |    |        |         |                |
|----|--------|---------|----------------|----|--------|---------|----------------|
| 1  | にぶい黄褐色 | 10YR4/3 | 粘質土            | 13 | オリーブ褐色 | 2.5Y4/3 | 粘性砂質土          |
| 2  | 褐色     | 10YR4/4 | 粘性砂質土          | 14 | にぶい黄褐色 | 10YR5/3 | 粘質土            |
| 3  | 黄褐色    | 10YR5/6 | 粘質土            | 15 | 褐色     | 10YR4/4 | 粘質土            |
| 4  | にぶい黄褐色 | 10YR5/4 | 粘性砂質土          | 16 | にぶい黄褐色 | 10YR5/4 | 粘質土            |
| 5  | 暗褐色    | 10YR3/4 | 粘質土            | 17 | 黄褐色    | 2.5Y5/3 | 粘性砂質土          |
| 6  | オリーブ褐色 | 2.5Y4/4 | 粘性砂質土          | 18 | にぶい黄褐色 | 10YR6/4 | 粘質土            |
| 7  | 黄褐色    | 2.5Y4/4 | 粘質土            | 19 | 褐色     | 10YR4/4 | 粘質土 (炭化物を含む)   |
| 8  | 褐色     | 10YR4/6 | 粘性砂質土 (しまりがある) | 20 | にぶい黄褐色 | 10YR5/3 | 粘性砂質土 (炭化物を含む) |
| 9  | にぶい黄褐色 | 10YR5/3 | 粘性砂質土          | 21 | 褐色     | 10YR4/6 | 粘質土            |
| 10 | 黄褐色    | 2.5Y4/4 | 粘性砂質土          | 22 | にぶい黄褐色 | 10YR5/4 | 粘性砂質土 (炭化物を含む) |
| 11 | オリーブ褐色 | 2.5Y4/6 | 粘性砂質土          | 23 | オリーブ褐色 | 2.5Y4/4 | 粘性砂質土 (炭化物を含む) |
| 12 | にぶい黄褐色 | 10YR4/3 | 粘性砂質土          |    |        |         |                |

第570図 SA1046平・断面図 (S=1/80)



第571図 SA1046出土土器

#### 掘立柱建物跡 (SA1047)

位置 Loc.E2・α I・cd19~20 床面積 14.2m<sup>2</sup> 主軸方向 N-85°-E

柱穴 16基 (径20~100cm、深さ10~100cm)

土層 覆土は各柱穴ごとに1~12層に分かれ、黄褐色系の粘質土を主体とする。柱穴の一部には炭化物を含む。断面観察により柱痕が確認できるものがある。

柱穴間距離 最大 210cm 最小 40cm 梁間 400cm 桁行 400cm

遺物出土状況 土器片が出土している。実測できる遺物はEP1出土の土師器壺1点である。

時期 古代 (平安時代 (9世紀)) である。

備考 一部未検出の柱穴が存在する可能性がある。2間×5間の規模をもつと考えられる。SA1045、SA1048と重複する。柱穴の切り合いから先後関係は、SA1048→SA1047→SA1045となる。

#### 掘立柱建物跡 (SA1048)

位置 Loc.E2・α I・cd19~20 床面積 9.2m<sup>2</sup> 主軸方向 N-85°-E

柱穴 6基 (径30~55cm、深さ20~40cm)

土層 覆土は各柱穴ごとに1~10層に分かれ、褐色系の粘質土を主体とする。断面観察により柱痕が確認できるものがある。

柱穴間距離 最大 300cm 最小 140cm 梁間 300cm 桁行 360cm

遺物出土状況 土器片が出土している。実測できる遺物は3点で、EP1から黒色土器碗1点、EP2から土師器杯2点である。

時期 古代 (平安時代 (9世紀前半)) である。

備考 1間×2間の規模をもつ。SA1047、SA1051と重複する。柱穴の切り合いから先後関係はSA1048→SA1047となる。SA1051は柱穴の切り合いがなく先後関係は不明である。

#### 掘立柱建物跡 (SA1049)

位置 Loc.E2・α I・de17~18 床面積 21.7m<sup>2</sup> 主軸方向 N-6°-W

柱穴 8基 (径30~80cm、深さ10~35cm)

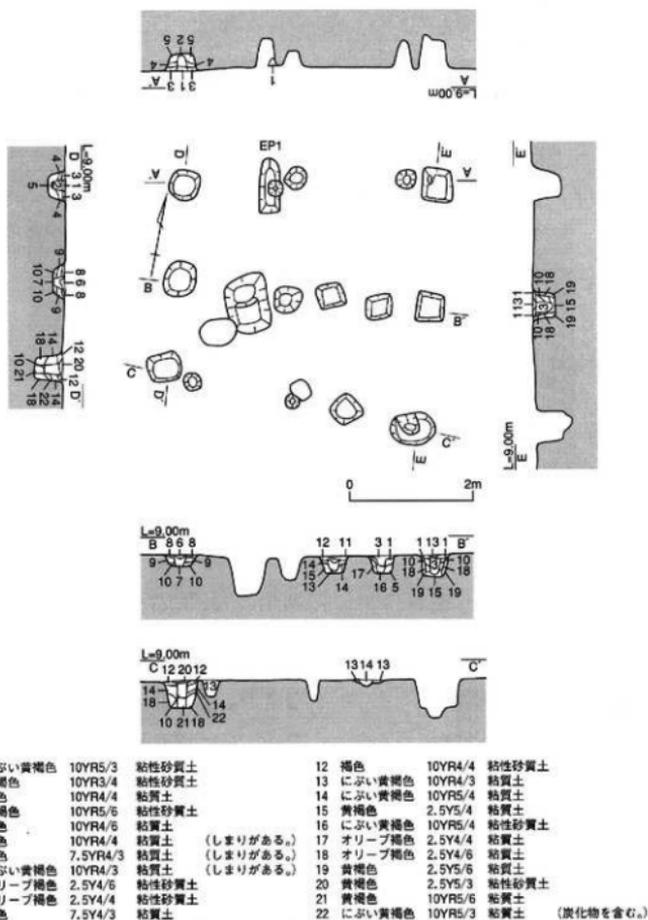
土層 覆土は各柱穴ごとに1~8層に分かれ、褐色系の粘質土を主体とする。一部柱穴では炭化物を含む。

柱穴間距離 最大 360cm 最小 180cm 梁間 360cm 桁行 590cm

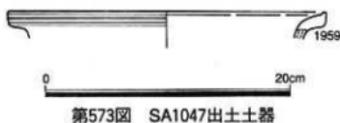
遺物出土状況 土器片と鉄器が出土している。図示できる遺物は3点で、土器がEP2出土の須恵器蓋2点、鉄器がEP1出土の釘1点である。

時期 古代 (平安時代 (9世紀前半)) である。

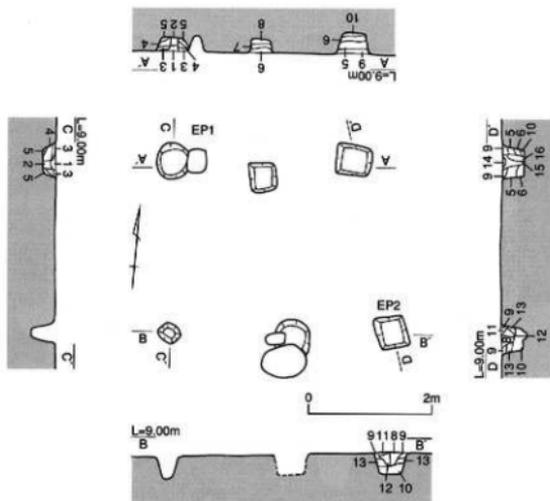
備考 1間×3間の規模をもつ。SA1050と重複する。柱穴の切り合いから先後関係はSA1049→SA1050となる。



第572図 SA1047平・断面図 (S=1/80)

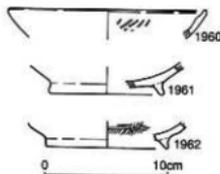


第573図 SA1047出土土器

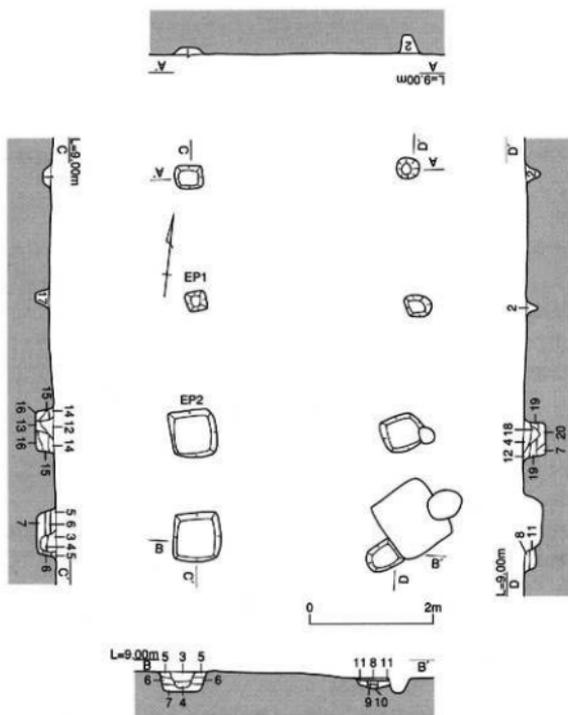


- |   |        |         |                |    |        |         |              |
|---|--------|---------|----------------|----|--------|---------|--------------|
| 1 | にぶい黄褐色 | 10YR5/3 | 粘性砂質土 (しまりがある) | 9  | オリーブ褐色 | 2.5Y4/3 | 粘性砂質土        |
| 2 | 暗褐色    | 10YR3/3 | 粘性砂質土 (しまりがある) | 10 | にぶい黄褐色 | 10YR6/3 | 粘質土          |
| 3 | 褐色     | 10YR4/4 | 粘質土 (しまりがある)   | 11 | 褐色     | 7.5Y4/3 | 粘性砂質土        |
| 4 | 褐色     | 10YR4/6 | 砂質土            | 12 | にぶい黄褐色 | 10YR4/3 | 粘質土          |
| 5 | にぶい黄褐色 | 10YR5/4 | 砂質土            | 13 | 黄褐色    | 2.5Y5/6 | 砂質土          |
| 6 | にぶい黄褐色 | 10YR5/3 | 粘質土            | 14 | にぶい黄褐色 | 10YR4/3 | 粘質土 (しまりがある) |
| 7 | 褐色     | 10YR4/4 | 粘質土            | 15 | 暗褐色    | 10YR3/4 | 粘質土          |
| 8 | 黄褐色    | 2.5Y5/4 | 粘質土            | 16 | 褐色     | 10YR4/4 | 粘性砂質土        |

第574図 SA1048平・断面図 (S=1/80)

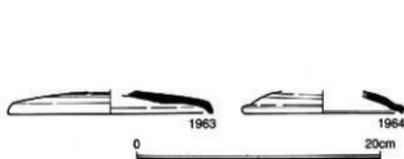


第575図 SA1048出土土器



- |    |        |         |               |    |        |         |                 |
|----|--------|---------|---------------|----|--------|---------|-----------------|
| 1  | オリーブ褐色 | 2.5Y4/4 | 粘質土           | 11 | オリーブ褐色 | 2.5Y4/6 | 粘性砂質土 (炭化物を含む。) |
| 2  | 褐色     | 10YR4/4 | 粘質土 (しまりがある。) | 12 | にぶい黄褐色 | 10YR5/4 | 粘質土             |
| 3  | 褐色     | 10YR4/4 | 砂質土           | 13 | 黄褐色    | 2.5Y5/4 | 粘質土             |
| 4  | にぶい黄褐色 | 10YR5/3 | 粘性砂質土         | 14 | オリーブ褐色 | 2.5Y4/4 | 粘性砂質土           |
| 5  | 灰黄褐色   | 10YR6/2 | 砂質土           | 15 | オリーブ褐色 | 2.5Y4/3 | 粘性砂質土           |
| 6  | 暗褐色    | 10YR3/3 | 粘性砂質土         | 16 | にぶい黄褐色 | 10YR4/3 | 粘質土             |
| 7  | 褐色     | 10YR4/4 | 粘質土           | 17 | 暗褐色    | 10YR3/3 | 粘質土 (しまりがある。)   |
| 8  | 褐色     | 10YR4/6 | 粘性砂質土         | 18 | 褐色     | 10YR4/4 | 粘性砂質土           |
| 9  | にぶい黄褐色 | 10YR5/4 | 粘性砂質土         | 19 | 灰黄褐色   | 10YR4/2 | 粘質土             |
| 10 | にぶい黄褐色 | 10YR5/3 | 粘質土           | 20 | にぶい黄褐色 | 10YR4/3 | 粘性砂質土           |

第576図 SA1049平・断面図 (S=1/80)



第577図 SA1049出土土器



第578図 SA1049出土鉄器

#### 掘立柱建物跡 (SA1050)

位置 Loc.E2・α I・def18~19 床面積 37.2m<sup>2</sup> 主軸方向 N-6° -W

柱穴 10基 (径50~110cm、深さ30~45cm)

土層 覆土は各柱穴ごとに5~12層に分かれ、黄褐色系の粘質土を主体とする。一部柱穴では炭化物を含む。断面観察により柱痕が確認できるものがある。

柱穴間距離 最大 280cm 最小 200cm 梁間 510cm 桁行 730cm

遺物出土状況 土器片が出土している。図示できる遺物は2点で、EP1出土の竈1点とEP2出土の土師器皿1点である。

時期 古代 (平安時代 (9世紀前半)) である。

備考 2間×3間の規模をもつ。SA1045、SA1049、SA1059と重複する。柱穴の切り合いから先後関係はSA1049→SA1050→SA1045、SA1050→SA1059となる。

#### 掘立柱建物跡 (SA1051)

位置 Loc.E2・α II・cd20~1 床面積 21.8m<sup>2</sup> 主軸方向 N-85° -E

柱穴 12基 (径30~80cm、深さ20~40cm)

土層 覆土は各柱穴ごとに1~11層に分かれ、黄褐色系の粘質土を主体とする。一部の柱穴では炭化物を含む。断面観察により柱痕が確認できるものがある。

柱穴間距離 最大 240cm 最小 120cm 梁間 340cm 桁行 (640)cm

遺物出土状況 土器数点が出土している。図示できる遺物は9点で、EP1から甕片1点、EP2から須恵器杯1点、EP3から土師器杯1点、EP4から甕・甌・蓋・杯・皿の6点である。

時期 古代 (平安時代 (9世紀前半)) である。

備考 削平により一部未検出の柱穴がある。2間×4間の規模をもつ。SA1048と重複するが、柱穴の切り合いがなく先後関係は不明である。

#### 掘立柱建物跡 (SA1052)

位置 Loc.E2・α II・de20~1 床面積 28.4m<sup>2</sup> 主軸方向 N-83° -E

柱穴 12基 (径40~80cm、深さ25~40cm)

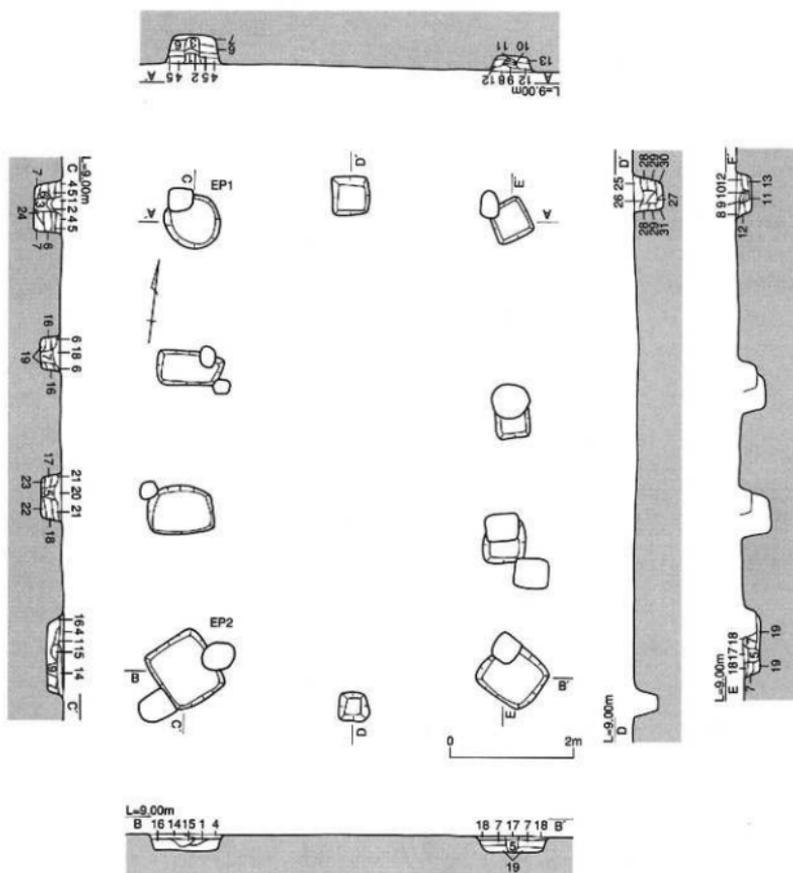
土層 覆土は各柱穴ごとに8~10層に分かれ、黄褐色系の粘質土を主体とする。断面観察により柱痕が確認できるものがある。

柱穴間距離 最大 260cm 最小 110cm 梁間 450cm 桁行 (600)cm

遺物出土状況 図示できる遺物は、EP1出土の鉄片1点である。

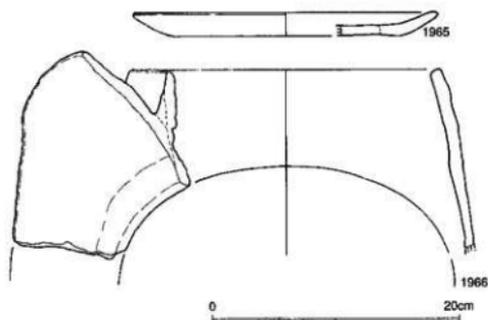
時期 古代 (平安時代) である。

備考 東測端部は調査区外に延びる可能性がある。検出できた範囲では2間×4間の規模をもつ。SA1053、SA1054、SA1059と重複する。柱穴の切り合いから先後関係はSA1052→SA1059となる。SA1053、SA1054とは柱穴の切り合いがなく先後関係は不明である。

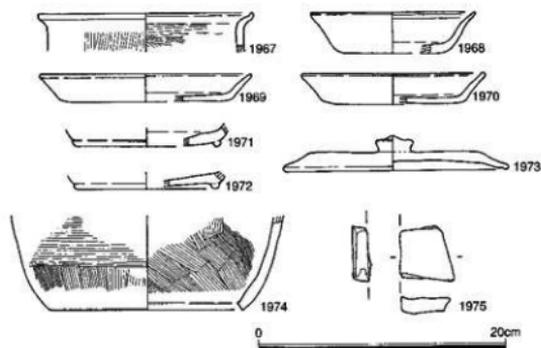


- |    |        |         |                |    |         |         |              |
|----|--------|---------|----------------|----|---------|---------|--------------|
| 1  | にぶい黄褐色 | 10YR5/4 | 粘性砂質土          | 17 | にぶい黄褐色  | 10YR4/3 | 粘性砂質土        |
| 2  | にぶい黄褐色 | 10YR4/3 | 粘質土 (炭化物を含む)   | 18 | 褐色      | 10YR4/4 | 粘質土          |
| 3  | 褐色     | 10YR4/6 | 粘質土            | 19 | 暗褐色     | 10YR3/4 | 粘質土          |
| 4  | 黄褐色    | 10YR5/6 | 粘性砂質土          | 20 | にぶい黄褐色  | 10YR6/4 | 砂質土          |
| 5  | にぶい黄褐色 | 10YR5/3 | 粘質土            | 21 | 黄褐色     | 10YR5/6 | 粘質土          |
| 6  | オリーブ褐色 | 2.5Y4/6 | 粘質土            | 22 | 暗褐色     | 10YR3/3 | 粘質土          |
| 7  | オリーブ褐色 | 2.5Y4/3 | 粘質土            | 23 | にぶい黄褐色  | 10YR4/3 | 粘質土          |
| 8  | オリーブ褐色 | 2.5Y4/3 | 粘性砂質土 (しまりがある) | 24 | オリーブ褐色  | 2.5Y4/4 | 粘質土          |
| 9  | オリーブ褐色 | 2.5Y4/4 | 粘質土 (しまりがある)   | 25 | 暗褐色     | 10YR3/4 | 粘質土 (しまりがある) |
| 10 | 暗褐色    | 10YR3/4 | 粘性砂質土 (しまりがある) | 26 | にぶい黄褐色  | 10YR4/3 | 粘質土 (しまりがある) |
| 11 | 褐色     | 10YR4/6 | 粘性砂質土 (しまりがある) | 27 | 褐色      | 10YR4/4 | 粘質土 (しまりがある) |
| 12 | にぶい黄褐色 | 10YR5/4 | 砂質土            | 28 | オリーブ褐色  | 2.5Y4/3 | 粘質土 (しまりがある) |
| 13 | にぶい黄褐色 | 10YR5/3 | 砂質土            | 29 | 暗オリーブ褐色 | 2.5Y3/3 | 粘質土 (しまりがある) |
| 14 | 暗褐色    | 10YR3/4 | 粘性砂質土          | 30 | 灰黄褐色    | 10YR4/2 | 粘質土 (しまりがある) |
| 15 | 褐色     | 10YR4/4 | 粘性砂質土          | 31 | 栗色      | 10YR4/6 | 粘質土 (しまりがある) |
| 16 | 黄褐色    | 2.5Y5/4 | 粘質土            |    |         |         |              |

第579図 SA1050平・断面図 (S=1/80)



第580図 SA1050出土土器



第581図 SA1051出土土器

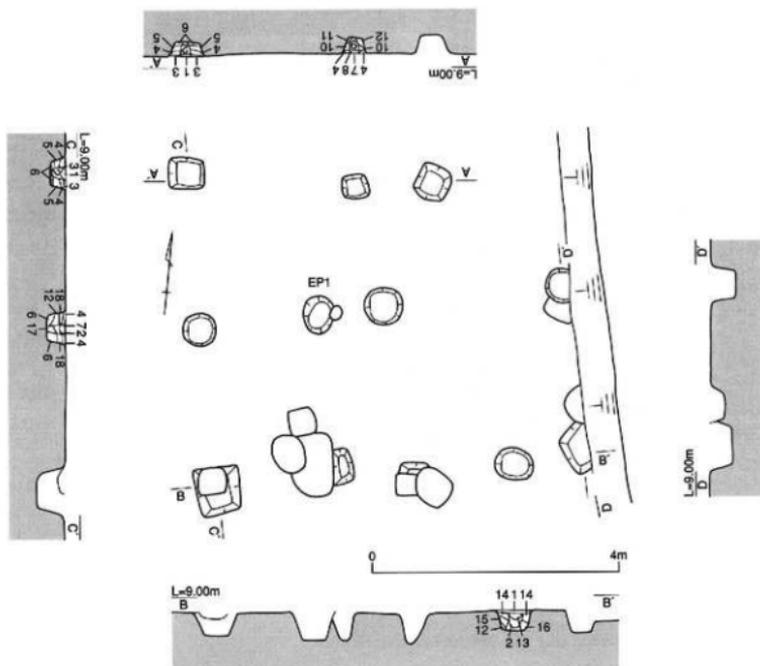
掘立柱建物跡 (SA1053)

位置 Loc.E2・α I II・ef20~1 床面積 28.9㎡ 主軸方向 N-83°-E

柱穴 12基 (径60~90cm、深さ30~50cm)

土層 覆土は各柱穴ごとに6~11層に分かれ、褐色系の粘質土を主体とする。一部の柱穴では炭化物を





- |           |         |       |           |           |         |     |           |
|-----------|---------|-------|-----------|-----------|---------|-----|-----------|
| 1 暗褐色     | 10YR3/3 | 粘質土   | (しまりがある。) | 10 オリーブ褐色 | 2.5Y4/3 | 粘質土 | (しまりがある。) |
| 2 にぶい黄褐色  | 10YR4/3 | 粘質土   | (しまりがある。) | 11 褐色     | 10YR4/4 | 粘質土 |           |
| 3 暗オリーブ褐色 | 2.5Y3/3 | 粘質土   | (しまりがある。) | 12 オリーブ褐色 | 2.5Y4/4 | 粘質土 |           |
| 4 にぶい黄褐色  | 10YR5/4 | 砂質土   |           | 13 褐色     | 10YR4/4 | 粘質土 | (しまりがある。) |
| 5 にぶい黄褐色  | 10YR6/4 | 粘性砂質土 |           | 14 黄褐色    | 10YR5/6 | 砂質土 |           |
| 6 にぶい黄褐色  | 10YR5/3 | 砂質土   |           | 15 褐色     | 10YR4/6 | 砂質土 |           |
| 7 褐色      | 10YR4/4 | 粘性砂質土 | (しまりがある。) | 16 にぶい黄褐色 | 10YR5/4 | 粘質土 |           |
| 8 暗褐色     | 10YR3/4 | 粘性砂質土 | (しまりがある。) | 17 にぶい黄褐色 | 10YR5/3 | 砂質土 | (しまりがある。) |
| 9 にぶい黄褐色  | 10YR4/3 | 粘性砂質土 | (しまりがある。) | 18 オリーブ褐色 | 2.5Y4/3 | 粘質土 |           |

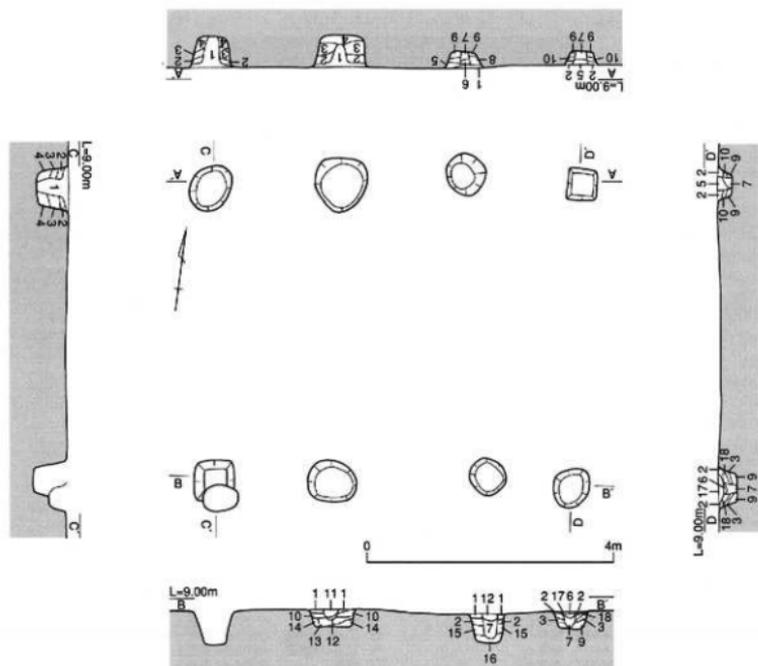
第583図 SA1052平・断面図 (S=1/80)



T42

0 5cm

第584図 SA1052出土鉄器



1	にぶい黄褐色	10YR4/3	粘質土	(しまりがある。)	10	にぶい黄褐色	10YR5/3	粘質土	
2	にぶい黄褐色	10YR5/4	砂質土		11	にぶい黄褐色	10YR5/4	粘質土	(しまりがある。)
3	黄褐色	10YR5/6	粘性砂質土		12	褐色	10YR4/4	粘性砂質土	(しまりがある。)
4	褐色	10YR4/6	粘性砂質土		13	オリブ褐色	2.5Y4/4	粘質土	
5	褐色	10YR4/4	粘質土	(しまりがある。)	14	オリブ褐色	2.5Y4/3	粘質土	
6	暗褐色	10YR3/3	粘質土	(しまりがある。)	15	にぶい黄褐色	10YR5/3	砂質土	
7	暗褐色	10YR3/4	粘質土	(しまりがある。)	16	オリブ褐色	2.5Y4/3	砂質土	
8	にぶい黄褐色	10YR5/3	粘質土	(しまりがある。)	17	にぶい黄褐色	10YR4/3	粘性砂質土	(しまりがある。)
9	黒褐色	10YR3/2	粘質土	(しまりがある。)	18	にぶい黄褐色	10YR5/4	砂質土	

第585図 SA1053平・断面図 (S=1/80)

### 掘立柱建物跡 (SA1054)

位置 Loc.E2・α I II ef20~1 床面積 14.6m<sup>2</sup> 主軸方向 N-81° -E

柱穴 8基 (径40~90cm、深さ25~50cm)

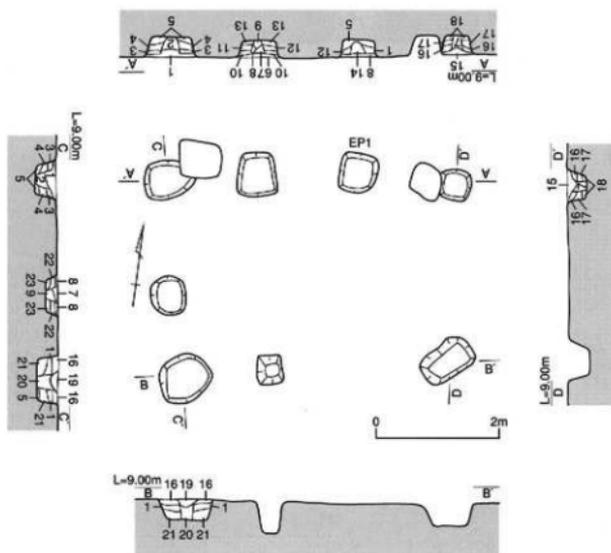
土層 覆土は各柱穴ごとに5~10層に分かれ、黄褐色系の粘質土を主体とする。断面観察により柱痕が確認できるものがある。

柱穴間距離 最大 300cm 最小 130cm 梁間 300cm 桁行 (470)cm

遺物出土状況 土器数点が出土している。図示できる遺物はEP1出土の土師器杯1点、土師器高坏1点である。

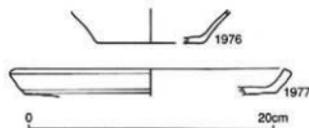
時期 古代 (平安時代 (9世紀前半)) である。

備考 東側端部は調査区外に延びる可能性がある。柱穴が検出できた範囲では2間×3間の規模をもつ。



- |    |        |         |               |    |        |         |                 |
|----|--------|---------|---------------|----|--------|---------|-----------------|
| 1  | にぶい黄褐色 | 10YR5/4 | 粘性砂質土         | 13 | にぶい黄褐色 | 10YR5/4 | 粘質土             |
| 2  | にぶい黄褐色 | 10YR4/3 | 粘質土           | 14 | 暗褐色    | 10YR3/4 | 粘質土 (しまりがある。)   |
| 3  | 暗褐色    | 10YR3/3 | 粘質土           | 15 | にぶい黄褐色 | 10YR5/4 | 粘質土 (しまりがある。)   |
| 4  | オリブ褐色  | 2.5Y4/3 | 粘質土           | 16 | にぶい黄褐色 | 10YR5/3 | 粘質土             |
| 5  | 黄褐色    | 10YR5/6 | 粘質土           | 17 | 褐色     | 10YR4/4 | 粘質土             |
| 6  | にぶい黄褐色 | 10YR5/3 | 粘質土 (しまりがある。) | 18 | 黄褐色    | 2.5Y5/4 | 粘質土             |
| 7  | にぶい黄褐色 | 10YR4/3 | 粘質土 (しまりがある。) | 19 | 褐色     | 10YR4/6 | 粘質土 (しまりがある。)   |
| 8  | 褐色     | 10YR4/4 | 粘質土 (しまりがある。) | 20 | にぶい黄褐色 | 10YR4/3 | 粘性砂質土 (しまりがある。) |
| 9  | 暗褐色    | 10YR3/3 | 粘質土 (しまりがある。) | 21 | 褐色     | 10YR4/4 | 粘性砂質土 (しまりがある。) |
| 10 | オリブ褐色  | 2.5Y4/3 | 粘質土 (しまりがある。) | 22 | 黄褐色    | 2.5Y5/3 | 粘性砂質土           |
| 11 | にぶい黄褐色 | 10YR6/3 | 砂質土           | 23 | 灰黄褐色   | 10YR4/2 | 粘質土             |
| 12 | 褐色     | 10YR4/6 | 粘性砂質土         |    |        |         |                 |

第586図 SA1054平・断面図 (S=1/80)



第587図 SA1054出土土器

SA1052、SA1053、SA1055と重複する。柱穴の切り合いから先後関係はSA1054→SA1055→SA1053となる。SA1052とは柱穴の切り合いがなく先後関係は不明である。

#### 掘立柱建物跡 (SA1055)

位置 Loc.E2・α I II・f20～1 床面積 14.4m<sup>2</sup> 主軸方向 N-83° -E

柱穴 8基 (径50～90cm、深さ20～55cm)

土層 覆土は各柱穴ごとに7～12層に分かれ、黄褐色系の粘質土を主体とする。断面観察により柱痕が確認できるものがある。

柱穴間距離 最大 280cm 最小 140cm 梁間 230cm 桁行 (380)cm

遺物出土状況 図示できる遺物はEP1出土の管状土錘2点と土師器椀1点である。

時期 古代 (平安時代 (9世紀)) である。

備考 東側端部は調査区外に延びる可能性がある。検出された柱穴は2間×2間の規模をもつ。南側1間は此部分と考えられる。SA1053、SA1054と重複する。柱穴の切り合いから先後関係は、SA1054→SA1055→SA1053となる。

#### 掘立柱建物跡 (SA1056)

位置 Loc.E2・α I II・fg19～1 床面積 20.4m<sup>2</sup> 主軸方向 N-83° -E

柱穴 12基 (径30～60cm、深さ25～35cm)

土層 覆土は各柱穴ごとに1～10層に分かれ、黄褐色系の粘性砂質土を主体とする。断面観察により柱痕が確認できるものがある。

柱穴間距離 最大 220cm 最小 80cm 梁間 340cm 桁行 600cm

遺物出土状況 図示できる遺物はEP1出土の土師器皿1点、須恵器甕1点、EP2出土の須恵器蓋1点の3点である。

時期 古代 (平安時代 (9世紀後半)) である。

備考 2間×3間の規模をもつ。南側1間は此部分と考えられる。SA1057と重複する。柱穴の切り合いから先後関係は、SA1056→SA1057となる。

#### 掘立柱建物跡 (SA1057)

位置 Loc.E2 α I fg19～20 床面積 17.6m<sup>2</sup> 主軸方向 N-83° -E

柱穴 6基 (径40～70cm、深さ20～40cm)

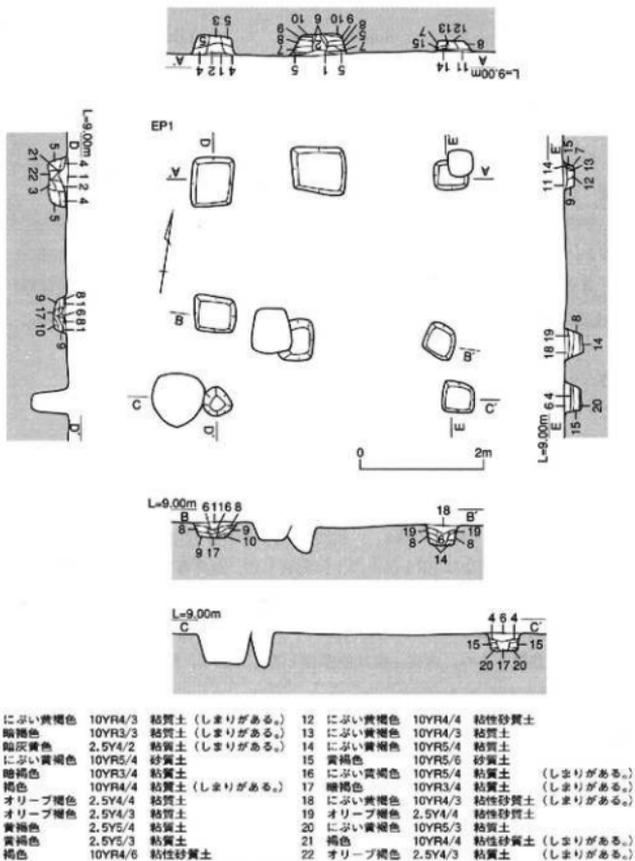
土層 覆土は各柱穴ごとに6～9層に分かれ、黄褐色系の粘質土を主体とする。断面観察により柱痕が確認できるものがある。

柱穴間距離 最大 240cm 最小 170cm 梁間 420cm 桁行 (420)cm

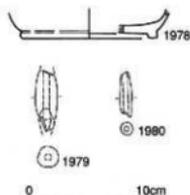
遺物出土状況 図示できる遺物は、EP1出土の土師器皿1点、EP2出土の土師器杯2点、EP3出土の鉄片2点である。

時期 古代 (平安時代 (10世紀)) である。

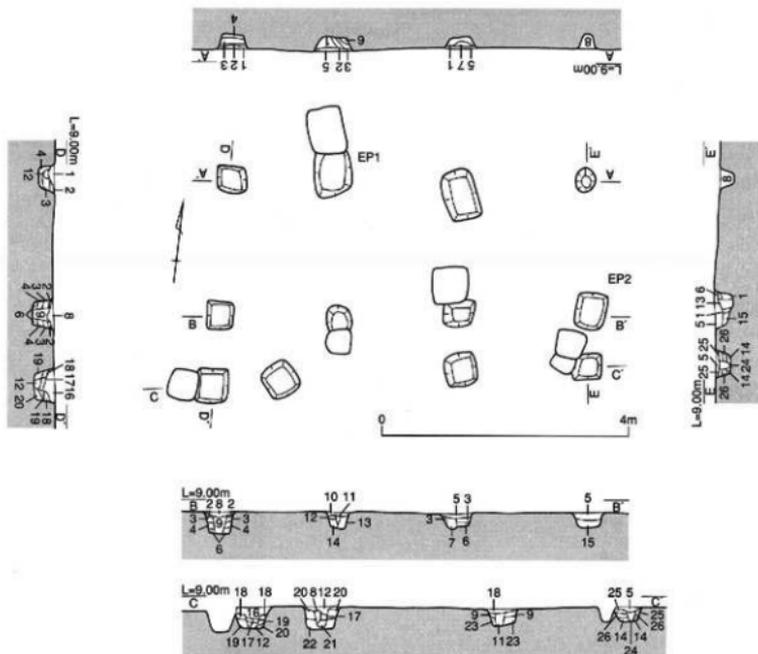
備考 北端は調査区外に延びるため未検出である。検出できた柱穴は2間×2間の規模をもつ。SA1056と重複する。柱穴の切り合いから先後関係は、SA1056→SA1057となる。



第588図 SA1055平・断面図 (S=1/80)

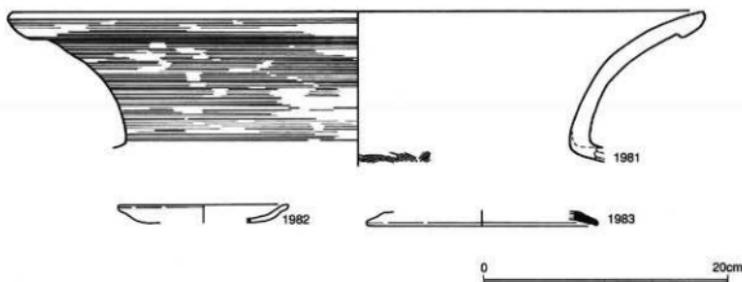


第589図 SA1055出土土器

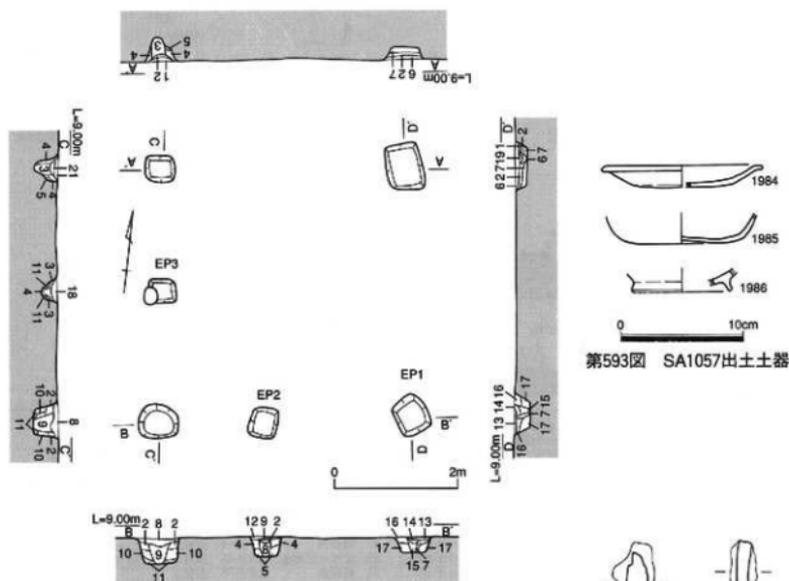


- |    |         |         |                |    |        |         |                |
|----|---------|---------|----------------|----|--------|---------|----------------|
| 1  | オリーブ褐色  | 2.5Y4/4 | 粘性砂質土          | 14 | にぶい黄褐色 | 10YR5/3 | 粘性砂質土          |
| 2  | にぶい黄褐色  | 2.5Y4/3 | 粘性砂質土          | 15 | オリーブ褐色 | 2.5Y4/3 | 粘質土            |
| 3  | 褐色      | 10YR4/4 | 粘質土            | 16 | 暗褐色    | 10YR3/3 | 粘性砂質土 (しまりがある) |
| 4  | にぶい黄褐色  | 10YR4/3 | 粘質土            | 17 | 暗褐色    | 10YR3/4 | 粘質土 (しまりがある)   |
| 5  | 黄褐色     | 2.5Y5/3 | 粘性砂質土          | 18 | 褐色     | 10YR4/4 | 砂質土            |
| 6  | 黄褐色     | 2.5Y5/4 | 粘性砂質土          | 19 | にぶい黄褐色 | 10YR5/3 | 砂質土            |
| 7  | 暗オリーブ褐色 | 2.5Y3/3 | 粘性砂質土          | 20 | にぶい黄褐色 | 10YR5/4 | 粘質土            |
| 8  | 暗褐色     | 10YR3/3 | 粘質土 (しまりがある)   | 21 | 黄褐色    | 10YR2/3 | 粘質土 (しまりがある)   |
| 9  | にぶい黄褐色  | 10YR4/3 | 粘性砂質土 (しまりがある) | 22 | 黄褐色    | 10YR5/6 | 砂質土            |
| 10 | 暗褐色     | 10YR4/4 | 砂質土 (しまりがある)   | 23 | オリーブ褐色 | 2.5Y4/4 | 粘質土 (しまりがある)   |
| 11 | 暗褐色     | 10YR3/4 | 粘性砂質土 (しまりがある) | 24 | 黄褐色    | 2.5Y4/3 | 粘質土            |
| 12 | にぶい黄褐色  | 10YR4/3 | 粘質土 (しまりがある)   | 25 | 褐色     | 10YR4/4 | 粘性砂質土          |
| 13 | オリーブ褐色  | 2.5Y4/3 | 粘性砂質土 (しまりがある) | 26 | にぶい黄褐色 | 10YR5/4 | 粘性砂質土          |

第590図 SA1056平・断面図 (S=1/80)



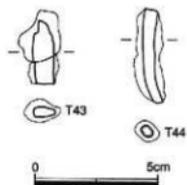
第591図 SA1056出土土器



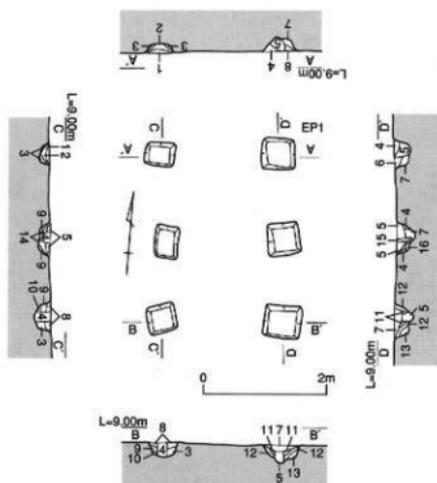
第593図 SA1057出土土器

- |                               |                                |
|-------------------------------|--------------------------------|
| 1 にがい黄褐色 10YR5/3 粘性砂質土        | 11 褐色 10YR4/4 粘質土              |
| 2 にがい黄褐色 10YR4/3 粘質土          | 12 褐色 10YR4/4 粘質土 (しまりがある)     |
| 3 暗褐色 10YR3/3 粘性砂質土           | 13 暗灰黄色 2.5Y4/2 粘性砂質土 (しまりがある) |
| 4 にがい黄褐色 10YR4/3 粘性砂質土        | 14 暗褐色 7.5YR3/4 粘質土 (しまりがある)   |
| 5 灰黄褐色 10YR4/2 粘性砂質土          | 15 褐色 10YR4/5 粘質土 (しまりがある)     |
| 6 オリーブ褐色 2.5Y4/4 粘質土 (しまりがある) | 16 褐色 10YR4/5 粘性砂質土            |
| 7 にがい黄褐色 10YR5/4 粘質土          | 17 オリーブ褐色 2.5Y4/4 粘質土          |
| 8 暗褐色 10YR3/3 粘質土 (しまりがある)    | 18 褐色 10YR4/4 粘性砂質土            |
| 9 暗褐色 10YR3/4 粘質土 (しまりがある)    | 19 オリーブ褐色 2.5Y4/3 粘質土 (しまりがある) |
| 10 オリーブ褐色 2.5Y4/3 粘質土         |                                |

第592図 SA1057平・断面図 (S=1/80)

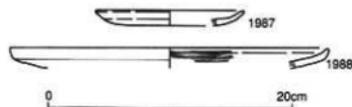


第594図 SA1057出土鉄器



1 暗褐色	10YR3/3	粘性砂質土	9 にぶい黄褐色	10YR4/3	粘質土
2 にぶい黄褐色	10YR4/3	砂質土	10 褐色	10YR4/6	砂質土
3 褐色	10YR4/4	砂質土	11 オリーブ褐色	2.5Y4/3	粘質土
4 褐色	10YR4/4	粘性砂質土	12 オリーブ褐色	2.5Y4/4	粘性砂質土
5 にぶい黄褐色	10YR4/3	粘性砂質土	13 オリーブ褐色	2.5Y4/4	粘質土
6 にぶい黄褐色	10YR5/3	粘性砂質土	14 褐色	10YR4/6	粘性砂質土
7 灰黄褐色	10YR4/2	粘性砂質土	15 褐色	10YR4/6	粘質土
8 オリーブ褐色	2.5Y4/3	粘性砂質土	16 褐色	10YR4/4	粘質土

第595図 SA1058平・断面図 (S=1/80)



第596図 SA1058出土土器

### 掘立柱建物跡 (SA1058)

位置 Loc.E2・α I・g18 床面積 5.4㎡ 主軸方向 N-5°-W

柱穴 6基 (径40~60cm、深さ15~30cm)

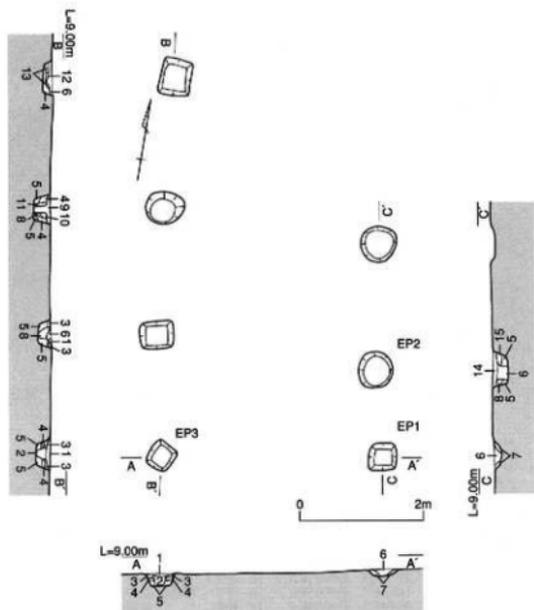
土層 覆土は各柱穴ごとに4~7層に分かれ、褐色系の粘性砂質土を主体とする。断面観察により柱痕が確認できるものがある。

柱穴間距離 最大 190cm 最小 130cm 梁間 200cm 桁行 270cm

遺物出土状況 図示できる遺物は、EP1出土の上師器壺1点と土師器皿1点である。

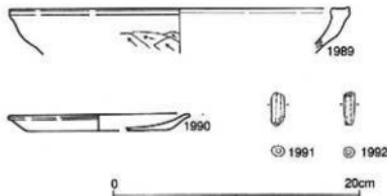
時期 古代 (平安時代 (10世紀)) である。

備考 1間×2間の規模をもつ。



- |   |        |         |               |    |        |         |               |
|---|--------|---------|---------------|----|--------|---------|---------------|
| 1 | にぶい黄褐色 | 10YR4/3 | 粘質土           | 9  | 褐色     | 10YR4/4 | 粘質土           |
| 2 | 褐色     | 10YR4/4 | 粘質土 (炭化物を含む。) | 10 | 黄褐色    | 10YR5/6 | 粘質土           |
| 3 | オリーブ褐色 | 2.5Y4/3 | 粘質土           | 11 | にぶい黄褐色 | 10YR5/3 | 粘質土           |
| 4 | にぶい黄褐色 | 10YR5/4 | 砂質土           | 12 | 褐色     | 10YR4/6 | 砂質土 (しまりがある。) |
| 5 | オリーブ褐色 | 2.5Y4/4 | 粘質土           | 13 | 黄褐色    | 10YR5/6 | 砂質土           |
| 6 | 褐色     | 10YR4/4 | 粘質土 (しまりがある。) | 14 | にぶい黄褐色 | 10YR4/3 | 粘質土 (しまりがある。) |
| 7 | にぶい黄褐色 | 10YR4/3 | 粘質土 (しまりがある。) | 15 | 褐色     | 7.5Y4/3 | 粘質土           |
| 8 | にぶい黄褐色 | 10YR5/4 | 粘質土           |    |        |         |               |

第597図 SA1059平・断面図 (S=1/80)



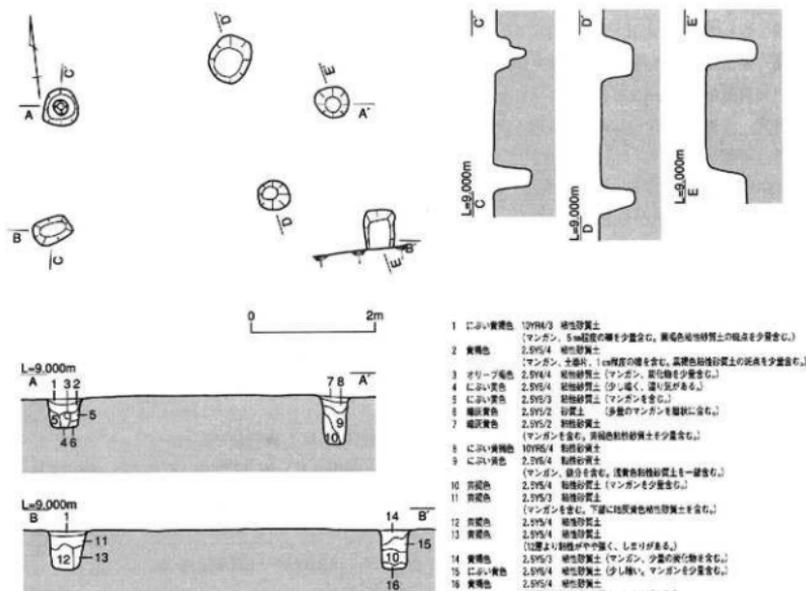
第598図 SA1059出土土器

掘立柱建物跡 (SA1059)

位置 Loc.E2・α I・def19~20 床面積 21.0m<sup>2</sup> 主軸方向 N-9°-W

柱穴 7基 (径40~60cm、深さ10~30cm)

土層 覆土は各柱穴ごとに3~8層に分かれ、黄褐色系の粘質土を主体とする。一部柱穴では炭化物を含む。断面観察により柱痕が確認できるものがある。



第599図 SA1060平・断面図 (S=1/80)

柱穴間距離 最大 370cm 最小 140cm 梁間 340cm 桁行 600cm

遺物出土状況 図示できる遺物は、EP1出土の管状土鉢2点、EP2出土の鉢、EP3出土の土師器皿である。

時期 古代 (平安時代 (10世紀)) である。

備考 柱穴の深さが浅く、未検出の柱穴が存在すると考えられる。1間×3間の規模をもつ。SA1050、SA1052、SA1053と重複する。柱穴の切り合いから先後関係は、SA1050→SA1059、SA1052→SA1059となる。SA1053は柱穴の切り合いがなく先後関係は不明である。

#### 掘立柱建遺跡 (SA1060)

位置 Loc.E2・α I II・19~20 床面積 9.2㎡ 主軸方向 N-85°-E

柱穴 6基 (径40~80cm、深さ50~80cm)

土層 覆土は各柱穴ごとに4~7層に分かれ、黄褐色系の粘性砂質土を主体とする。一部柱穴では炭化物を含む。

柱穴間距離 最大 360cm 最小 180cm 梁間 220cm 桁行 470cm

遺物出土状況 遺物は出土していない。

時期 古代 (平安時代) である。

備考 1間×2間の規模をもつ。やや不整形であるため、未検出の柱穴が存在する可能性がある。

## ②竪穴住居跡

### 竪穴住居跡 (SB1001)

位置 Loc.DE2・αⅡ・ta18~20 平面形 方形 床面積 18.0㎡

土層 覆土は黄褐色系の粘質土を主体とし、13層からなる。柱穴内は黄褐色系の粘質土を主体とし、わずかに炭化物を含む。

主柱穴 5基 (径30~40cm、深さ10~25cm)

炉跡 不明 施設 主柱穴以外に柱穴3基、土坑1基、北西辺に張り出し部(100×40cm)を有する。

遺物出土状況 覆土から土器片が出土している。図示できる遺物は土師器釜1点である。

時期 古代(奈良時代(8世紀))である。

### 竪穴住居跡 (SB1002)

位置 Loc.E2・αⅠ・ab20 平面形 方形 床面積 5.1㎡

土層 覆土は黄褐色系の粘質土を主体とし、16層からなる。柱穴内はオリブ褐色粘質土1層である。

主柱穴 2基 (径20~30cm、深さ10~15cm)

炉跡 不明 施設 主柱穴以外に土坑1基を有する。

遺物出土状況 覆土から土器片が出土している。図示できる遺物は土師器甕・杯・須恵器杯・管状土錘・紡錘車など10点である。

時期 古代(平安時代(9世紀前半))である。

備考 SB1003と重複する。先後関係は遺構の切り合いから、SB1003→SB1002となる。

### 竪穴住居跡 (SB1003)

位置 Loc.E2・αⅠⅡ・ab20~1 平面形 方形 床面積 14.0㎡

土層 覆土は黄褐色系の粘質土を主体とし、17層からなる。柱穴内にはぶい黄褐色粘質土1層である。

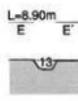
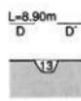
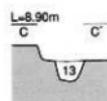
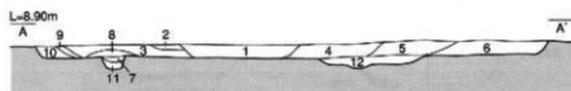
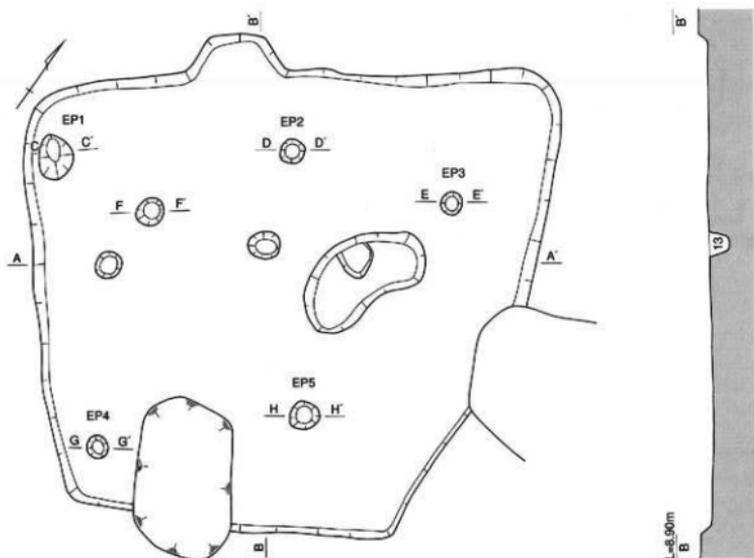
主柱穴 2基 (径15~30cm、深さ5~10cm)

炉跡 不明 施設 主柱穴以外に柱穴2基、土坑4基有する。

遺物出土状況 覆土から土器片が出土している。図示できる遺物は、土師器杯1点である。

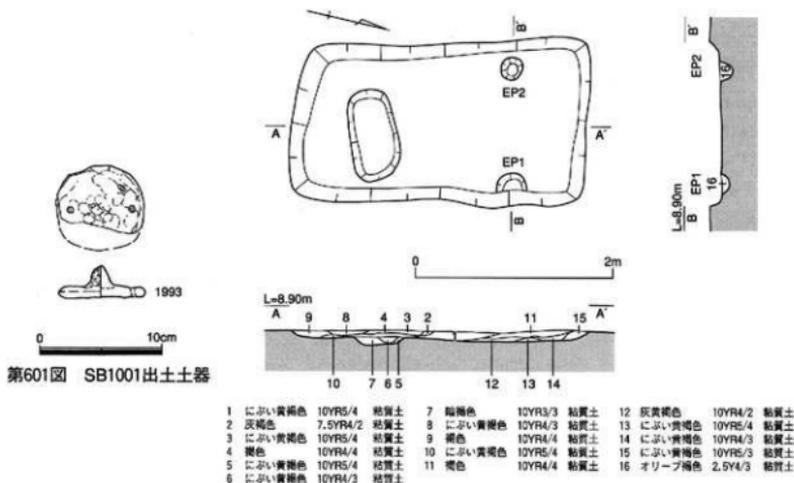
時期 古代(平安時代(9世紀前半))である。

備考 SB1002、SB1004と重複する。先後関係は遺構の切り合いから、SB1004→SB1003→SB1002となる。



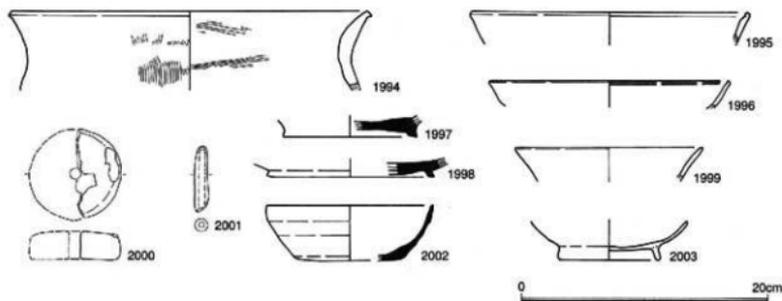
- |    |        |         |                               |
|----|--------|---------|-------------------------------|
| 1  | にぶい黄褐色 | 10YR4/3 | 粘質土                           |
| 2  | 暗褐色    | 10YR3/3 | 粘質土                           |
| 3  | にぶい黄褐色 | 10YR5/3 | 粘質土                           |
| 4  | オリーブ褐色 | 2.5Y4/3 | 粘質土                           |
| 5  | にぶい黄褐色 | 10YR4/3 | 粘性砂質土                         |
| 6  | オリーブ褐色 | 2.5Y4/3 | 粘質土                           |
| 7  | にぶい黄褐色 | 10YR4/3 | 粘質土                           |
| 8  | にぶい黄褐色 | 10YR5/4 | 粘性砂質土                         |
| 9  | にぶい黄褐色 | 10YR4/3 | 粘質土                           |
| 10 | 暗褐色    | 10YR3/3 | 粘質土                           |
| 11 | 褐色     | 10YR4/4 | 粘性砂質土                         |
| 12 | オリーブ褐色 | 10YR5/3 | 粘質土                           |
| 13 | 灰黄褐色   | 10YR4/2 | 粘質土<br>(マンガン粒を含む。わずかに炭化粒を含む。) |

第600図 SB1001平・断面図 (S=1/50)



第601図 SB1001出土土器

第602図 SB1002平・断面図 (S=1/50)



第603図 SB1002出土土器

#### 竪穴住居跡 (SB1004)

位置 Loc.E2・α I II・b20~1 平面形 方形 床面積 13.5㎡

土層 覆土は褐色系粘質土3層からなる。柱穴内はにぶい黄褐色の粘質土1層からなる。

支柱穴 3基 (径20~30cm、深さ10~20cm)

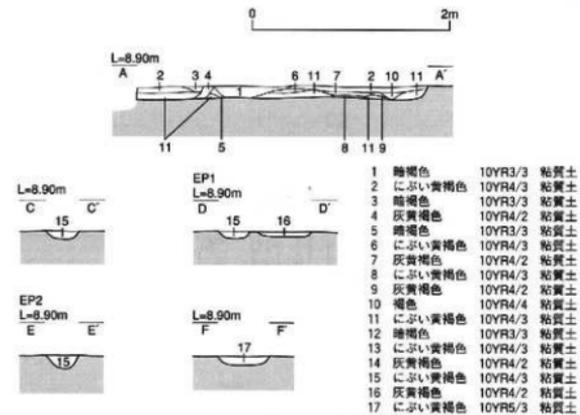
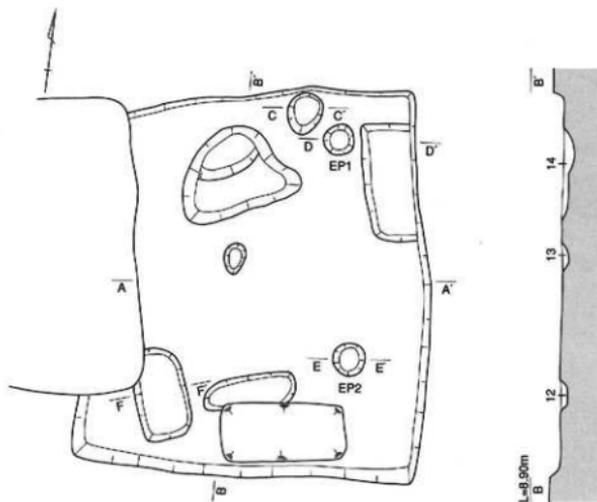
炉跡 不明

施設 支柱穴以外に柱穴1基、土坑2基を有する。

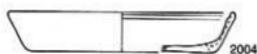
遺物出土状況 図示できる遺物は砥石1点である。

時期 古代 (奈良時代 (8世紀)) である。

備考 SB1003と重複する。先後関係は遺構の切り合いから、SB1004→SB1003となる。

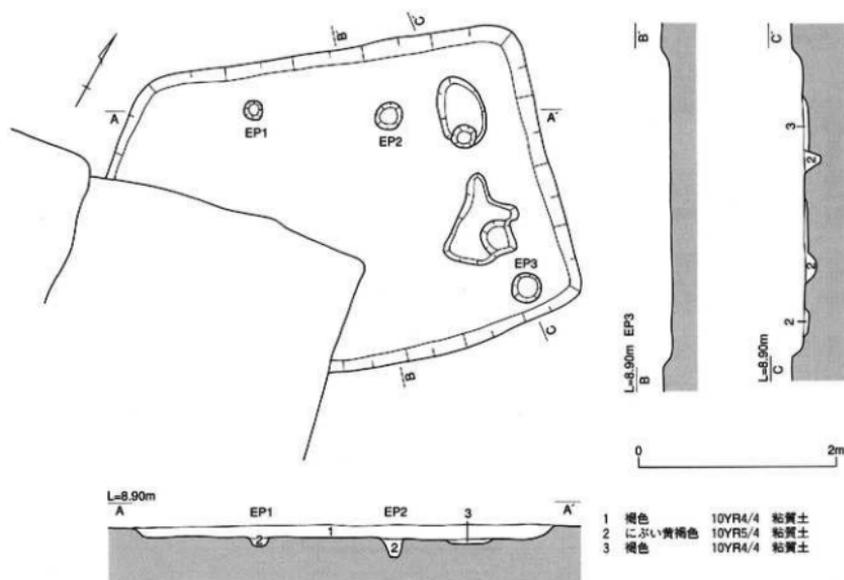


第604図 SB1003平・断面図 (S=1/50)

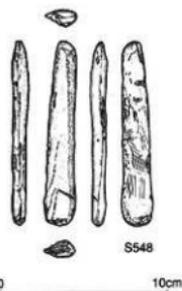


0 10cm

第605図 SB1003出土土器



第606図 SB1004平・断面図 (S=1/50)



第607図 SB1004出土石器

竪穴住居跡 (SB1005)

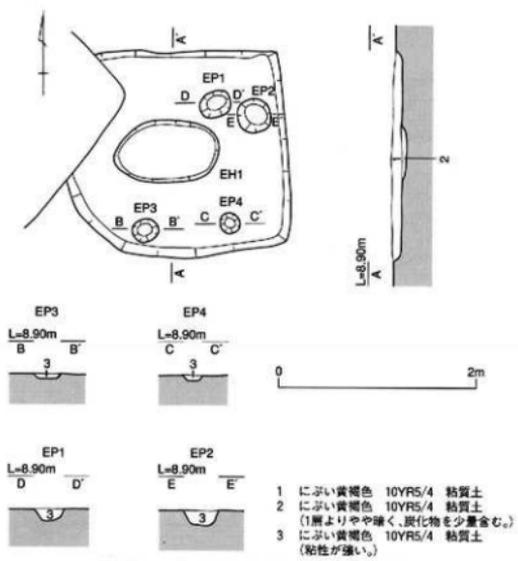
位置 Loc.E2・α II・b1 平面形 方形 床面積 4.0㎡

土層 覆土はにぶい黄褐色粘質土からなる。柱穴内は粘性が強く、炉の覆土は炭化物を少量含む。

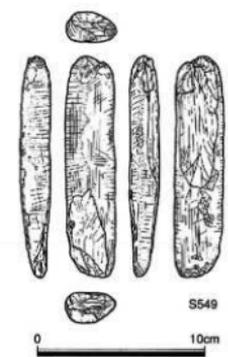
主柱穴 4基 (径20~30cm、深さ5~15cm)

炉跡 直径70~100cm 深さ5cm 施設 なし

遺物出土状況 覆土から土器片が出土している。図示できる遺物は、住居内覆土から土師器鍋1点、敲

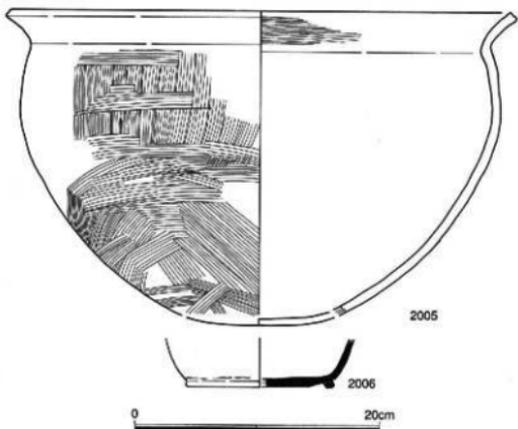


第608図 SB1005平・断面図 (S=1/50)

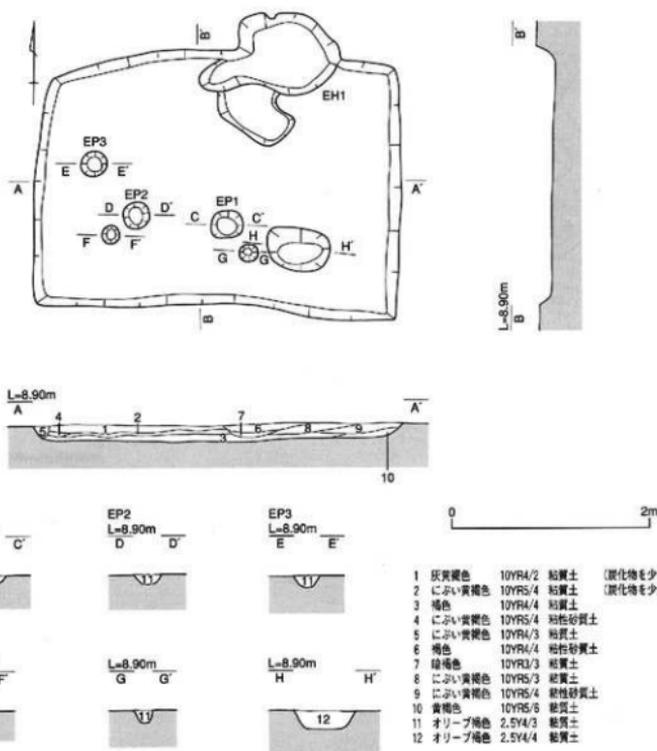


第609図 SB1005出土石器

- 1 にぶい黄褐色 10YR5/4 粘質土
- 2 にぶい黄褐色 10YR5/4 粘質土  
(1層よりやや強く、炭化物を少量含む。)
- 3 にぶい黄褐色 10YR5/4 粘質土  
(粘性が強い。)



第610図 SB1005出土土器



第611図 SB1006平・断面図 (S=1/50)

石・砥石1点、EH1から須恵器杯1点である。

時期 古代(奈良時代(8世紀前半))である。

備考 SB1004と重複する。先後関係は遺構の切り合いから、SB1005→SB1004となる。

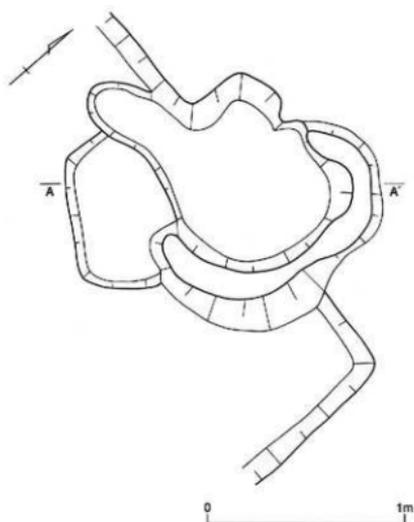
#### 竪穴住居跡 (SB1006)

位置 Loc.E2・α I・bc19~20 平面形 方形 床面積 8.8㎡

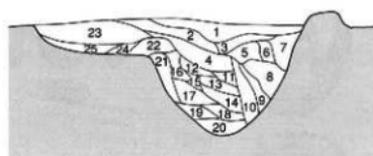
土層 覆土は黄褐色系の粘質土10層からなる。柱穴内はオリーブ褐色粘質土1層からなり、竈跡はにぶい黄褐色粘性砂質土を主体とし25層からなる。炭化物、焼土を多く含む。

主柱穴 3基(径20~35cm、深さ10~15cm)

炉跡 不明 施設 主柱穴以外に柱穴2基、土坑1基、北壁東よりに作り付けの竈(直径100~160cm・深さ20~60cm)を有する。

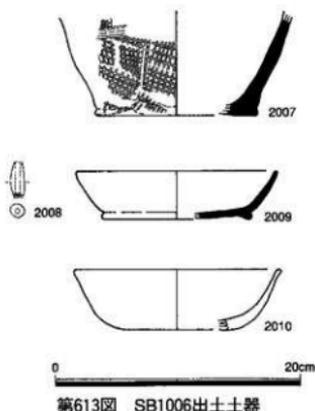


L=8.90m  
A

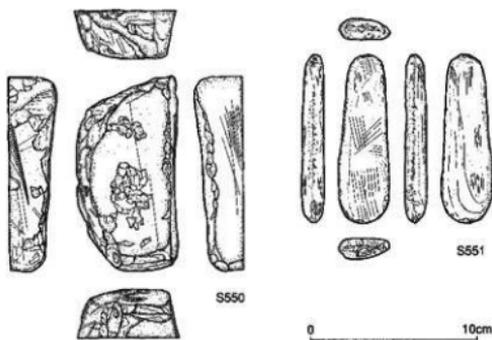


- |    |        |         |                                      |
|----|--------|---------|--------------------------------------|
| 1  | にぶい黄褐色 | 10YR4/3 | 粘性砂質土 (極小炭化物、焼土を含む。)                 |
| 2  | にぶい黄褐色 | 10YR4/3 | 粘性砂質土 (極小炭化物、焼土を少量含む。)               |
| 3  | 黄褐色    | 10YR3/2 | 粘性砂質土 (極小炭化物、焼土を含む。)                 |
| 4  | 暗褐色    | 10YR3/3 | 粘性砂質土                                |
| 5  | にぶい黄褐色 | 10YR4/3 | 粘質土                                  |
| 6  | にぶい黄褐色 | 10YR4/3 | 粘性砂質土 (炭化物を含む。)                      |
| 7  | にぶい黄褐色 | 10YR4/3 | 粘性砂質土 (極小炭化物、焼土を含む。)                 |
| 8  | 灰黄褐色   | 10YR4/2 | 粘性砂質土 (極小炭化物、焼土を多く含む。)               |
| 9  | にぶい黄褐色 | 10YR4/3 | 粘性砂質土 (粘性やや強く、しまっている。極小炭化物、焼土を多く含む。) |
| 10 | 黄褐色    | 2.5Y5/6 | 粘性砂質土                                |
| 11 | にぶい黄褐色 | 10YR4/3 | 粘性砂質土 (粘性やや強く、しまっている。)               |
| 12 | にぶい黄褐色 | 10YR5/3 | 粘性砂質土                                |
| 13 | にぶい黄褐色 | 10YR4/3 | 粘性砂質土 (炭化物、焼土を含む。)                   |
| 14 | にぶい黄褐色 | 10YR4/3 | 粘性砂質土 (黄色砂質土をブロック状に含む。)              |
| 15 | 褐色     | 10YR4/4 | 粘性砂質土 (極小炭化物、焼土を多く含む。)               |
| 16 | 褐色     | 10YR4/4 | 砂質土 (炭化物、焼土を多く含む。)                   |
| 17 | にぶい黄褐色 | 10YR4/3 | 粘性砂質土 (白色粘土をブロック状に含む。)               |
| 18 | にぶい黄褐色 | 10YR4/3 | 粘性砂質土 (極小炭化物、焼土をわずかに含む。)             |
| 19 | にぶい黄褐色 | 10YR4/3 | 粘性砂質土 (炭化物、焼土をわずかに含む。)               |
| 20 | 褐色     | 10YR4/4 | 粘性砂質土 (炭化物を含む。)                      |
| 21 | にぶい黄褐色 | 10YR4/3 | 粘性砂質土 (19層よりやや細かい。)                  |
| 22 | 褐色     | 10YR4/4 | 粘性砂質土 (やや硬くしまる。)                     |
| 23 | にぶい黄褐色 | 10YR4/3 | 粘性砂質土 (炭化物、焼土、マンガンを含む。)              |
| 24 | 褐色     | 10YR4/4 | 粘性砂質土 (硬くしまる。)                       |
| 25 | 褐色     | 10YR4/4 | 砂質土 (硬くしまる。)                         |

第612図 SB1006 EH1平・断面図 (S=1/25)



第613図 SB1006出土土器



第614図 SB1006出土石器

遺物出土状況 覆土から土器片が出土している。図示できる遺物は、土器がEH1から須恵器壺1点、住居内覆土から須恵器杯、土師器杯、管状土錘の3点、石器が砥石・砥石、砥石の2点である。

時期 古代（奈良時代（8世紀後半））である。

備考 作り付けの竈はSB2021でも確認されている。

#### 竪穴住居跡（SB1007）

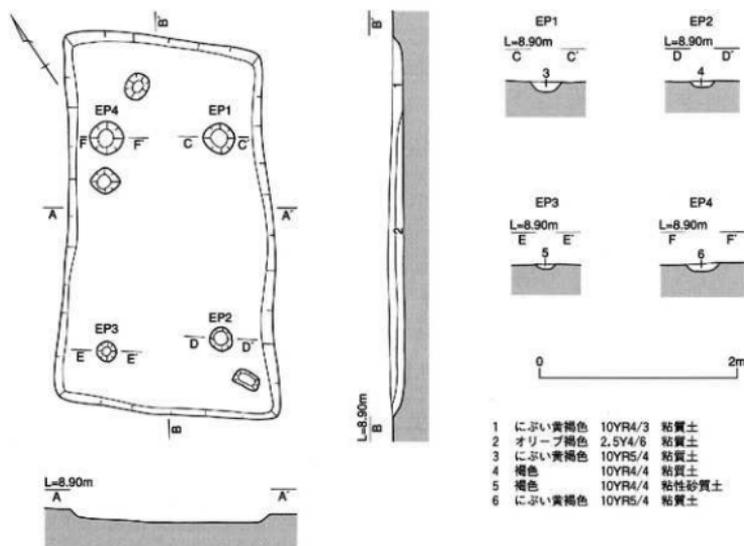
位置 Loc.E2・α I・cd18~19 平面形 方形 床面積 8.1㎡

土層 覆土は黄褐色系の粘質土6層からなる。柱穴内にはぶい黄褐色あるいは褐色の粘質土、粘性砂質土1層である。

主柱穴 4基（径20~35cm、深さ5~10cm）

炉跡 不明

施設 主柱穴以外に柱穴3基を有する。



第615図 SB1007平・断面図 (S=1/50)

遺物出土状況 図示できる遺物は出土していない。

時期 古代(奈良時代)である。

#### 竪穴住居跡 (SB1008)

位置 Loc.E2・α I・d19 平面形 方形 床面積 4.2㎡

土層 覆土は褐色系の粘質土3層からなる。柱穴はにぶい黄褐色粘質土1層である。

主柱穴 2基(径35~40cm、深さ10~15cm)

炉跡 なし 施設 主柱穴以外に柱穴1基を有する。

遺物出土状況 覆土から土器片が出土している。図示できる遺物は、土師器杯1点である。

時期 古代(奈良時代(8世紀後半))である。

備考 遺構の東半はSD1075に削平されている。またSB1021と重複し、遺構の切り合いから先後関係はSB1008→SB1021となる。

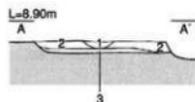
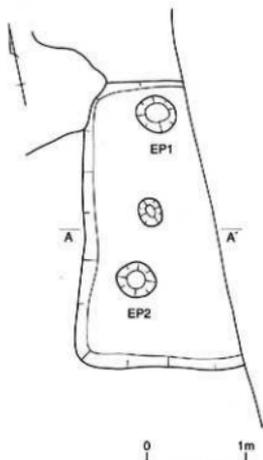
#### 竪穴住居跡 (SB1009)

位置 Loc.E2・α I・d19~20 平面形 方形 床面積 6.4㎡

土層 覆土は黄褐色系の粘質土11層からなる。

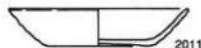
主柱穴 2基(径20~30cm、深さ10~15cm)

炉跡 不明 施設 なし



- |   |        |         |     |
|---|--------|---------|-----|
| 1 | 褐色     | 10YR4/6 | 粘質土 |
| 2 | 褐色     | 10YR4/4 | 粘質土 |
| 3 | にじみ黄褐色 | 10YR4/3 | 粘質土 |

第616図 SB1008平・断面図 (S=1/50)



第617図 SB1008出土土器

**遺物出土状況** 覆土から土器、鉄器が出土している。図示できる遺物は、管状土錘2点、鉄器が紡錘車、鉄片などの3点である。

**時期** 古代（平安時代）である。

**備考** SB1010と重複する。先後関係は遺構の切り合いから、SB1010→SB1009となる。

#### 竪穴住居跡 (SB1010)

**位置** Loc.E2・α I・de19~20 平面形 方形 床面積 22.5㎡

**土層** 覆土は黄褐色系の粘質土8層からなる。

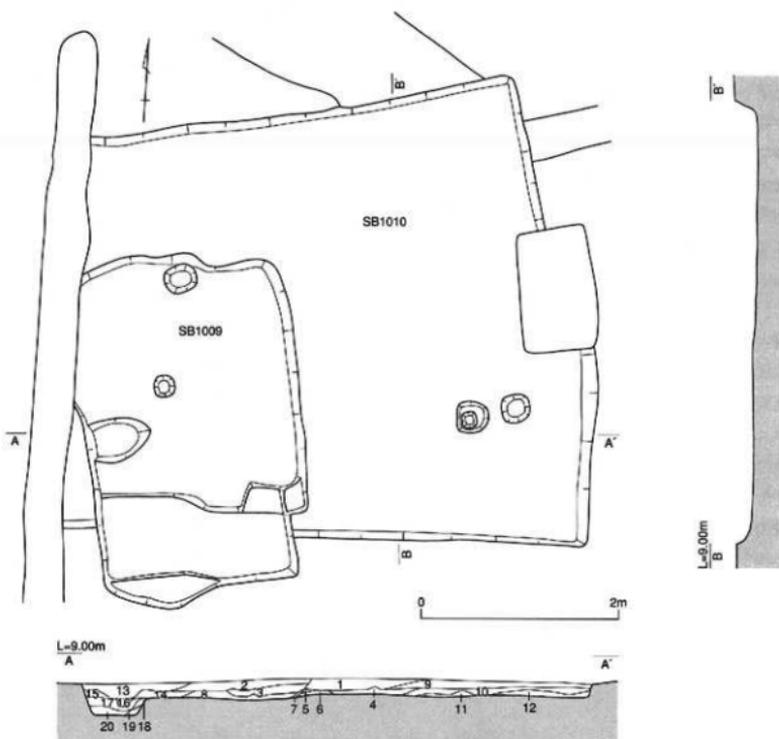
**支柱穴** 2基（径30cm、深さ10~15cm）

**炉跡** 不明 施設 なし

**遺物出土状況** 覆土から土器片が出土している。図示できる遺物は、土師器杯1点である。

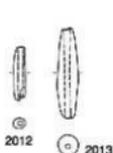
**時期** 古代（奈良時代（8世紀後半））である。

**備考** SB1009、SB1011~SB1013、SB1016、SB1018、SB1020と重複する。先後関係は遺構の切り合いから、SB1011→SB1012→SB1010→SB1009とSB1016→SB1018→SB1020→SB1010→SB1009となる。

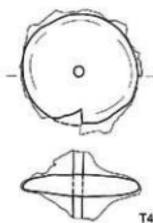


- |   |        |          |       |    |        |         |       |    |        |         |       |
|---|--------|----------|-------|----|--------|---------|-------|----|--------|---------|-------|
| 1 | にぶい黄褐色 | 10YR6/3  | 粘性砂質土 | 8  | 黄褐色    | 10YR5/6 | 粘質土   | 15 | にぶい黄褐色 | 10YR4/3 | 粘質土   |
| 2 | にぶい黄褐色 | 10YR6/4  | 粘質土   | 9  | にぶい黄褐色 | 10YR6/3 | 粘性砂質土 | 16 | にぶい黄褐色 | 10YR4/3 | 粘質土   |
| 3 | にぶい黄褐色 | 10YR5/3  | 粘質土   | 10 | にぶい黄褐色 | 10YR5/4 | 粘質土   | 17 | 褐色     | 10YR4/4 | 粘性砂質土 |
| 4 | 褐色     | 7.5YR4/3 | 粘質土   | 11 | にぶい黄褐色 | 10YR4/3 | 粘質土   | 18 | にぶい黄褐色 | 10YR5/4 | 粘質土   |
| 5 | にぶい黄褐色 | 10YR6/4  | 粘性砂質土 | 12 | 暗褐色    | 10YR3/4 | 粘質土   | 19 | にぶい黄褐色 | 10YR4/3 | 粘質土   |
| 6 | 褐色     | 10YR4/4  | 粘質土   | 13 | にぶい黄褐色 | 10YR6/4 | 粘質土   | 20 | 暗褐色    | 10YR3/3 | 粘質土   |
| 7 | 褐色     | 7.5YR4/3 | 粘質土   | 14 | 黄褐色    | 10YR5/6 | 粘質土   |    |        |         |       |

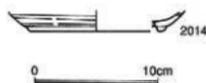
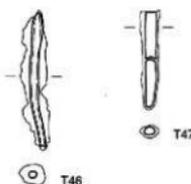
第618図 SB1009, SB1010平・断面図 (S=1/50)



第619図 SB1009出土土器



第620図 SB1009出土鉄器



第621図 SB1010出土土器

#### 竪穴住居跡 (SB1011)

位置 Loc.E2・α I II・d20～1 平面形 方形 床面積 2.8㎡

土層 覆土は褐色系の粘質土5層からなる。柱穴内は褐色、にぶい黄褐色粘質土1層からなる。

主柱穴 2基 (径20cm、深さ5～10cm)

炉跡 不明 施設 なし

遺物出土状況 覆土から石器が出土している。図示できる遺物は、砥石1点である。

時期 古代 (奈良時代) である。

備考 SB1010、SB1012、SB1013と重複する。先後関係は遺構の切り合いから、SB1011→SB1012→SB1010・SB1013となる。

#### 竪穴住居跡 (SB1012)

位置 Loc.E2・α I II・d20～1 平面形 方形 床面積 3.8㎡

土層 覆土は黄褐色系のシルト砂混じり土を主体とし、5層からなる。柱穴内はにぶい黄褐色シルト砂混じり土1層である。

主柱穴 2基 (径20～25cm、深さ5～10cm)

炉跡 不明 施設 なし

遺物出土状況 覆土から土器片、石器が出土している。図示できる遺物は、土器が須恵器碗、土師器杯、管状土錘など3点、石器が砥石1点である。

時期 古代 (奈良時代 (8世紀前半)) である。

備考 SB1010、SB1011、SB1013、SB1014と重複する。先後関係は遺構の切り合いから、SB1011→SB1012→SB1014→SB1013、SB1012→SB1010となる。

#### 竪穴住居跡 (SB1013)

位置 Loc.E2・α II・cd1 平面形 方形 床面積 9.0㎡

土層 覆土は黄褐色系の粘質土5層からなる。柱穴内は褐色、にぶい黄褐色粘質土1層からなる。

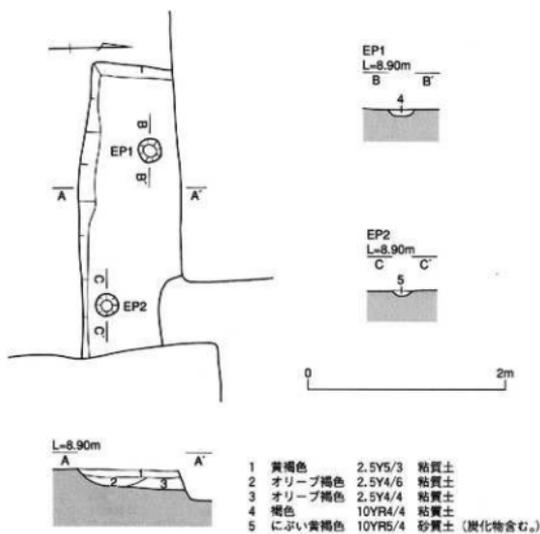
主柱穴 3基 (径15～30cm、深さ10～15cm)

炉跡 不明 施設 なし

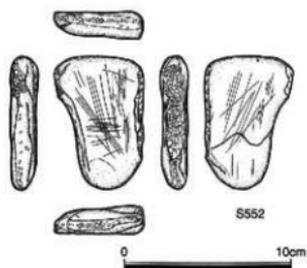
遺物出土状況 覆土から土器片が出土している。図示できる遺物は、土師器甕1点である。

時期 古代 (奈良時代) である。

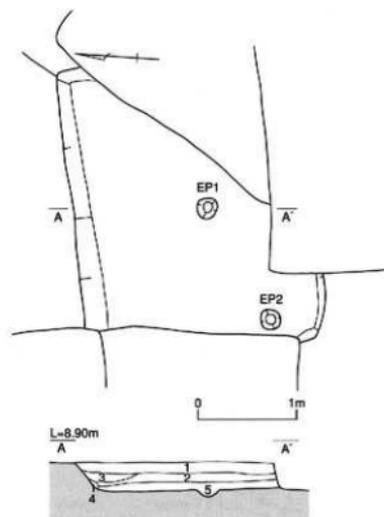
備考 SB1011、SB1012、SB1014と重複する。先後関係は遺構の切り合いから、SB1011→SB1012→SB1014→SB1013となる。



第622図 SB1011平・断面図 (S=1/50)



第623図 SB1011出土石器

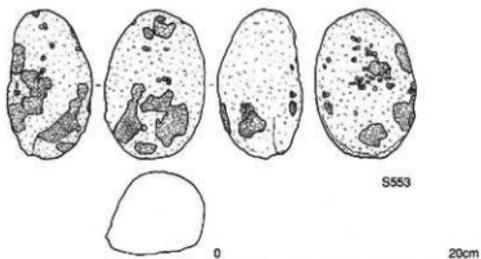


- |   |        |         |         |   |        |         |         |
|---|--------|---------|---------|---|--------|---------|---------|
| 1 | にぶい黄褐色 | 10YR4/3 | シルト砂混じり | 2 | 褐色     | 10YR4/4 | シルト砂混じり |
| 3 | 暗褐色    | 10YR3/4 | シルト砂混じり | 4 | にぶい黄褐色 | 10YR4/3 | シルト砂混じり |
| 5 | にぶい黄褐色 | 10YR5/4 | シルト砂混じり |   |        |         |         |

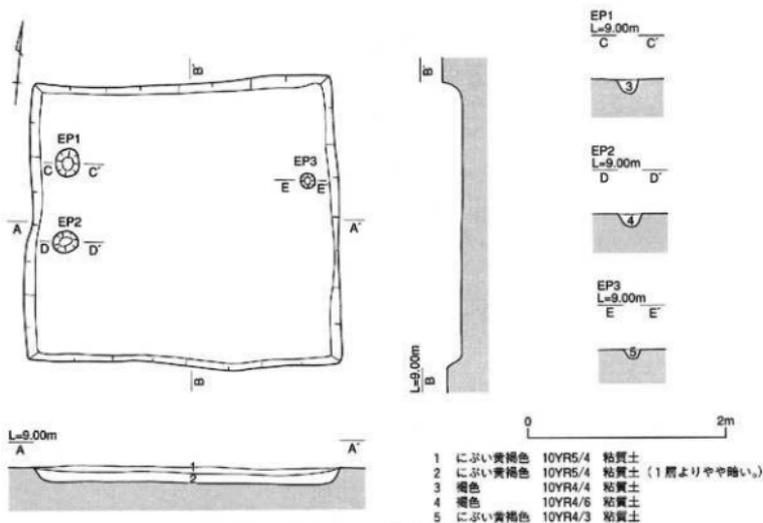
第624図 SB1012平・断面図 (S=1/50)



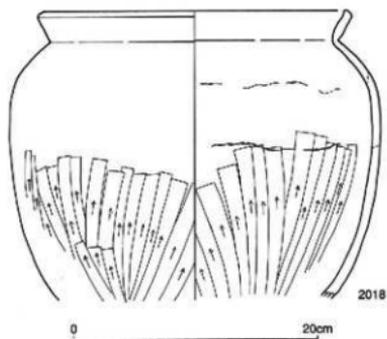
第625図 SB1012出土土器



第626図 SB1012出土土器



第627図 SB1013平・断面図 (S=1/50)



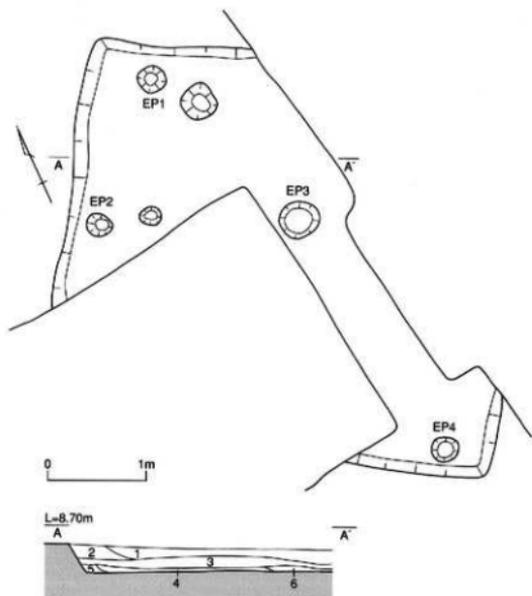
第628図 SB1013出土土器

竪穴住居跡 (SB1014)

位置 Loc.E2・α II・cd1 平面形 方形 床面積 15.8㎡

土層 覆土は黄褐色系の粘性砂質土を主体とする6層からなる。

支柱穴 4基 (径20~40cm、深さ10~15cm)

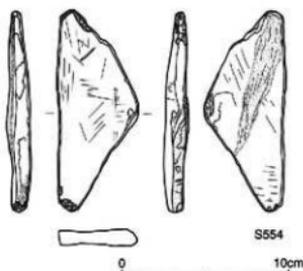


- |   |        |         |       |   |        |         |       |
|---|--------|---------|-------|---|--------|---------|-------|
| 1 | にぶい黄褐色 | 10YR4/3 | 粘性砂質土 | 4 | にぶい黄褐色 | 10YR4/3 | 粘性砂質土 |
| 2 | オリーブ褐色 | 2.5Y4/4 | 粘性砂質土 | 5 | 灰黄褐色   | 10YR5/2 | 粘性砂質土 |
| 3 | 褐色     | 10YR4/4 | 粘性砂質土 | 6 | にぶい黄褐色 | 10YR5/3 | 粘性砂質土 |

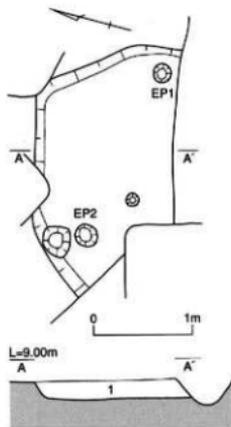
第629図 SB1014平・断面図 (S=1/50)



第630図 SB1014出土土器



第631図 SB1014出土石器



1 にぶい黄褐色 10YR4/3 粘性砂質土  
第632図 SB1016平・断面図 (S=1/50)



第633図 SB1016出土土器

炉跡 不明

施設 主柱穴以外に柱穴2基を有する。

遺物出土状況 覆土から土器片と石器が出土している。図示できる遺物は、土師器杯1点と砥石1点である。

時期 古代(奈良時代(8世紀前半))である。

備考 SB1012、SB1013、SB1015と重複する。先後関係は遺構の切り合いから、SB1015→SB1012→SB1014→SB1013となる。

#### 竪穴住居跡 (SB1016)

位置 Loc.E2・α I Π・e20~1 平面形 円形 床面積 2.8㎡

土層 覆土はにぶい黄褐色の粘性砂質土1層である。

主柱穴 2基(径20~25cm、深さ 10~15cm)

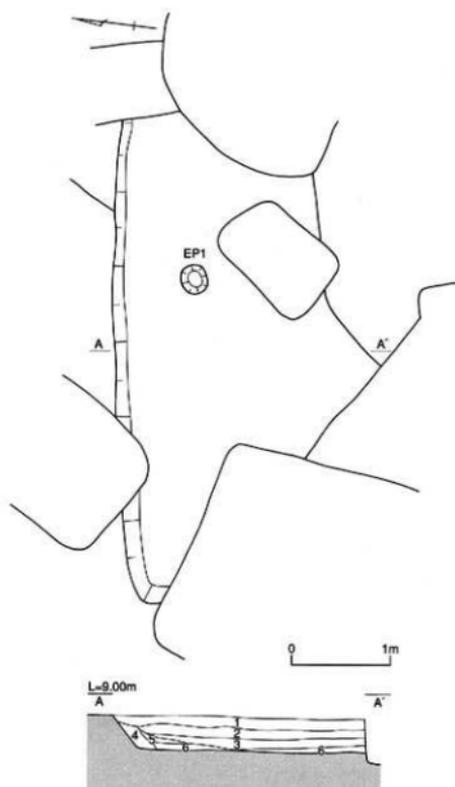
炉跡 不明

施設 主柱穴以外に柱穴2基を有する。

遺物出土状況 覆土から土器片が出土している。図示できる遺物は土師器杯2点と土師器皿1点である。

時期 古代(奈良時代(8世紀前半))である。

備考 SB1010、SB1017、SB1018と重複する。先後関係は遺構の切り合いから、SB1017→SB1016→SB1018→SB1010となる。



- |          |         |     |          |         |     |
|----------|---------|-----|----------|---------|-----|
| 1 黄褐色    | 2.5Y5/3 | 粘質土 | 4 暗褐色    | 10YR3/4 | 粘質土 |
| 2 褐色     | 10YR4/4 | 粘質土 | 5 にぶい黄褐色 | 10YR5/4 | 粘質土 |
| 3 にぶい黄褐色 | 10YR5/3 | 粘質土 | 6 にぶい黄褐色 | 10YR4/3 | 粘質土 |

第634図 SB1017平・断面図 (S=1/50)

竪穴住居跡 (SB1017)

位置 Loc.E2・α I II・e20~1 平面形 方形 床面積 5.0m<sup>2</sup>

土層 覆土は黄褐色系の粘質土を主体とし、6層からなる。

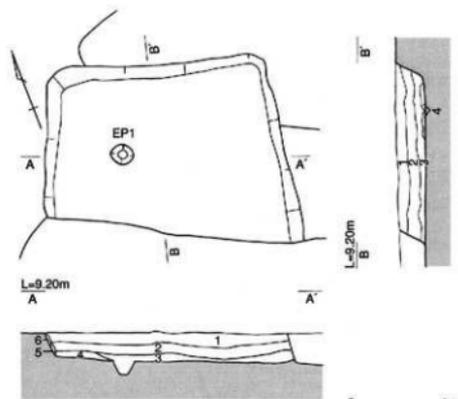
支柱穴 1基 (径25~30cm、深さ 10~15cm)

炉跡 不明 施設 なし

遺物出土状況 図示できる遺物は出土していない。

時期 古代 (奈良時代) である。

備考 SB1016、SB1018、SB1019と重複する。先後関係は遺構の切り合いから、SB1017→SB1016→SB1018→SB1019となる。



1	褐色	10YR4/4	シルト	2	褐色	10YR4/6	シルト
3	オリーブ褐色	2.5Y4/6	シルト	4	褐色	10YR4/4	シルト
5	暗オリーブ褐色	2.5Y3/3	シルト	6	褐色	10YR4/6	シルト

第635図 SB1019平・断面図 (S=1/50)



第636図 SB1019出土土器

#### 竪穴住居跡 (SB1019)

位置 Loc.E2・α I・e19~20 平面形 方形 床面積 4.2㎡

土層 覆土は褐色系のシルト質土を主体とし、6層からなる。柱穴内はオリーブ褐色のシルト質土1層からなる。

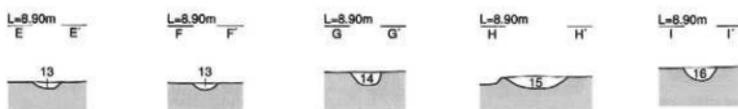
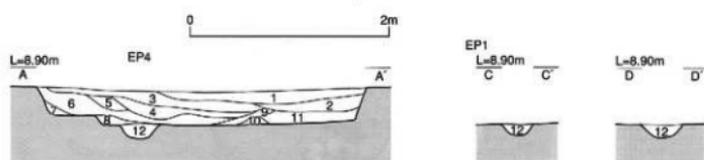
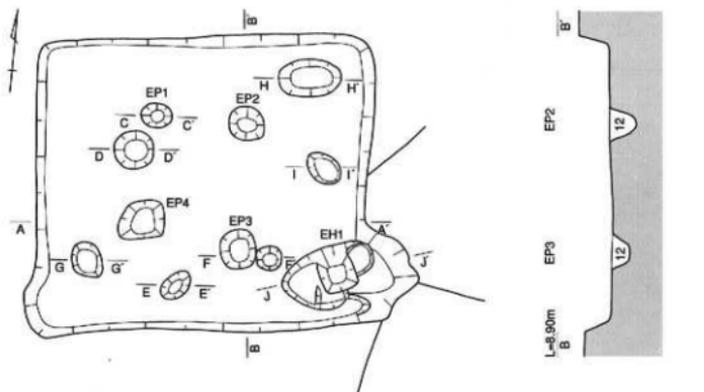
支柱穴 1基 (径25cm、深さ15cm)

炉跡 不明 施設 なし

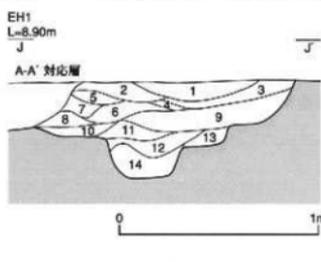
遺物出土状況 覆土から土器片が出土している。図示できる遺物は、土師器杯3点である。

時期 古代 (奈良時代 (8世紀前半)) である。

備考 SB1017、SB1018、SB1020と重複する。先後関係は遺構の切り合いから、SB1017→SB1018→SB1019→SB1020となる。

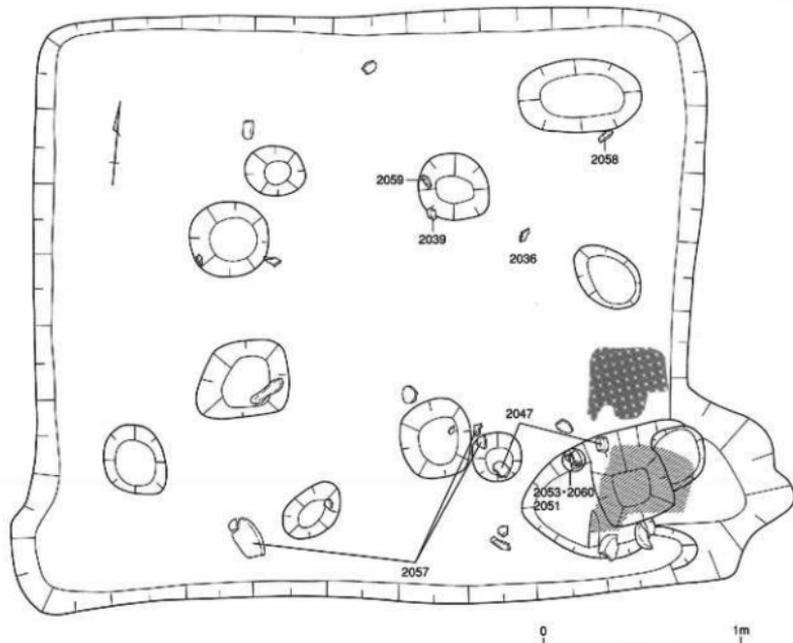


- |                                |                                     |
|--------------------------------|-------------------------------------|
| 1 にぶい黄褐色 10YR5/4 粘性砂質土         | 9 にぶい黄褐色 10YR5/4 砂質土                |
| 2 褐色 10YR4/4 粘性砂質土             | 10 オリーブ褐色 2.5Y4/6 粘質土               |
| 3 オリーブ褐色 2.5Y4/3 粘性砂質土         | 11 褐色 10YR4/4 粘性砂質土                 |
| 4 オリーブ褐色 2.5Y4/4 粘性砂質土 (炭化物含む) | 12 オリーブ褐色 2.5Y4/4 粘質土 (6層よりやや硬くしまる) |
| 5 褐色 10YR4/4 粘質土               | 13 黄褐色 10YR5/6 砂質土                  |
| 6 オリーブ褐色 2.5Y4/4 粘質土           | 14 にぶい黄褐色 10YR5/4 砂質土               |
| 7 褐色 10YR4/6 粘質土               | 15 にぶい黄褐色 10YR5/3 砂質土               |
| 8 褐色 10YR4/4 粘質土 (5層よりやや暗い)    | 16 にぶい黄褐色 10YR4/3 砂質土               |



- |  |
|--|
| 1 にぶい黄褐色 10YR4/3 砂質土 (粘性が強い。炭化物、粘土ブロックを多く含む) |
| 2 赤色 10YR4/6 粘性砂質土 (粘土ブロック層、炭化材を含む)          |
| 3 灰黄褐色 10YR4/2 粘質土 (標道天井層の跡のみか?)             |
| 4 オリーブ褐色 2.5Y4/3 粘性砂質土                       |
| 5 暗黄灰色 2.5Y5/3 粘性砂質土                         |
| 6 暗黄灰色 2.5Y4/4 粘性砂質土                         |
| 7 暗黄灰色 2.5Y4/2 粘性砂質土                         |
| 8 暗黄灰色 2.5Y5/4 粘性砂質土                         |
| 9 オリーブ褐色 2.5Y4/6 粘性砂質土                       |
| 10 暗黄灰色 2.5Y5/4 粘性砂質土 (8層よりやや暗い)             |
| 11 黒褐色 2.5Y3/2 粘性砂質土 (粘土、炭化物を多く含む)           |
| 12 黒褐色 10YR2/3 粘性砂質土 (粘土、炭化物を含む)             |
| 13 暗オリーブ褐色 2.5Y3/3 粘性砂質土                     |
| 14 オリーブ褐色 2.5Y4/6 粘性砂質土 (粘性強い。炭化物は含まない)      |

第637図 SB1021平・断面図 (S=1/25・1/50)



第638図 SB1021遺物出土状況図 (S=1/25)

#### 竪穴住居跡 (SB1021)

位置 Loc.E2・α I・de18~19 平面形 方形 床面積 9.9㎡

土層 覆土は褐色系の粘質土を主体とし、12層からなる。柱穴はオリーブ褐色の粘質土あるいは黄褐色系の砂質土1層からなる。竈部分は14層からなり、部分的に焼土、炭化物を含む。

主柱穴 4基 (径25~40cm、深さ10~15cm)

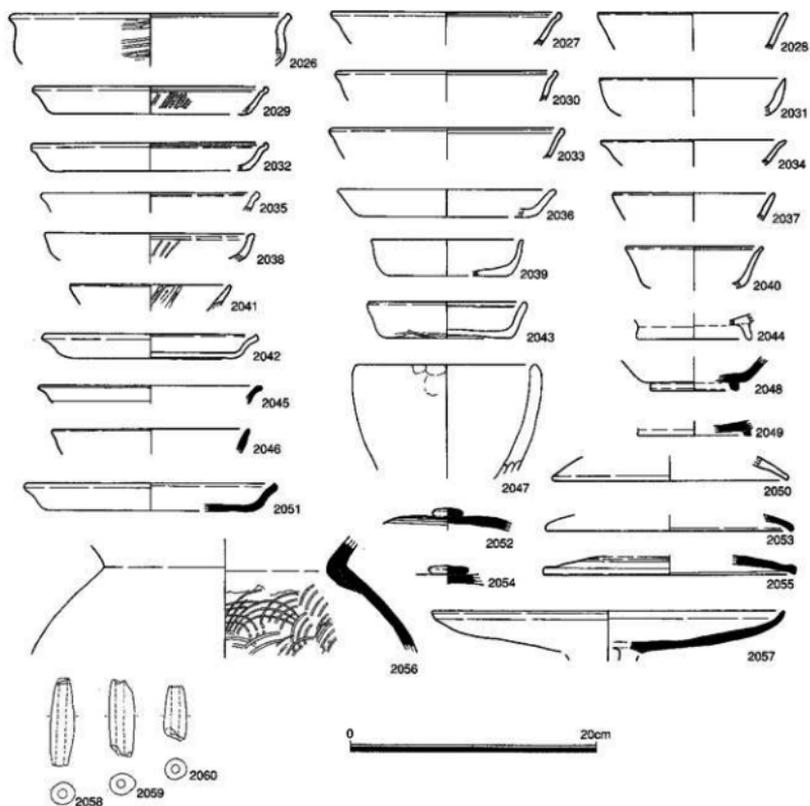
炉跡 なし

施設 主柱穴以外に柱穴7基と南東隅に作り付けの竈 (直径60~140cm、深さ50cm)、南西隅に張り出し部 (80×40cm) をもつ。西側に高床部 (高さ約10cm) を設ける。

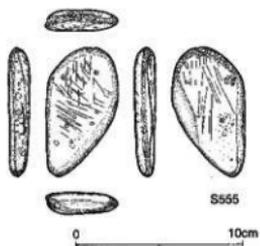
遺物出土状況 覆土から土器片・石器・鉄器が出土している。図示できる遺物は、覆土から須恵器甕、高坏、杯、杯蓋、皿、土師器杯、皿、製塩土器など29点、住居床面から須恵器蓋、皿、土師器皿、管状土鍾など6点が出土している。また砥石1点、鉄片1点も出土している。

時期 古代 (奈良時代 (8世紀後半)) である。

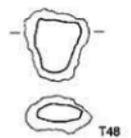
備考 SB1020と重複する。先後関係は遺構の切り合いから、SB1020→SB1021となる。



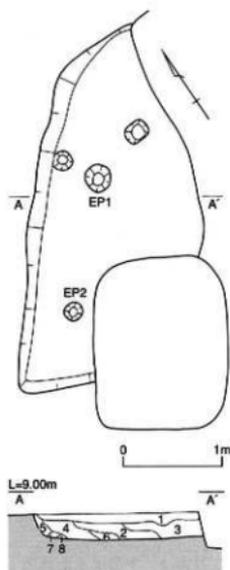
第639图 SB1021出土土器



第640图 SB1021出土石器

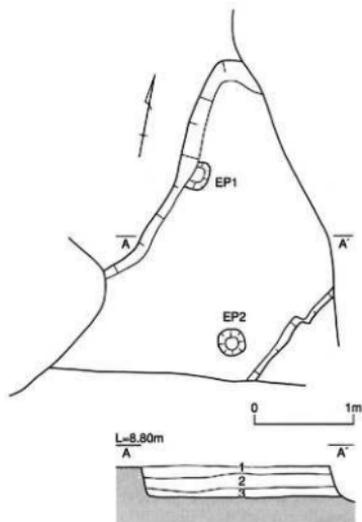


第641图 SB1021出土铁器



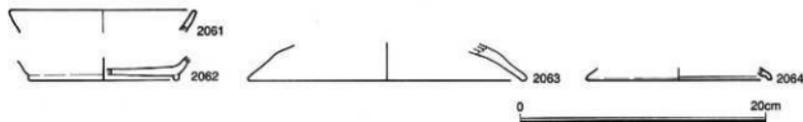
- |   |        |         |       |
|---|--------|---------|-------|
| 1 | オリーブ褐色 | 2.5Y4/3 | 粘性砂質土 |
| 2 | にぶい黄褐色 | 10YR5/4 | 粘質土   |
| 3 | 褐色     | 10YR4/6 | 粘性砂質土 |
| 4 | 褐色     | 10YR4/6 | 粘性砂質土 |
| 5 | オリーブ褐色 | 2.5Y4/4 | 粘性砂質土 |
| 6 | 黄褐色    | 10YR5/6 | 粘性砂質土 |
| 7 | にぶい黄褐色 | 10YR4/3 | 粘質土   |
| 8 | オリーブ褐色 | 2.5Y4/6 | 粘質土   |

第642図 SB1022平・断面図 (S=1/50)



- |   |        |         |     |   |        |         |     |
|---|--------|---------|-----|---|--------|---------|-----|
| 1 | 黄褐色    | 2.5Y5/4 | 粘質土 | 3 | オリーブ褐色 | 2.5Y4/4 | 粘質土 |
| 2 | オリーブ褐色 | 2.5Y4/6 | 粘質土 |   |        |         |     |

第643図 SB1023平・断面図 (S=1/50)



第644図 SB1022出土土器

#### 竪穴住居跡 (SB1022)

位置 Loc.E2・α I・f20 平面形 方形 床面積 4.5m<sup>2</sup>

土層 覆土は褐色系の粘性砂質土を主体とし、8層からなる。

主柱穴 2基 (径15~25cm、深さ 10~15cm)

炉跡 不明 施設 主柱穴以外に柱穴2基を有する。

遺物出土状況 覆土から土器片が出土している。図示できる遺物は、土師器杯、杯蓋、皿蓋など4点である。

時期 古代(奈良時代(8世紀前半))である。

備考 SB1023と重複する。先後関係は遺構の切り合いから、SB1022→SB1023となる。

#### 竪穴住居跡 (SB1023)

位置 Loc.E2・α I・ef20 平面形 方形 床面積 3.4㎡

土層 覆土は黄褐色・オリーブ褐色の粘質土を主体とし、3層からなる。

主柱穴 2基(径30cm、深さ 10~15cm)

炉跡 不明 施設 なし

遺物出土状況 図示できる遺物は出土していない。

時期 古代(奈良時代)である。

備考 SB1017、SB1022と重複する。先後関係は遺構の切り合いから、SB1022→SB1023→SB1017となる。

#### 竪穴住居跡 (SB1024)

位置 Loc.E2・α I・fg20 平面形 方形 床面積 8.4㎡

土層 覆土は黄褐色系の粘質土を主体とし、9層からなる。柱穴内はオリーブ褐色粘質土1層からなる。

主柱穴 5基(径20~30cm、深さ10~15cm)

炉跡 不明 施設 なし

遺物出土状況 覆土から土器片と石器が出土している。図示できる遺物は、土器が土師器皿1点、石器が敲石1点である。

時期 古代(奈良時代(8世紀前半))である。

#### 竪穴住居跡 (SB1025)

位置 Loc.E2・α I II・fg20~1 平面形 方形 床面積 8.1㎡

土層 覆土は黄褐色系の粘質土を主体とし、8層からなる。

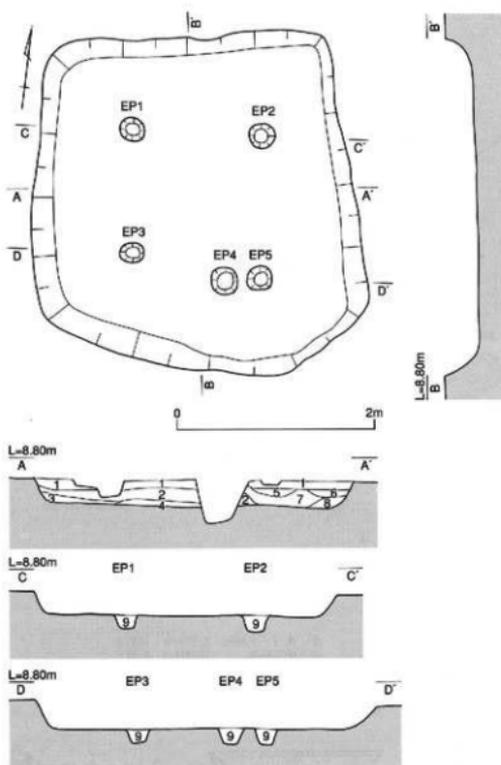
主柱穴 4基(径25~35cm、深さ10~15cm)

炉跡 不明 施設 なし

遺物出土状況 覆土から土器片が出土している。図示できる遺物は、土師器杯5点である。

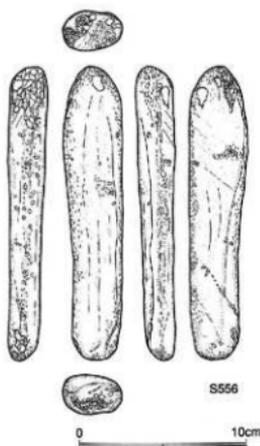
時期 古代(奈良時代(8世紀後半))である。

備考 一部SD1078によって削平をうけている。



- 1 にぶい黄褐色 10YR4/3 粘性砂質土
- 2 褐色 10YR4/4 粘性砂質土
- 3 にぶい黄褐色 10YR5/4 粘質土
- 4 にぶい黄褐色 10YR4/3 粘質土
- 5 にぶい黄褐色 10YR4/3 粘質土 (4層よりやや硬くしまる。)
- 6 褐色 10YR4/4 粘性砂質土 (2層よりやや暗い。)
- 7 にぶい黄褐色 10YR4/3 粘質土 (粘土粒、炭化粒をわずかに含む。)
- 8 にぶい黄褐色 10YR5/4 粘質土 (わずかに炭化粒を含む。)
- 9 オリーブ褐色 2.5Y4/4 粘質土

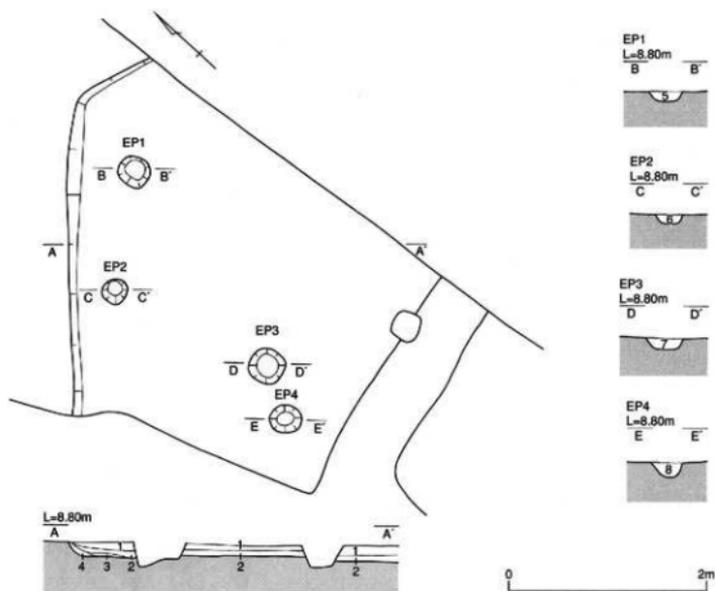
第645図 SB1024平・断面図 (S=1/50)



第646図 SB1024出土石器

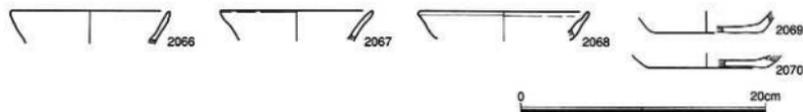


第647図 SB1024出土石器

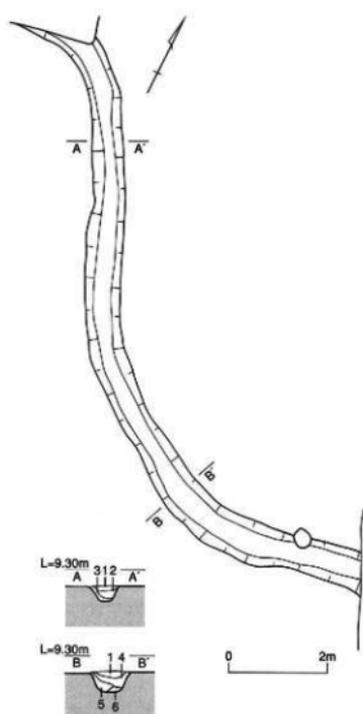


- |   |        |         |                |   |        |         |     |
|---|--------|---------|----------------|---|--------|---------|-----|
| 1 | にぶい黄褐色 | 10YR4/3 | 粘質土            | 5 | オリーブ褐色 | 2.5Y4/4 | 粘質土 |
| 2 | にぶい黄褐色 | 10YR4/3 | 粘質土 (1層よりやや暗い) | 6 | 灰黄褐色   | 10YR4/2 | 粘質土 |
| 3 | にぶい黄褐色 | 10YR5/4 | 粘質土            | 7 | 褐色     | 10YR4/4 | 粘質土 |
| 4 | 黄褐色    | 2.5Y5/6 | 粘質土            | 8 | にぶい黄褐色 | 10YR5/4 | 粘質土 |

第648図 SB1025平・断面図 (S=1/50)



第649図 SB1025出土土器



- |         |         |                                   |
|---------|---------|-----------------------------------|
| 1 灰黄色   | 2.5Y6/2 | 粘性砂質土 (粒子が細かく、粘性が強い。マンガン、土器粒を含む。) |
| 2 灰オリブ色 | 5Y6/2   | 粘性砂質土 (砂質が強い。マンガンを含む。)            |
| 3 灰黄色   | 2.5Y6/2 | 粘性砂質土 (粒子が細かい。マンガンを多量に含む。)        |
| 4 にぶい黄色 | 2.5Y6/3 | 粘性砂質土 (粒子が細かい。マンガンを含む。)           |
| 5 浅黄色   | 2.5Y7/4 | 粘性砂質土 (粘性が強い。マンガンを多量に含む。小礫を含む。)   |
| 6 浅黄色   | 2.5Y7/3 | 粘性砂質土 (マンガンを含む。)                  |

第650図 SD1003平・断面図 (S=1/100)

### ③溝状遺構

#### 溝状遺構 (SD1003)

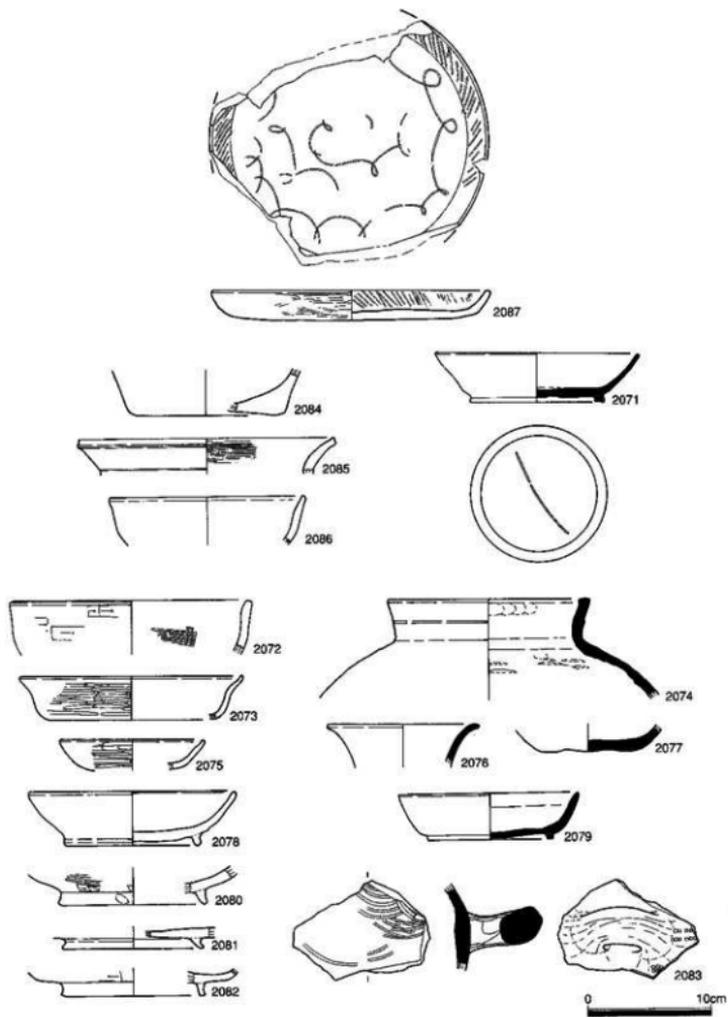
位置 Loc.D2・8Ⅱ・efg9～17 断面形 逆台形 全長 51.6m

土層 覆土は灰黄色系の粘性砂質土を主体とし、6層からなる。

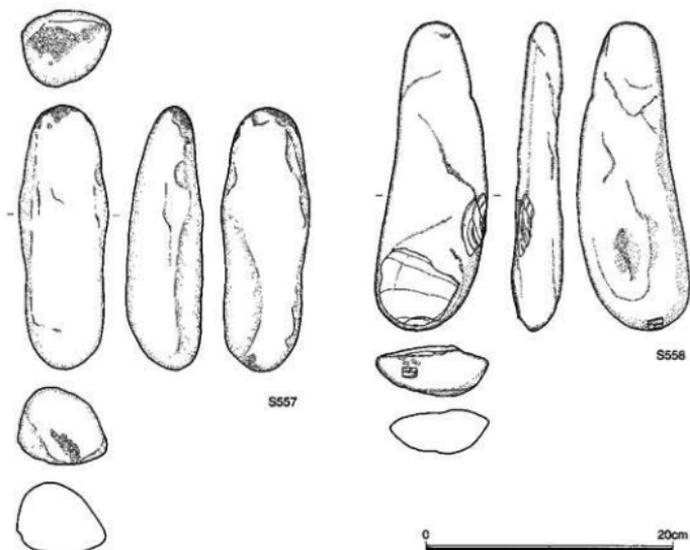
遺物出土状況 覆土から土器片と石器、鉄器が出土している。図示できる遺物は、土器が須恵器壺、杯、把手付鍋、土師器壺、甕、杯、皿などの17点、石器は敲石2点、鉄器が釘1点である。石器については第2遺構面に属する遺物である可能性がある。

時期 古代 (7～8世紀) である。

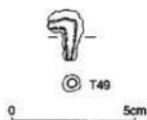
備考 西半部の平面図は第2遺構面 SD2004の平面図、遺構配置図を参照。



第651圖 SD1003出土土器



第652図 SD1003出土石器



第653図 SD1003出土鉄器

溝状遺構 (SD1004)

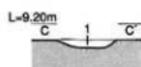
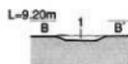
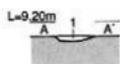
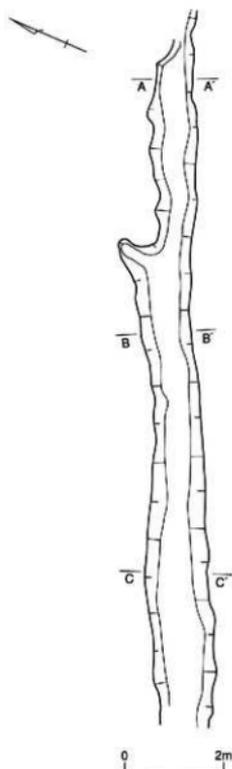
位置 Loc.D2・8Ⅱ・jklm10～15 断面形 皿形 全長 28.5m

土層 覆土は黄褐色の砂質土1層からなる。

遺物出土状況 覆土から土器片、石器、鉄器が出土している。図示できる遺物は、土器が平瓦1点、石器が台石・砥石1点、鉄器が鉄片1点である。

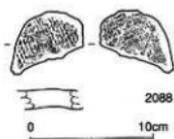
時期 古代(平安時代)である。

備考 東端は調査区外に延びる。

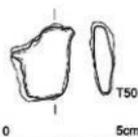


1 黄褐色 2.5v5/3 砂質土 (マンガンを含む。)

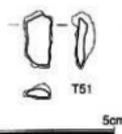
第654図 SD1004平・断面図 (S=1/100)



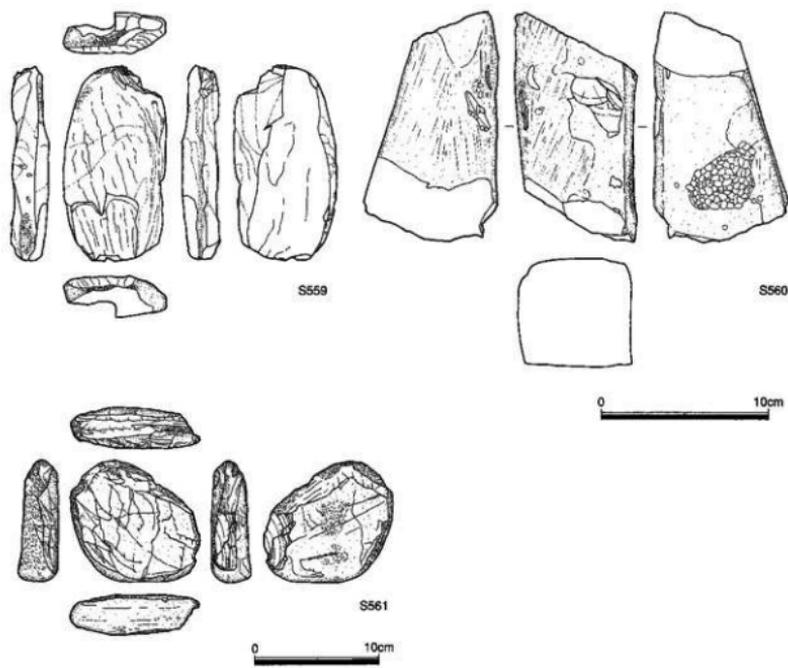
第655図 SD1004出土土器



第656図 SD1004出土鉄器



第657図 SD1006出土鉄器



第658図 SD1004出土石器

溝状遺構 (SD1006)

位置 Loc.D2・δⅡ・i9～11 断面形 逆台形 全長 12.8m

土層 覆土は灰オリーブ色の粘性砂質土1層からなる。

遺物出土状況 覆土から鉄器が出土している。図示できる遺物は、鉄片1点である。

時期 古代(平安時代)である。

備考 平面図は遺構配置図を参照。

溝状遺構 (SD1019)

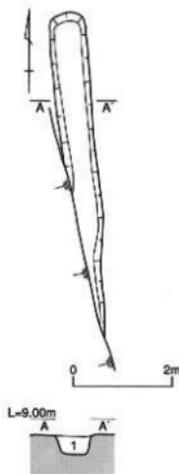
位置 Loc.D2・εⅡ・ij5 断面形 逆台形 全長 6.5m

土層 覆土はオリーブ黄色の砂質土1層からなる。

遺物出土状況 覆土から土器片が出土している。図示できる遺物は、土師器皿1点である。

時期 古代(平安時代(11～12世紀))である。

備考 南端は調査区外に延びる。



- 1 オリーブ黄色 SY6/3 砂質土  
 (鉄・マンガン等を多く含む、粘性が高い。  
 炭化物も少量含む。)

第659図 SD1019平・断面図 (S=1/100)



第660図 SD1019出土土器

溝状遺構 (SD1020)

位置 Loc.DE2・ex II・lm5~9 断面形 逆台形 全長 17.4m

土層 覆土は黄褐色系の粘性砂質土を主体とし、3層からなる。

遺物出土状況 覆土から土器片、石器が出土している。図示できる遺物は、土器が土師器杯、皿の2点、石器が敲石1点である。石器については、第2遺構面に属する遺物である可能性がある。

時期 古代 (平安時代 (12世紀)) である。

備考 南側は調査区外のため南側の肩部分は未検出である。

溝状遺構 (SD1031)

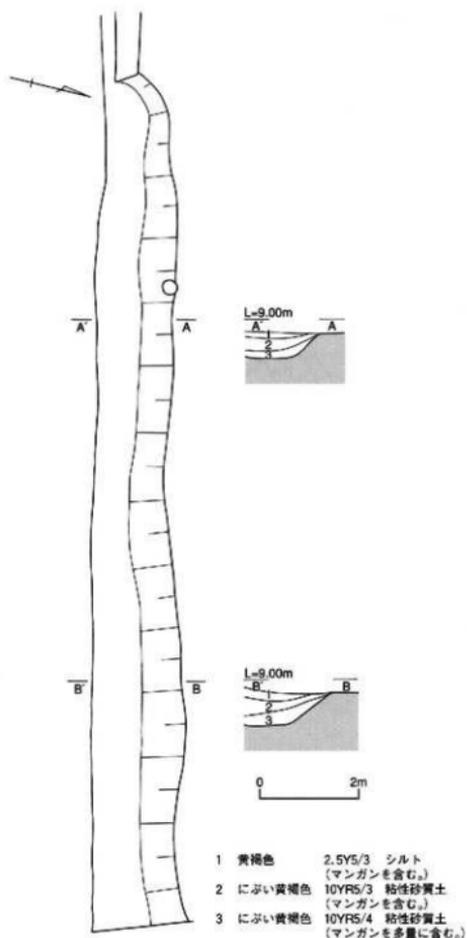
位置 Loc.D2・e II・nopqrs4~7 断面形 逆台形 全長 17.8m

土層 覆土は黄褐色系のシルト質土を主体とし、8層からなる。

遺物出土状況 覆土から土器片が出土している。図示できる遺物は、土師器皿1点である。

時期 古代 (平安時代 (11世紀)) である。

備考 東西の両端は調査区外に延びる。

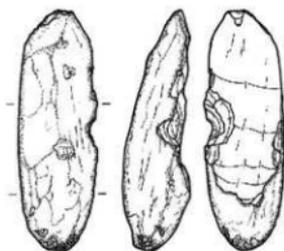


第661図 SD1020平・断面図 (S=1/100)



0 10cm

第662図 SD1020出土土器

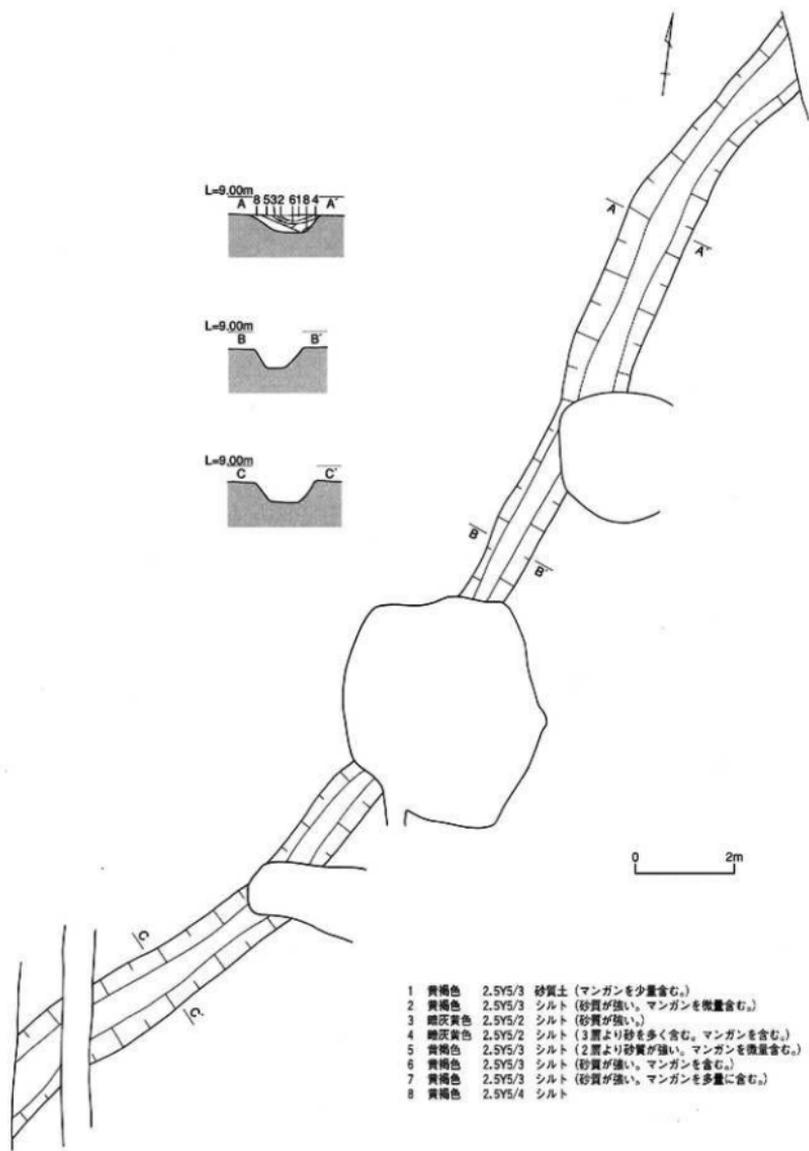


S562

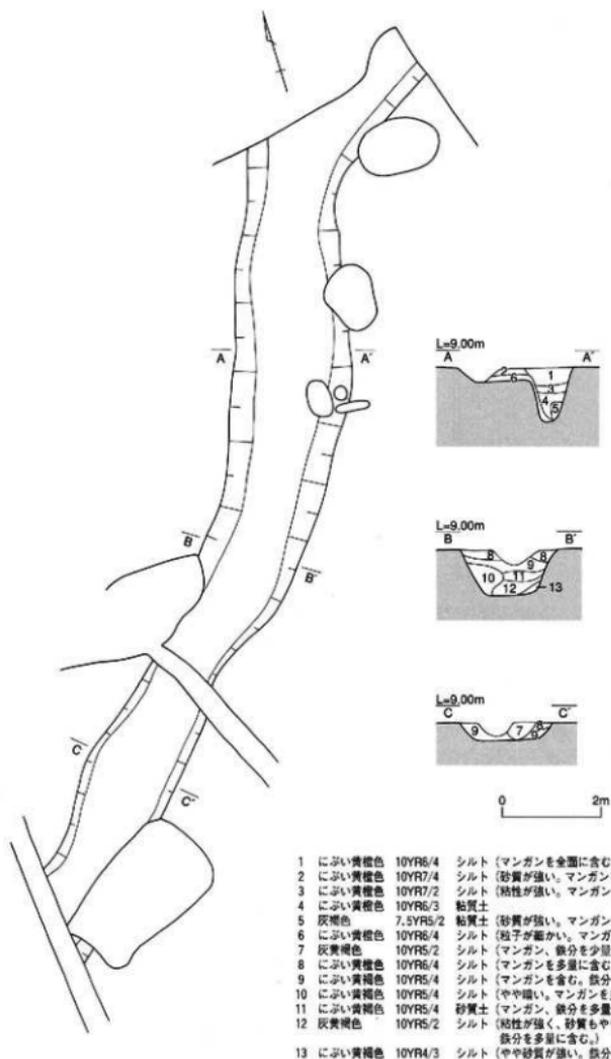


0 10cm

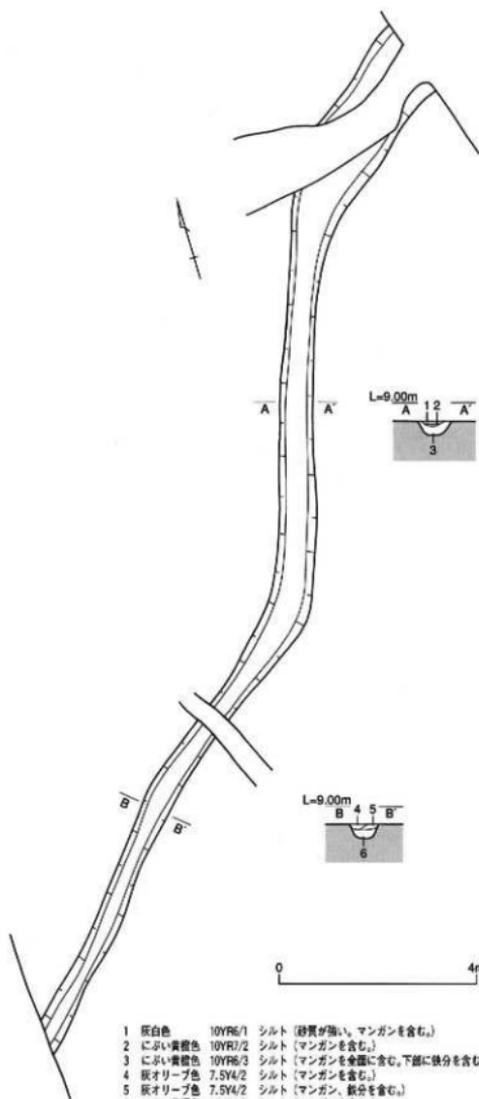
第663図 SD1020出土土器



第664図 SD1031平・断面図 (S=1/100)



第665図 SD1032平・断面図(1) (S=1/100)

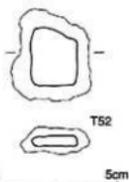


第666図 SD1032平・断面図(2) (S=1/100)

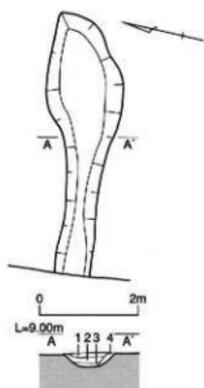
- |   |        |         |                                     |
|---|--------|---------|-------------------------------------|
| 1 | 灰白色    | 10YR6/1 | シルト (砂質が強い, マンガンを含む。)               |
| 2 | にぶい黄褐色 | 10YR7/2 | シルト (マンガンを含む。)                      |
| 3 | にぶい黄褐色 | 10YR6/3 | シルト (マンガンを含濁に含む, 下部に鉄分を含む, 炭化物を含む。) |
| 4 | 灰オリーブ色 | 7.5Y4/2 | シルト (マンガンを含む。)                      |
| 5 | 灰オリーブ色 | 7.5Y4/2 | シルト (マンガン, 鉄分を含む。)                  |
| 6 | にぶい黄褐色 | 10YR5/4 | シルト (マンガンを含む。)                      |



第667図 SD1031出土土器

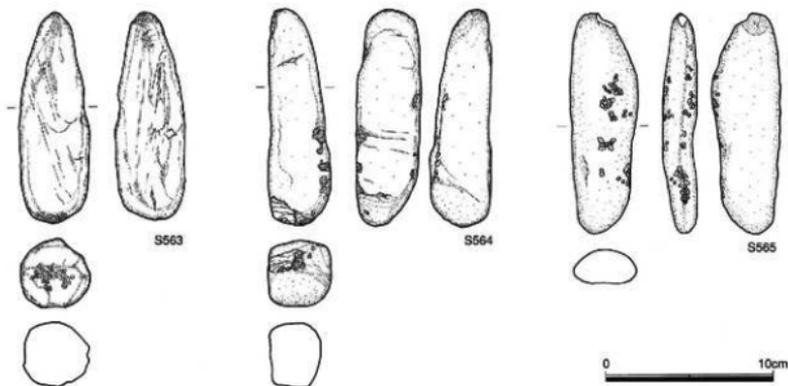


第668図 SD1032出土鉄器



- 1 黄褐色 2.5Y5/3 粘性砂質土  
(粒子が細かい。マンガンの土層片、小礫を含む。)
- 2 黄褐色 2.5Y5/6 粘性砂質土  
(粒子が細かい。マンガンを含む。)
- 3 黄褐色 2.5Y5/4 粘性砂質土 (マンガンを含む。)
- 4 暗灰黄色 2.5Y5/2 粘性砂質土 (マンガンを含む。)

第669図 SD1036平・断面図 (S=1/100)



第670図 SD1036出土石器

溝状遺構 (SD1032)

位置 Loc.D2・εⅡ・pqrs 4～7 断面形 逆台形 全長 21.6m

土層 覆土は黄橙色あるいは黄褐色のシルト質土を主体とし、19層からなる。土層の堆積状況から上層6層と下層13層に分けることができる。

遺物出土状況 覆土から鉄器片が出土している。図示できる遺物は、鉄片1点である。

時期 古代（平安時代）である。

備考 東西両端は調査区外に延びる。SD1066と同一遺構の可能性ある。

溝状遺構 (SD1036)

位置 Loc.D2・εⅡ・q 4～5 断面形 逆台形 全長 6.5m

土層 覆土は黄褐色の粘性砂質土を主体とし、4層からなる。

遺物出土状況 覆土から石器が出土している。図示できる遺物は、敲石3点である。石器については、第2遺構面に属する遺物である可能性がある。

時期 古代（平安時代）である。

備考 西端は調査区外に延びる。

溝状遺構 (SD1037)

位置 Loc.DE2・εαⅡ・rstabcde 3～4 断面形 半円形 全長 33.4m

土層 覆土は暗灰黄色あるいは灰黄色の粘性砂質土を主体とし、6層からなる。

遺物出土状況 覆土から土器片、石器、鉄器片が出土している。図示できる遺物は、土器が土師器杯、杯蓋、皿、鍋、陶器摺鉢、鉢、平瓦など10点、石器が石核、敲石の2点、鉄器が鉄片1点である。石器については、第2遺構面に属する遺物である可能性がある。

時期 古代～中世（9～14世紀）である。

備考 西側部分は調査区外に延びるため、西側肩部分は未検出である。

溝状遺構 (SD1039)

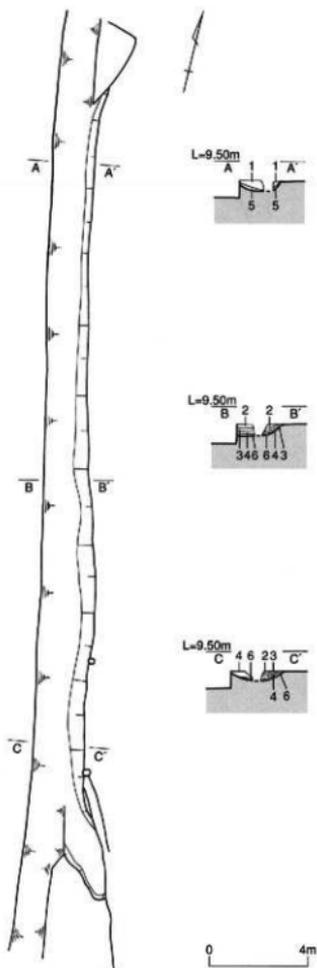
位置 Loc.DE2・εαⅡ・tbcdef 4～5 断面形 半円形 全長 30.1m

土層 覆土は黄褐色系のシルト質土を主体とし、14層からなる

遺物出土状況 覆土から土器片、石器、鉄器片が出土している。図示できる遺物は、土器が須恵器杯、杯蓋、皿、土師器甕、鉢、杯、杯蓋、皿など56点、石器が敲石6点、鉄片1点である。石器については、第2遺構面に属する遺物である可能性がある。

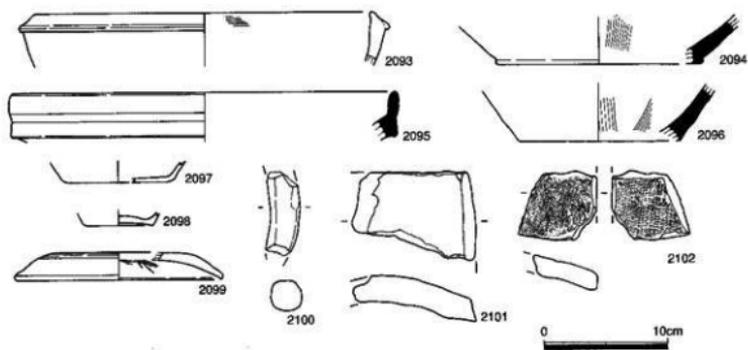
時期 古代（8～11世紀）である。

備考 北端は調査区外に延びる。

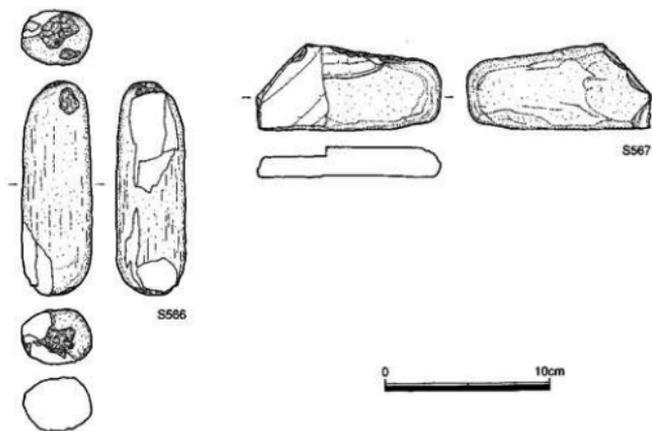


- |   |      |         |   |
|---|------|---------|---|
| 1 | 灰黄色  | 2.5Y6/2 | 粘性砂質土 (マンガンを含む。)                          |
| 2 | 灰黄色  | 2.5Y6/2 | 粘性砂質土 (粒子が細かい、マンガン、小礫を含む。)                |
| 3 | 黄褐色  | 2.5Y5/3 | 粘性砂質土 (粒子が細かい、マンガン、土器片を含む。)               |
| 4 | 暗灰黄色 | 2.5Y5/2 | 粘性砂質土 (粘性が強い、マンガンを含む。)                    |
| 5 | 暗灰黄色 | 2.5Y5/2 | 粘性砂質土 (粘性が強い。)                            |
| 6 | 暗灰黄色 | 2.5Y5/2 | 粘性砂質土 (粘性が強い。マンガンを多量に含む。灰オリブ色粘性砂質土を多く含む。) |

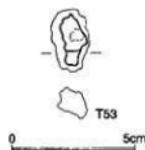
第671図 SD1037平・断面図 (S=1/200)



第672図 SD1037出土土器

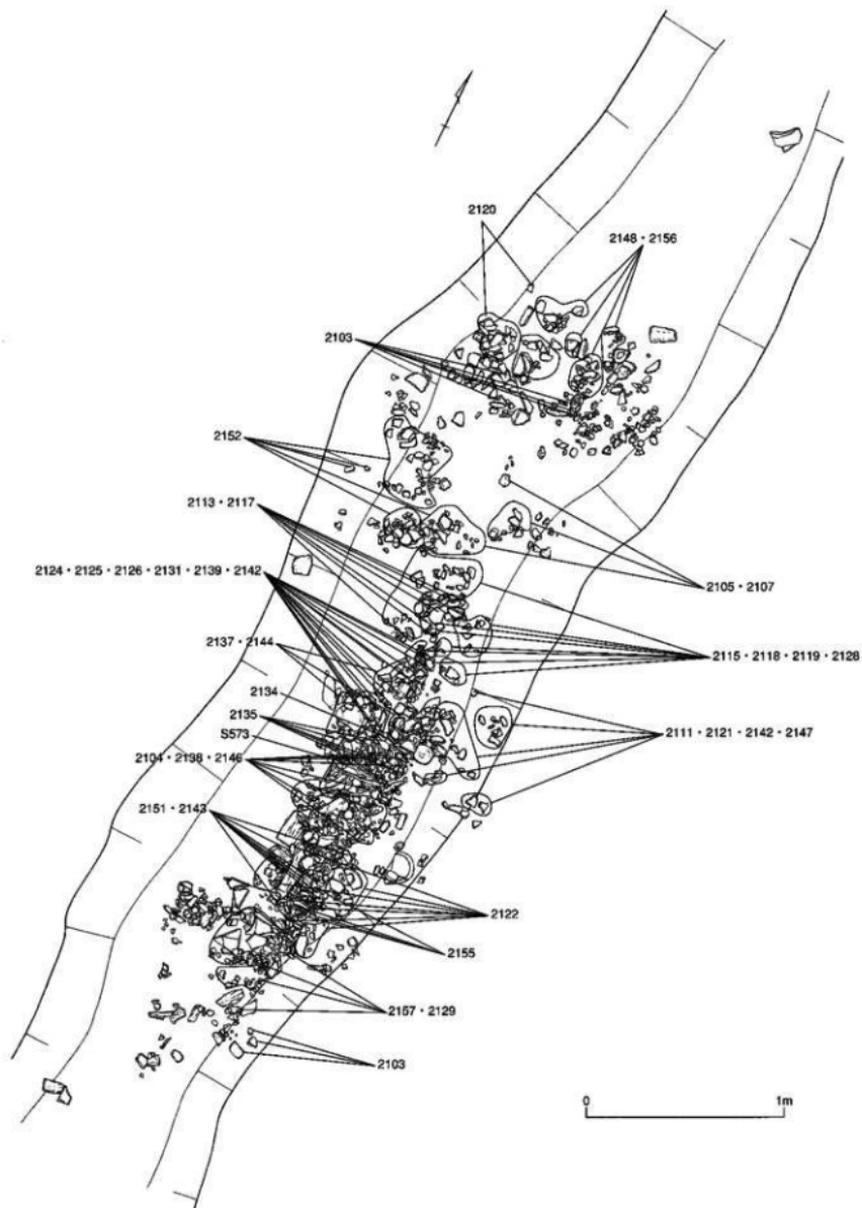


第673図 SD1037出土土器

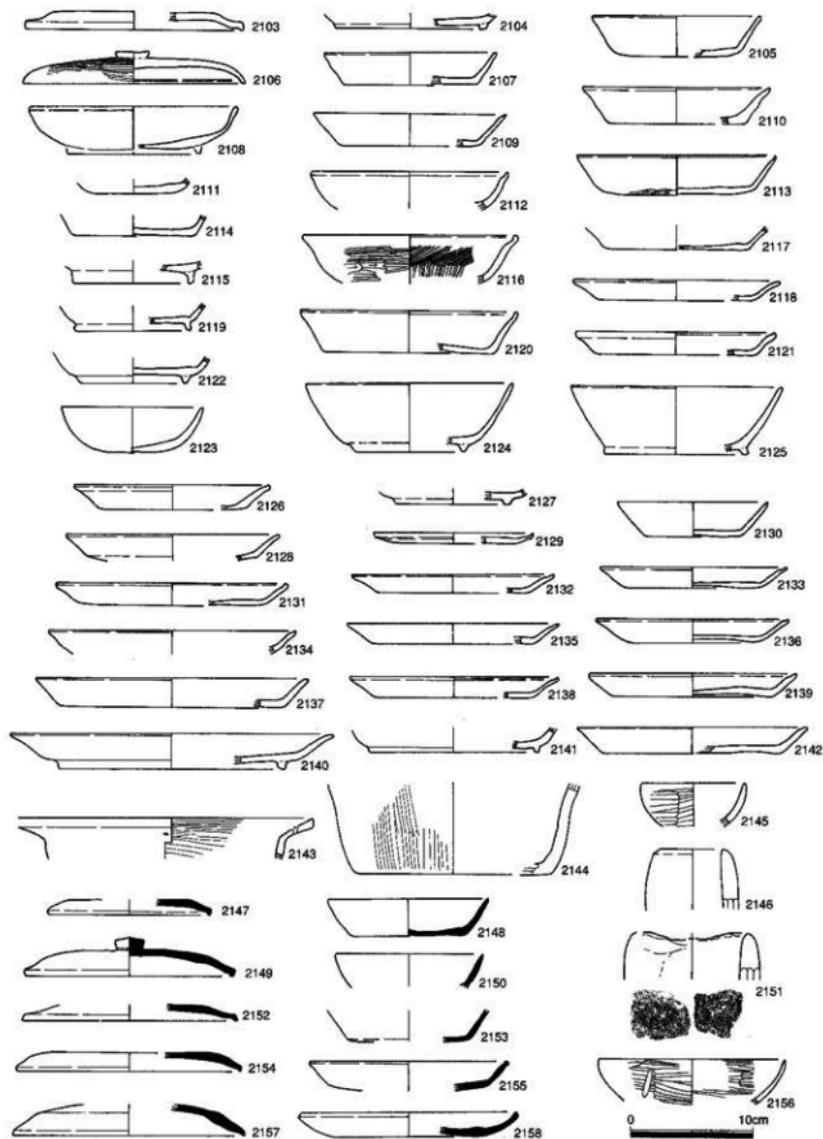


第674図 SD1037出土鉄器

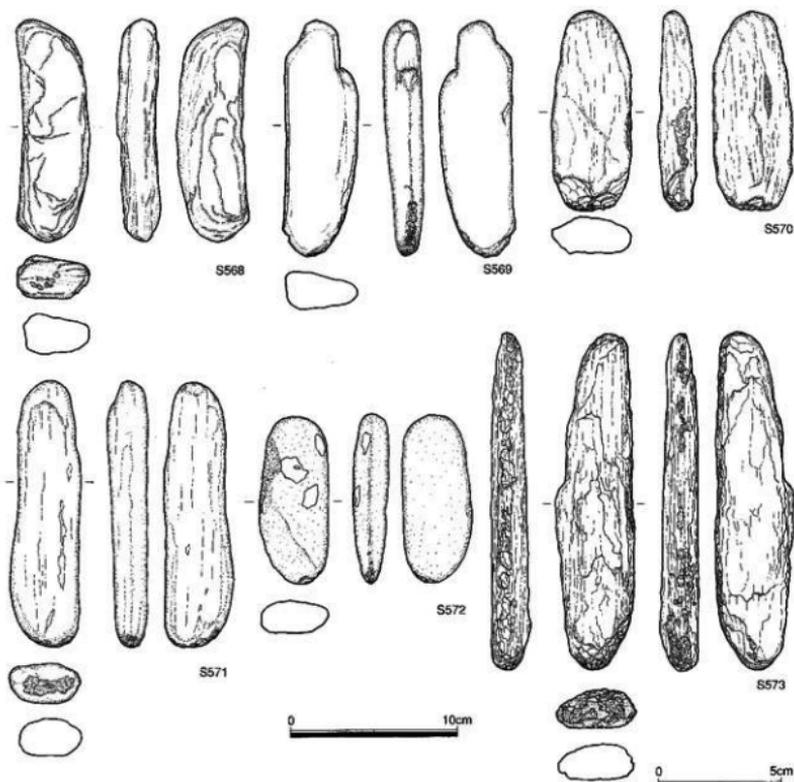




第676図 SD1039遺物出土状況図 (S=1/25)



第677图 SD1039出土土器



第678図 SD1039出土石器

溝状遺構 (SD1040)

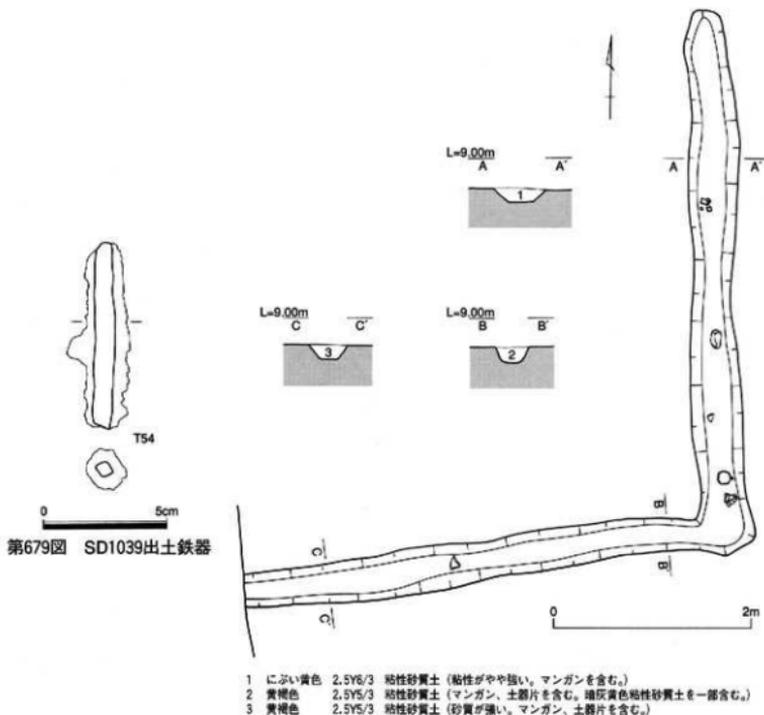
位置 Loc.E2・α II・bc 3～5 断面形 逆台形 全長 10.5m

土層 覆土は黄褐色系の粘性砂質土を主体とし、3層からなる

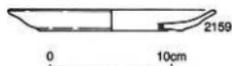
遺物出土状況 覆土から土器片が出土している。図示できる遺物は、土師器皿1点である。

時期 古代 (平安時代 (10世紀)) である。

備考 西端は調査区外に延びる。



第680図 SD1040平・断面図 (S=1/50)



第681図 SD1040出土土器

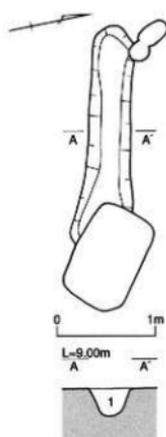
溝状遺構 (SD1041)

位置 Loc.E2・α II・d5 断面形 逆台形 全長 1.8m

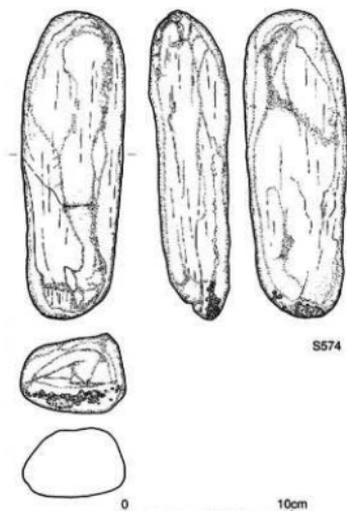
土層 覆土は黄褐色の粘性砂質土の1層からなる。

遺物出土状況 覆土から石器が出土している。図示できる遺物は、敲石1点である。石器については、第2遺構面に属する遺物である可能性がある。

時期 古代 (平安時代) である。



1 黄褐色 2.5Y5/3 粘性砂質土  
 (粒子が細かい、マンガ、石を含む)  
 第682図 SD1041平・断面図 (S=1/50)



第683図 SD1041出土石器

#### 溝状遺構 (SD1042)

位置 Loc.E2・αⅡ・e4～5 断面形 逆台形 全長 6.2m

土層 覆土は灰黄色、黄褐色の粘性砂質土の3層からなる。

遺物出土状況 覆土から土器片が出土している。図示できる遺物は、甕1点と平瓦1点である。甕は第2遺構面に属する遺物の流れ込みと考えられる。

時期 古代(平安時代)である。

備考 東西両端は調査区外に延びる。

#### 溝状遺構 (SD1043)

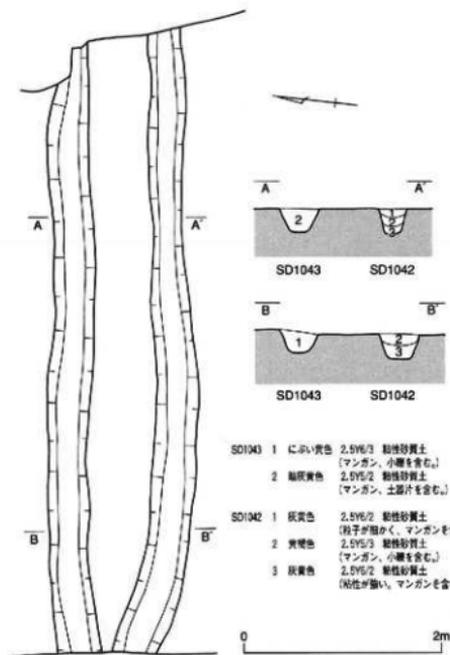
位置 Loc.E2・αⅡ・e4～5 断面形 逆台形 全長 6.3m

土層 覆土はにぶい黄色、暗灰黄色の粘性砂質土の2層からなる。

遺物出土状況 覆土から土製品が出土している。図示できる遺物は、管状土錘1点である。

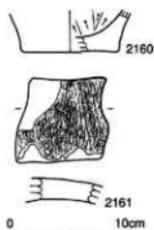
時期 古代(平安時代)である。

備考 東西両端は調査区外に延びる。



第684図 SD1042, SD1043平・断面図 (S=1/50)

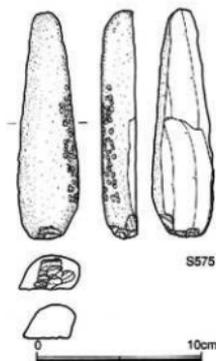
- SD1043 1 におい灰色 2.5Y6/3 粘性砂質土  
(マンガン、小礫を含む)  
2 暗灰黄色 2.5Y5/2 粘性砂質土  
(マンガン、土壌片を含む)
- SD1042 1 灰青色 2.5Y6/2 粘性砂質土  
(石子が粗かく、マンガンを含む)  
2 黄褐色 2.5Y5/3 粘性砂質土  
(マンガン、小礫を含む)  
3 灰黄色 2.5Y6/2 粘性砂質土  
(粘性が強い、マンガンを含む)



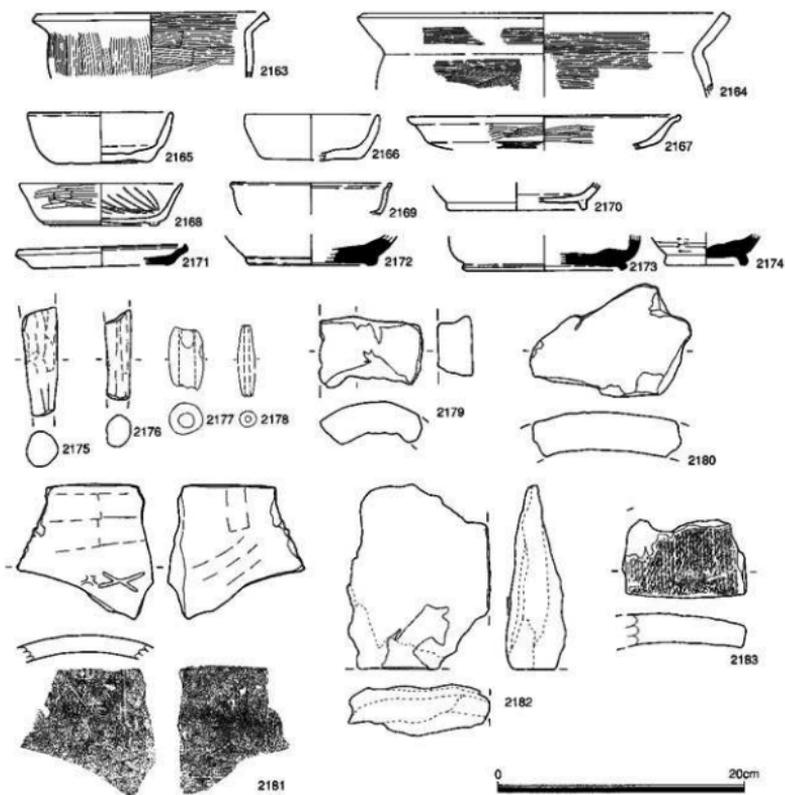
第685図 SD1042出土土器



第686図 SD1043出土土器



第687図 SD1044出土土器



第688図 SD1048出土土器(1)

溝状遺構 (SD1044)

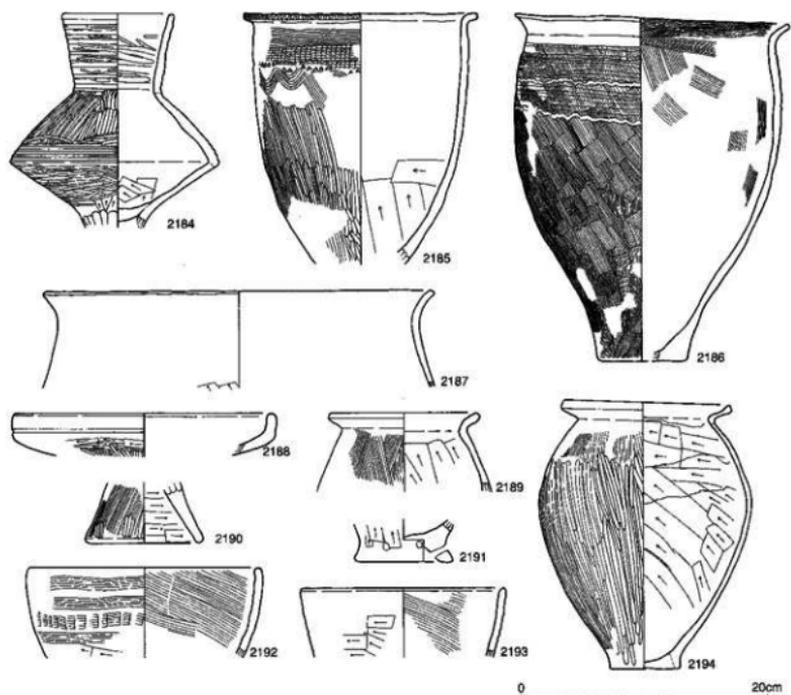
位置 Loc.D2・α II・defghi 3～5 断面形 逆台形 全長 20.2m

土層 覆土は黄褐色のシルト質土を主体とし、3層からなる。

遺物出土状況 覆土から石器が出土している。図示できる遺物は、敲石1点である。石器については、第2遺構面に属する遺物である可能性がある。

時期 古代(平安時代)である。

備考 平面図は第675図を参照。SD1048と同一遺構と考えられる。



第689図 SD1048出土土器（2）

溝状遺構（SD1048）

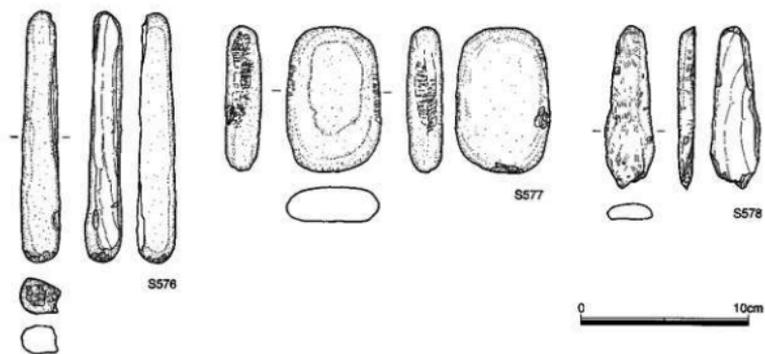
位置 Loc.DE2・ex II・ijk12~3 断面形 逆台形 全長 12.0m

土層 覆土は黄褐色系のシルト質土を主体とし、5層からなる。

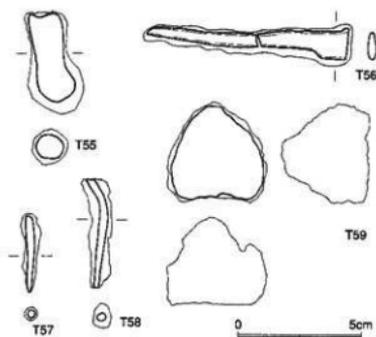
遺物出土状況 覆土から土器片、石器、鉄器が出土している。図示できる遺物は、土器類が須恵器壺、椀、皿、土師器甕、鍋、杯、皿、平瓦、磚、管状土錘など22点、石器が砥石、敲石の3点、鉄器が刀子、釘、鉄片など5点である。敲石については、第2遺構面に属する遺物である可能性がある。また、弥生式土器の壺、甕、鉢、高坏など11点も出土している。

時期 古代（8～11世紀）である。

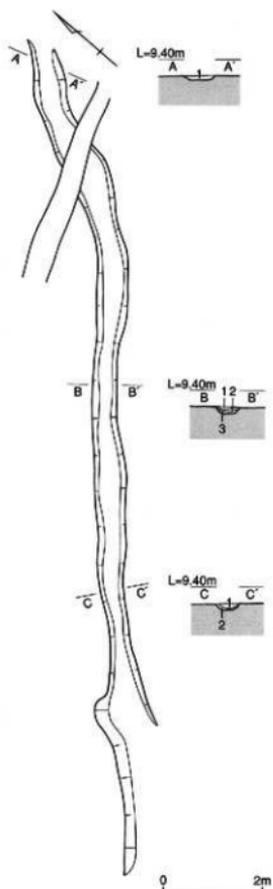
備考 平面図は第675図を参照。SD1044と同一遺構と考えられる。弥生式土器は流れ込みの遺物であるが、良好な資料であるためまとめて掲載した。



第690图 SD1048出土石器

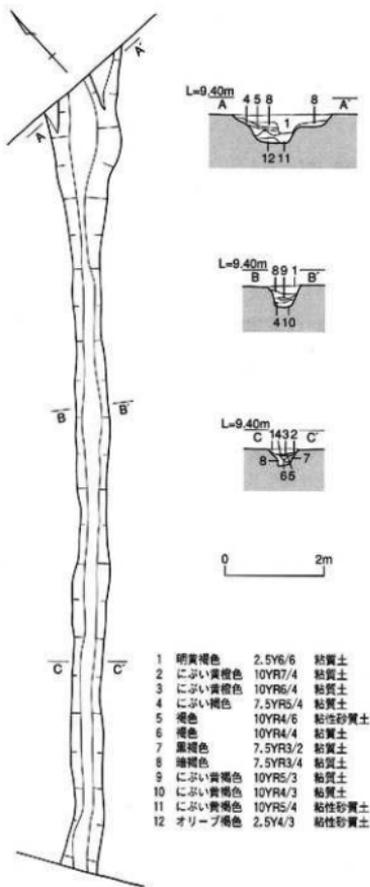


第691图 SD1048出土铁器



- |   |     |         |     |
|---|-----|---------|-----|
| 1 | 黄褐色 | 2.5Y5/6 | 粘質土 |
| 2 | 黄褐色 | 10YR5/6 | 粘質土 |
| 3 | 褐色  | 10YR4/4 | 粘質土 |

第692図 SD1060平・断面図 (S=1/100)

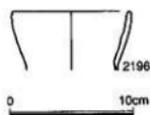


- |    |        |          |       |
|----|--------|----------|-------|
| 1  | 明黄褐色   | 2.5Y6/6  | 粘質土   |
| 2  | にぶい黄褐色 | 10YR7/4  | 粘質土   |
| 3  | にぶい黄褐色 | 10YR6/4  | 粘質土   |
| 4  | にぶい褐色  | 7.5YR5/4 | 粘質土   |
| 5  | 褐色     | 10YR4/6  | 粘性砂質土 |
| 6  | 褐色     | 10YR4/4  | 粘質土   |
| 7  | 黒褐色    | 7.5YR3/2 | 粘質土   |
| 8  | 暗褐色    | 7.5YR3/4 | 粘質土   |
| 9  | にぶい黄褐色 | 10YR5/3  | 粘質土   |
| 10 | にぶい黄褐色 | 10YR4/3  | 粘質土   |
| 11 | にぶい黄褐色 | 10YR5/4  | 粘性砂質土 |
| 12 | オリーブ褐色 | 2.5Y4/3  | 粘性砂質土 |

第693図 SD1062平・断面図 (S=1/100)



第694図 SD1060出土土器



第695図 SD1062出土土器

#### 溝状遺構 (SD1060)

位置 Loc.D2・εⅡ・hij1~3 断面形 逆台形 全長 16.6m

土層 覆土は黄褐色、褐色の粘質土を主体とし、3層からなる。

遺物出土状況 覆土から土器片が出土している。図示できる遺物は、須恵器杯1点である。遺物は古墳時代後期のものの流れ込みと考えられる。

時期 古代（平安時代）である。

備考 東西両端は調査区外に延びる。

#### 溝状遺構 (SD1062)

位置 Loc.D2・εⅡ・ijk1~3 断面形 逆台形 全長 15.7m

土層 覆土は褐色系、黄褐色系の粘質土を主体とし、12層からなる。

遺物出土状況 覆土から土器片が出土している。図示できる遺物は、須恵器壺1点である。

時期 古代（8~9世紀）である。

備考 東西両端は調査区外に延びる。

#### 溝状遺構 (SD1064)

位置 Loc.D2・εⅡ・ijk1 断面形 逆台形 全長 8.4m

土層 覆土は黄褐色系の粘質土を主体とし、16層からなる。西側は1~2段の段差をもつ。

遺物出土状況 覆土から土器片が出土している。図示できる遺物は、壺、壺など4点である。これらの土器は第2遺構面に属する遺物の流れ込みと考えられる。

時期 古代（平安時代）である。

備考 南北両端は調査区外に延びる。

#### 溝状遺構 (SD1072)

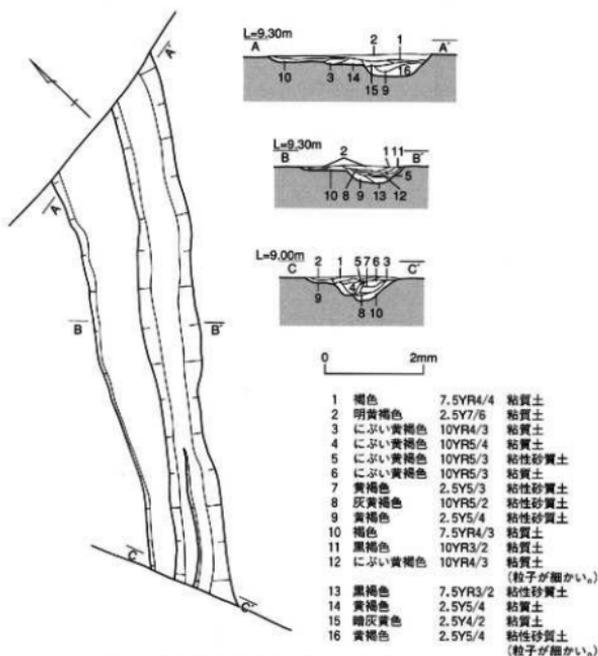
位置 Loc.D2・εⅡ・t20~2 断面形 逆台形 全長 8.5m

土層 覆土は黄褐色系の粘質土を主体とし、5層からなる。

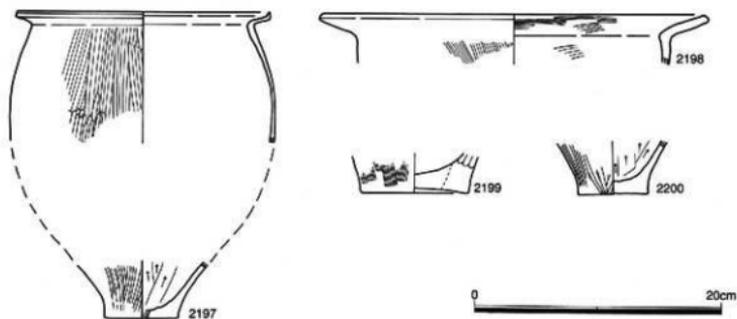
遺物出土状況 覆土から土器片が出土している。図示できる遺物は、須恵器壺1点である。

時期 古代（平安時代（9世紀））である。

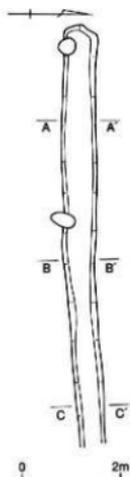
備考 東端は調査区外に延びる。



第696図 SD1064平・断面図 (S=1/100)

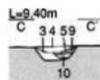
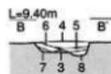
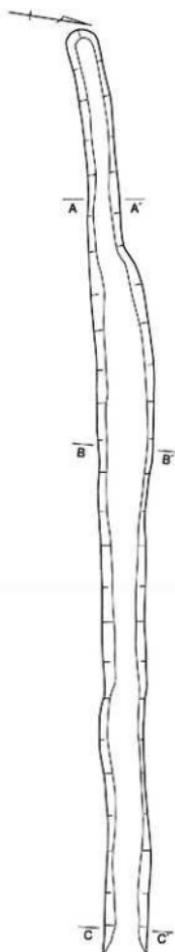


第697図 SD1064出土土器



- |   |        |         |       |
|---|--------|---------|-------|
| 1 | にぶい黄褐色 | 10YR4/3 | 粘性砂質土 |
| 2 | 暗褐色    | 10YR3/3 | 粘質土   |
| 3 | にぶい黄褐色 | 10YR4/3 | 粘質土   |
| 4 | オリーブ褐色 | 2.5Y4/4 | 粘性砂質土 |
| 5 | 褐色     | 10YR4/4 | 粘質土   |

第698図 SD1072平・断面図 (S=1/100)



- |    |        |         |       |
|----|--------|---------|-------|
| 1  | にぶい黄褐色 | 10YR4/3 | 粘性砂質土 |
| 2  | オリーブ褐色 | 2.5Y4/4 | 粘性砂質土 |
| 3  | オリーブ褐色 | 2.5Y4/5 | 粘質土   |
| 4  | オリーブ褐色 | 2.5Y5/4 | 粘質土   |
| 5  | 黄褐色    | 2.5Y5/3 | 粘性砂質土 |
| 6  | オリーブ褐色 | 2.5Y4/3 | 粘質土   |
| 7  | 暗褐色    | 10YR3/4 | 粘質土   |
| 8  | オリーブ褐色 | 2.5Y3/4 | 粘質土   |
| 9  | にぶい黄褐色 | 10YR4/3 | 粘質土   |
| 10 | オリーブ褐色 | 2.5Y4/4 | 粘質土   |

第699図 SD1073平・断面図 (S=1/100)

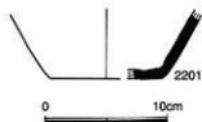
溝状遺構 (SD1073)

位置 Loc.DE2・α I II・ta19-2 断面形 逆台形 全長 18.8m

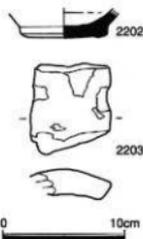
土層 覆土は黄褐色系の粘質土を主体とし、10層からなる。

遺物出土状況 覆土から土器片が出土している。図示できる遺物は、白磁碗、瓦の2点である。

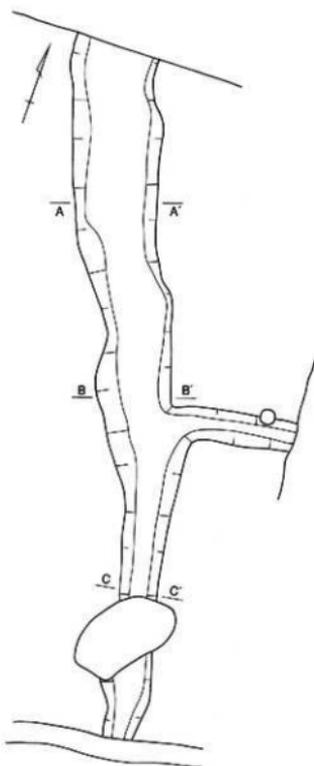
時期 古代～中世 (11～13世紀) である。



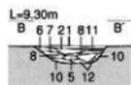
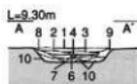
第700図 SD1072出土土器



第701図 SD1073出土土器



第702図 SD1078平・断面図 (S=1/100)



SD1078

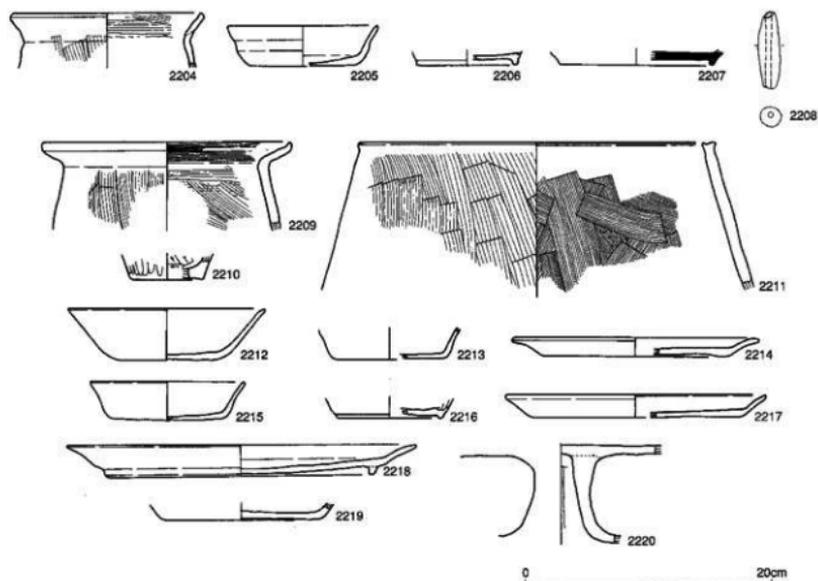
- |    |        |         |              |
|----|--------|---------|--------------|
| 1  | にぶい黄褐色 | 10YR5/3 | 粘質土          |
| 2  | にぶい黄褐色 | 10YR5/4 | 粘質土          |
| 3  | にぶい黄褐色 | 10YR4/3 | 粘質土          |
| 4  | 褐色     | 10YR4/4 | 粘質土          |
| 5  | にぶい黄褐色 | 10YR5/3 | 粘質土 (粒子が細かい) |
| 6  | にぶい黄褐色 | 2.5Y6/3 | 粘質土          |
| 7  | にぶい黄褐色 | 10YR5/4 | 粘質土          |
| 8  | にぶい黄褐色 | 10YR4/3 | 粘質土 (やや暗い)   |
| 9  | にぶい黄褐色 | 10YR5/4 | 粘質土          |
| 10 | にぶい黄褐色 | 10YR4/3 | 粘質土 (粒子が細かい) |
| 11 | にぶい黄褐色 | 10YR7/4 | 粘質土          |
| 12 | にぶい黄褐色 | 10YR5/4 | 粘質土 (粒子が細かい) |



SD1078

- |   |        |         |     |
|---|--------|---------|-----|
| 1 | にぶい黄褐色 | 10YR5/3 | 粘質土 |
| 2 | 灰黄褐色   | 10YR5/2 | 粘質土 |
| 3 | 褐色     | 10YR4/4 | 粘質土 |
| 4 | にぶい黄褐色 | 10YR4/3 | 粘質土 |
| 5 | にぶい黄褐色 | 10YR5/4 | 粘質土 |





第703図 SD1078出土土器

備考 東端は調査区外に延びる。

溝状遺構 (SD1078)

位置 Loc.E2・α I II・efg20~1 断面形 逆台形 全長 14.2m

土層 覆土は黄褐色系の粘質土を主体とし、17層からなる。

遺物出土状況 覆土から土器片が出土している。図示できる遺物は、須恵器杯、土師器甕、高杯、甕、杯、皿、管状土鍾など16点である。一部の土器は第2遺構面に属する遺物の流れ込みと考えられる。

時期 古代(8~10世紀)である。

備考 北端、東端は調査区外に延びる。

溝状遺構 (SD1081)

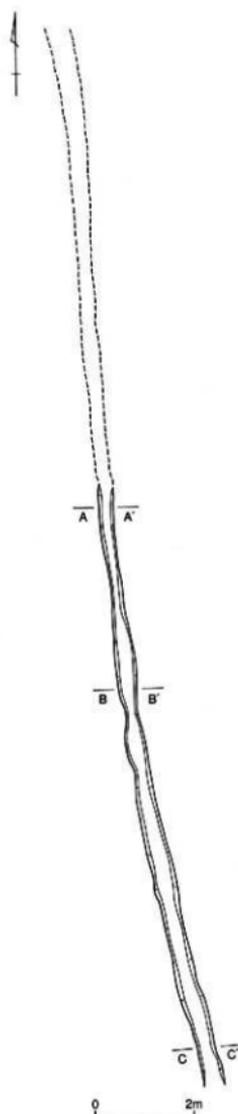
位置 Loc.E2・α I・cdefgl7~18 断面形 逆台形 全長 11.8m

土層 覆土は暗褐色の粘質土を主体とし、3層からなる。

遺物出土状況 覆土から土器片が出土している。図示できる遺物は、土師器杯1点である。

時期 古代(平安時代(10~11世紀))である。

備考 南北両端は調査区外に延びる。SD1088、1089と同一遺構である可能性がある。



L=9.00m  
A A

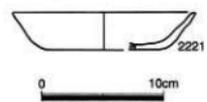


L=9.00m  
B B



L=9.00m  
C C

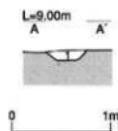
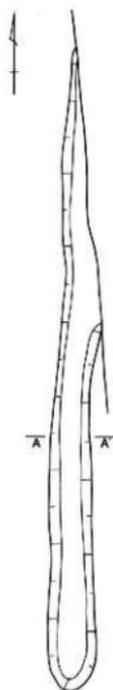
0 1m



第705図 SD1081出土土器

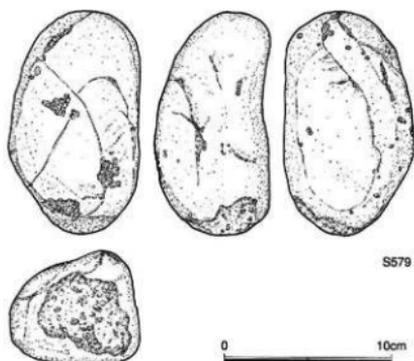
- 1 暗オリーブ色 5Y4/3 砂質土  
(しまりがある。下部に赤褐色のマンガンが沈着している。)
- 2 暗褐色 7.5YR3/3 粘質土  
(しまりがある。下部に赤褐色のマンガンが沈着している。)
- 3 暗褐色 10YR3/3 粘質土  
(しまりがある。下部に赤褐色のマンガンが沈着している。)

第704図 SD1081平・断面図 (平面・S=1/100、断面・S=1/20)



1 黄褐色 2.5Y5/3 粘性砂質土  
(マンガン、小石を含む。)

第706図 SD1084平・断面図 (S=1/50)



第707図 SD1084出土石器

溝状遺構 (SD1084)

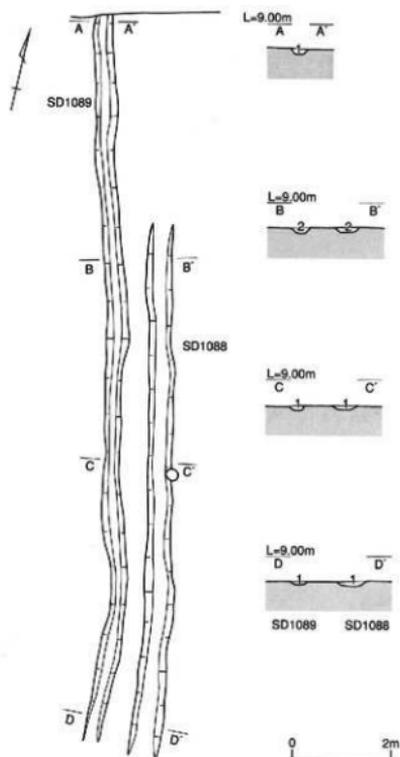
位置 Loc.D2・e I・pqrst18 断面形 逆台形 全長 15.9m

土層 覆土は黄褐色の粘性砂質土の1層からなる。

遺物出土状況 覆土から石器が出土している。図示できる遺物は、敲石1点である。石器については、第2遺構面に属する遺物である可能性がある。

時期 古代 (平安時代) である。

備考 北端は調査区外に延びる。



- SD1089 1 黄褐色 2.5Y5/4 シルト (マンガンを少量含む。土器片、1cm程度の礫を含む。)  
 2 黄褐色 2.5Y5/3 粘性砂質土 (マンガンを微量含む。5mm~1cm程度の未滴の礫を少量含む。)
- SD1088 1 黄褐色 2.5Y5/4 シルト (マンガンを少量含む。土器片、1~3cm程度の礫を含む。)  
 2 黄褐色 2.5Y5/3 粘性砂質土 (マンガンを含む。5mm未満礫を少量含む。)

第708図 SD1088.SD1089平・断面図 (S=1/100)

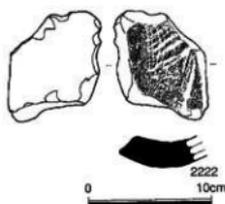
溝状遺構 (SD1088)

位置 Loc.E2・α I・klm16~17 断面形 逆台形 全長 10.7m

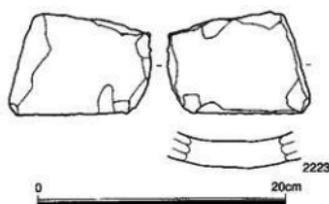
土層 覆土は黄褐色のシルト質土、粘性砂質土の2層からなる。

遺物出土状況 覆土から土器片が出土している。図示できる遺物は、丸瓦1点である。

時期 古代 (平安時代) である。



第709図 SD1088出土土器



第710図 SD1089出土土器

溝状遺構 (SD1089)

位置 Loc.E2・α I・klmn16~17 断面形 逆台形 全長 15.0m

土層 覆土は黄褐色のシルト質土、粘性砂質土の2層からなる。

遺物出土状況 覆土から土器片が出土している。図示できる遺物は、平瓦1点である。

時期 古代(平安時代)である。

備考 北端は調査区外に延びる。

溝状遺構 (SD1090)

位置 Loc.E2・α I・jklm16 断面形 逆台形 全長 15.0m

土層 覆土は黄褐色のシルト質土1層からなる。

遺物出土状況 覆土から土器片が出土している。図示できる遺物は、丸瓦1点である。

時期 古代(平安時代)である。

溝状遺構 (SD1095)

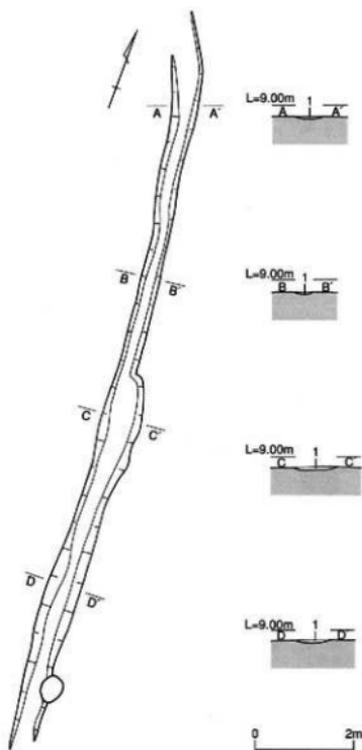
位置 Loc.E2・α II・no1 断面形 逆台形 全長 6.4m

土層 覆土はにぶい黄褐色の砂質土1層からなる。

遺物出土状況 覆土から土器片が出土している。図示できる遺物は、土器器杯、丸瓦の2点である。

時期 古代(平安時代(10~11世紀))である。

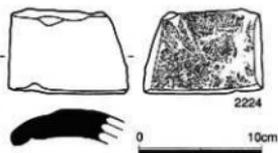
備考 南北両端は調査区外に延びる。



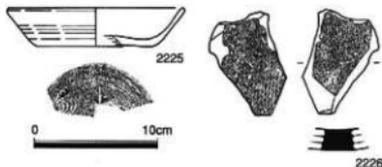
1 黄褐色 2.5Y5/4 シルト  
 (砂粒を含む。マンガ、鉄分を含む。2mm程度の礫を多く含む。)  
 第711図 SD1090平・断面図 (S=1/100)



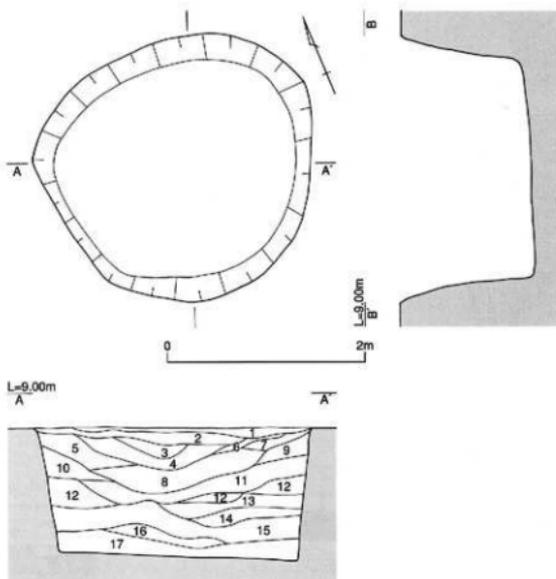
1 に近い黄褐色 10YR5/3 砂質土  
 (マンガ、砂粒を含む。5mm程度の礫を少量含む。)  
 第712図 SD1095平・断面図 (S=1/100)



第713図 SD1090出土土器



第714図 SD1095出土土器



- |    |        |         |       |   |
|----|--------|---------|-------|---|
| 1  | 黄褐色    | 2.5Y5/3 | 粘性砂質土 | (粒子が細かい。マンガ、炭化物、土器粒、小礫を含む。)             |
| 2  | 黄褐色    | 2.5Y5/4 | 粘性砂質土 | (砂質が強い。マンガ、炭化物、土器粒、小礫を含む。)              |
| 3  | 黄褐色    | 2.5Y5/3 | 粘性砂質土 | (マンガンを少量含む。粒子の細かい黒褐色粘性砂質土を含む。)          |
| 4  | にぶい黄褐色 | 10YR5/3 | 粘性砂質土 | (マンガ、小礫を含む。)                            |
| 5  | にぶい黄褐色 | 10YR5/4 | 粘性砂質土 | (マンガンを少量含む。)                            |
| 6  | にぶい黄褐色 | 10YR6/4 | 粘性砂質土 | (マンガンを全面に含む。炭化物を少量含む。)                  |
| 7  | 暗灰黄色   | 2.5Y5/2 | 粘性砂質土 | (鉄分を點状に含む。)                             |
| 8  | にぶい黄褐色 | 10YR5/4 | 粘性砂質土 | (マンガンを少量含む。)                            |
| 9  | 暗灰黄色   | 2.5Y5/2 | 粘性砂質土 | (マンガンを多量に含む。鉄分を少量含む。)                   |
| 10 | 黄褐色    | 2.5Y5/3 | 粘性砂質土 | (マンガ、土器粒を含む。)                           |
| 11 | オリブ褐色  | 2.5Y4/4 | 粘性砂質土 | (マンガ、小礫を含む。)                            |
| 12 | にぶい黄褐色 | 10YR4/3 | 粘性砂質土 | (マンガを少量含む。灰黄色粘質土を含む。)                   |
| 13 | 灰黄色    | 2.5Y6/2 | 粘性砂質土 | (マンガを少量含む。鉄分を多量に含む。)                    |
| 14 | にぶい黄褐色 | 10YR6/4 | 粘性砂質土 | (マンガンを全面に含む。下部に鉄分を多く含む。炭化物を少量含む。)       |
| 15 | 灰黄色    | 7.5Y5/2 | 粘質土   | (マンガ、1cm程度の礫を含む。褐色粘性砂質土、オリブ褐色粘性砂質土を含む。) |
| 16 | 黄褐色    | 10YR4/4 | 砂質土   | (マンガを含む。)                               |
| 17 | 灰オリブ色  | 7.5Y5/2 | 粘質土   | (粘性が非常に強い。)                             |

第715図 SE1001平・断面図 (S=1/50)

#### ④井戸 (SE)

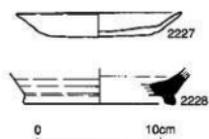
##### 井戸 (SE1001)

位置 Loc.D 2・ε II・q6~7 平面形 円形 断面形 逆台形

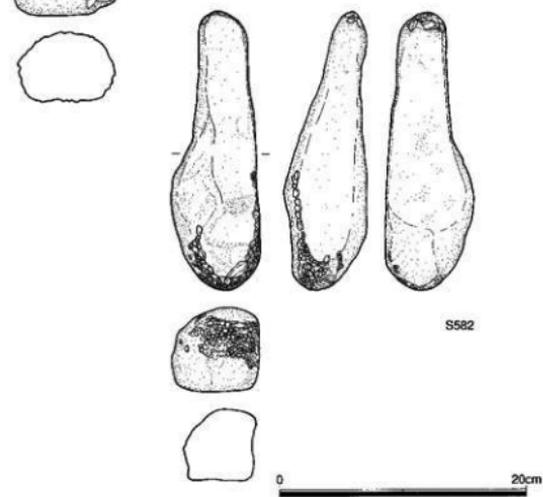
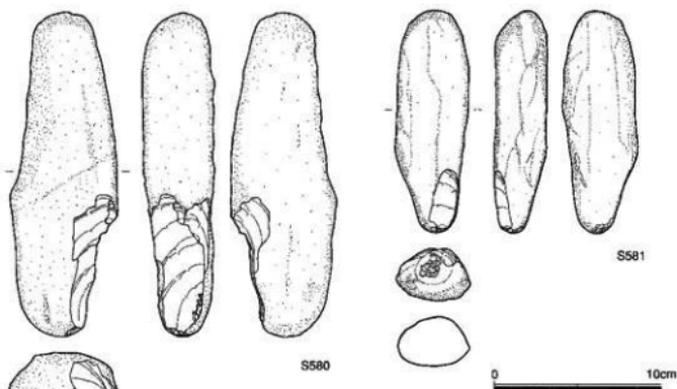
土層 覆土は、黄褐色系の粘性砂質土を主体とし、17層からなる。

遺物出土状況 覆土から土器片、石器が出土している。図示できる遺物は、土器が須恵器壺、土師器皿の2点、石器が礫石3点である。

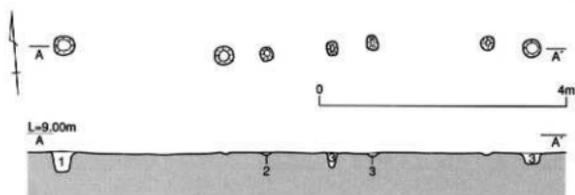
時期 古代 (平安時代 (10~11世紀)) である。



第716図 SE1001出土石器

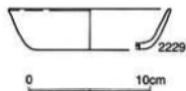


第717図 SE1001出土石器



- |   |        |         |       |
|---|--------|---------|-------|
| 1 | 褐色     | 10YR4/4 | 粘質土   |
| 2 | にぶい黄褐色 | 10YR5/3 | 粘性砂質土 |
| 3 | にぶい黄褐色 | 10YR5/4 | 粘性砂質土 |

第718図 SG1001平・断面図 (S=1/80)



第719図 SG1001出土土器

⑤柵列 (SG)

柵列 (SG1001)

位置 Loc.D2・e I～II・t20～1 全長 750cm 主軸方向 N-86° -W

土層 覆土は、褐色、にぶい黄褐色の粘性砂質土を主体とし、3層からなる。

遺物出土状況 覆土から土器片が出土している。図示できる遺物は、土師器杯1点である。

時期 古代 (平安時代 (9世紀)) である。

備考 主軸方向がSA1039とほぼ平行になることから、何らかの関連がある遺構と考えられる。

⑥土坑 (SK)

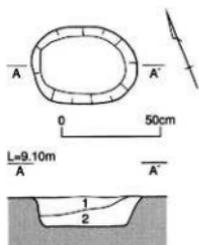
土坑 (SK1002)

位置 Loc.D2・δⅡ・a12 平面形 楕円形

土層 覆土は、灰色と灰黄色の粘性砂質土の2層からなる。

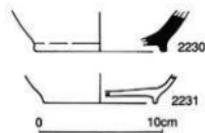
遺物出土状況 覆土から土器片が出土している。図示できる遺物は、須恵器壺、土師器杯の2点である。

時期 古代 (平安時代 (9世紀)) である。

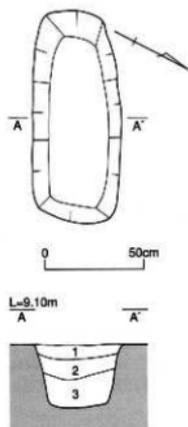


- 1 灰色 7.5Y6/1 粘性砂質土 (マンガンを多量に含む。土器片を含む。)
- 2 灰黄色 2.5Y6/2 粘性砂質土 (マンガンを含む。)

第720図 SK1002平・断面図 (S=1/25)

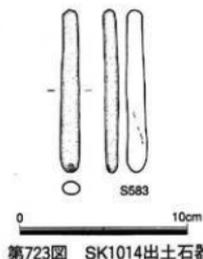


第721図 SK1002出土土器



- 1 にぶい黄褐色 10YR5/4 粘性砂質土 (マンガン、炭化物、小礫を含む。)
- 2 にぶい黄褐色 10YR5/4 粘性砂質土 (やや細かい。マンガン、炭化物、小礫を含む。)
- 3 黄褐色 2.5Y5/4 粘性砂質土 (粒子が細かい。マンガンを含む。)

第722図 SK1014平・断面図 (S=1/25)



第723図 SK1014出土石器

土坑 (SK1014)

位置 Loc.D2・8Ⅱ・c12 平面形 長方形

土層 におい黄褐色と黄褐色粘性砂質土の3層からなる。

遺物出土状況 覆土から石器が出土している。図示できる遺物は、敲石1点である。

時期 古代(平安時代)である。

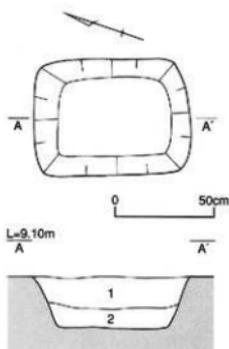
土坑 (SK1015)

位置 Loc.D2・8Ⅱ・c12 平面形 長方形

土層 覆土は浅黄色、におい黄色粘性砂質土の2層からなる。

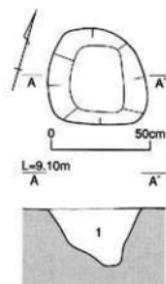
遺物出土状況 覆土から土器片が出土している。図示できる遺物は、平瓦1点である。

時期 古代(平安時代)である。



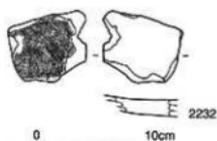
- 1 浅黄色 2.5Y7/3 粘性砂質土 (マンガンを少量に含む)  
 2 におい黄色 2.5Y6/4 粘性砂質土 (マンガンを1層より多量に含む)

第724図 SK1015平・断面図 (S=1/25)



- 1 におい黄色 2.5Y6/3 粘性砂質土  
 (マンガン、小礫、炭化物、土器片を含む)

第726図 SK1038平・断面図 (S=1/25)



第725図 SK1015出土石器



第727図 SK1038出土土器

土坑 (SK1038)

位置 Loc.D2・δⅡ・e14 平面形 方形

土層 覆土はにぶい黄色粘性砂質土の1層である。

遺物出土状況 覆土から土器片が出土している。図示できる遺物は、土師器皿1点である。

時期 古代 (平安時代 (10世紀後半)) である。

土坑 (SK1052)

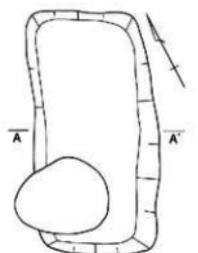
位置 Loc.D2・δⅡ・f13 平面形 方形

土層

遺物出土状況 覆土から鉄器が出土している。図示できる遺物は釘1点である。

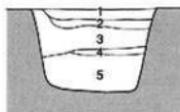
時期 古代 (平安時代) である。

備考 平面図は遺構配置図を参照。



0 50cm

L=9.10m  
A A'



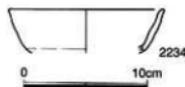
- |   |       |         |                               |
|---|-------|---------|-------------------------------|
| 1 | 黄褐色   | 2.5Y5/3 | 粘性砂質土 (やや粘性が強い。マンガンを含む。)      |
| 2 | にぶい黄色 | 2.5Y6/4 | 粘性砂質土 (マンガ、炭化物を含む。)           |
| 3 | 黄褐色   | 2.5Y5/4 | 粘性砂質土 (やや粘性が強い。マンガ、鉄分、小礫を含む。) |
| 4 | 黄褐色   | 2.5Y5/3 | 粘性砂質土 (やや砂質が強い。マンガ、鉄分を含む。)    |
| 5 | 黄褐色   | 2.5Y5/3 | 粘性砂質土 (やや暗い。マンガンを含む。)         |

第728図 SK1062平・断面図 (S=1/25)

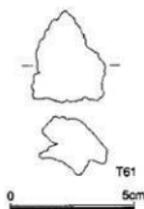


0 5cm

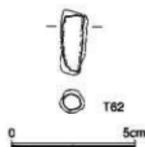
第729図 SK1052出土鉄器



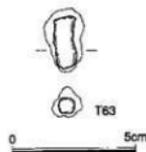
第730図 SK1062出土土器



第731図 SK1071出土鉄器



第732図 SK1078出土鉄器



第733図 SK1080出土鉄器

土坑 (SK1062)

位置 Loc.D2・δⅡ・fg16~17 平面形 長方形

土層 覆土は黄褐色を主体とし、5層からなる。

遺物出土状況 覆土から土器片が出土している。図示できる遺物は、土師器杯1点である。

時期 古代(平安時代(10世紀))である。

土坑 (SK1071)

位置 Loc.D2・δⅡ・m14 平面形 楕円形

土層

遺物出土状況 覆土から鉄器が出土している。図示できる遺物は、鉄片1点である。

時期 古代(平安時代)である。

備考 平面図は遺構配置図を参照。

土坑 (SK1078)

位置 Loc.D2・δⅡ・q11 平面形 長方形

土層

遺物出土状況 覆土から鉄器が出土している。図示できる遺物は、鉄片1点である。

時期 古代(平安時代)である。

備考 平面図は遺構配置図を参照。

土坑 (SK1080)

位置 Loc.D2・δⅡ・r12 平面形 長方形

土層

遺物出土状況 覆土から鉄器が出土している。図示できる遺物は、釘1点である。

時期 古代(平安時代)である。

備考 平面図は遺構配置図を参照。付近の包含層から石帯(第934図 S614)が出土している。